

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BA0101	基礎ゼミナール	1年/前期	1
担当教員		科目区分	
服部美穂 山口貴子 三浦藍 藏本直子 櫻井香 川上友美 近藤絢弓		基礎科目-専門学修の基礎	

講義目的

基礎ゼミナールは1年生前期の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的技能や知的探究心を鍛錬することを目的にしている。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育てることを目的とする。

授業内容

これから大学で勉強していく上で必要な基礎的技能として下記のことを学習する。

- ・大学生活・社会生活におけるマナー（受講方法、メール、訪室時等）
- ・レポート・プレゼンテーション資料作成に必要なPC基本操作（Word、Excel、PowerPoint）
- ・レポートの書き方（形式、記載内容、文献引用のルール、剽窃行為等）

知的探究心を鍛錬するため、また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育むために下記のことを学習する。

医療・保健・看護に関連するテーマを用いて、9~10名程度の少人数のグループで討論を通しながら、関心あるテーマに関する理解を深めることができる。さらに文献検索等を通して理解を深めたことをふまえ、自分なりに考えをまとめて人に伝える工夫をすること、他者との討論を通して異なる意見を受けとめ、それを取り入れさらに理解を深めることができる。これらを通して、理解したテーマについての学びをレポートにまとめることができる。

- ・文献検索の方法（図書館の利用方法、文献の種類等）
- ・グループワーク・グループディスカッションの方法、実践
- ・プレゼンテーションの方法、実践（司会、書記、タイムキーパー等の役割）

留意事項（履修条件他）

- ・ゼミナールには積極的に参加すること。
- ・「コンピュータ基礎・情報処理法」で学習することを活用すること。
- ・授業計画および学習課題（予習・復習）は、図書館実習の開催時期、学習の理解状況等により、各担当教員で進度の変更をすることがある。
- ・医療・保健・看護に関連するテーマは、各担当教員の指示に従う。

教材

- ・知へのステップ第3版：学習技術研究会編、くろしお出版、2013、1,944円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	コースオリエンテーション	第I部第1章「スタディスキルズとは」について読み、大学で何をどのように学ぶのか考え、今後の計画を立てる。自己紹介を兼ねて発表し、親睦を深める。
2	大学生活・社会生活におけるマナー（受講方法、メール、訪室時等）	第II部第2章「ノート・テイキング」について読み、講義の受講方法を理解し、実践する。アポイントの取り方、メールでの連絡方法、訪問の基本を理解し、実践する。
3	図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）	第III部第5章「大学図書館における情報収集」を読み、図書館の利用方法を理解する。
4	医療・保健・看護に関連するテーマの決定	第II部第3章「リーディングの基本スキル」について読み、興味・関心のあるテーマを決定する。
5	図書館の利用方法、文献検索方法（図書館実習）	第III部第6章「インターネットによる情報収集」を読み、文献検索方法を理解する。
6	文献検索・文献の整理	第III部第7章「情報の整理」について読み、決定したテーマに関する文献検索、文献の整理をする。
7	文献の整理・要約	第II部第4章「より深いリーディングのために」について読み、テーマに関する文献の要約をする。
8	グループワーク・グループディスカッション	テーマに関する文献の要約をふまえ、グループワーク・グループディスカッションを通して理解を深める。
9	グループワーク・グループディスカッション	テーマに関する文献の要約をふまえ、グループワーク・グループディスカッションを通して理解を深める。
10	レポートの書き方	第IV部第8章「アカデミック・ライティングの基本スキル」について読み、レポートの書き方（形式、記載内容、文献引用のルール、剽窃行為等）を理解する。

11	まとめ	第IV部第 9 章「効果的なアカデミック・ライティングのために」について読み、レポート作成に必要な PC 基本操作 (Word、Excel) を理解する。
12	まとめ	第IV部第 10 章「パソコンによるライティング・スキル」について読み、レポート作成に必要な PC 基本操作 (Word、Excel) を実践する。
13	発表準備	第V部第 11 章「プレゼンテーションの基本スキル」について読み、プレゼンテーション資料作成に必要な PC 基本操作 (Word、Excel、PowerPoint) を理解し、実践する。
14	発表	第V部第 12 章「わかりやすいプレゼンテーションのために」について読み、プレゼンテーションの方法を理解し、司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。
15	発表	第V部第 12 章「わかりやすいプレゼンテーションのために」について読み、プレゼンテーションの方法を理解し、司会、書記、タイムキーパー等の役割を実践する。

評価方法 および評価基準

課題レポート 50%、授業態度 50%

- S (100~90 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能が十分身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に誠実に取り組むことができる。
- A (89~80 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能が概ね身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に誠実に取り組むことができる。
- B (79~70 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能が不十分な点はあるが身につき、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に取り組むことができる。
- C (69~60 点) : 大学で勉強していく上で必要な基礎的技能について考えることができ、知的探究心を鍛錬するための文献検索方法、討論、まとめ、発表、レポート作成に最低限取り組むことができる。
- D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BA0201	人間環境学	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
片山幸士		基礎科目-専門学修の基礎	

講義目的		
人間の存在している空間は主に生物圏である。この構成要素は大気、陸域、海などである。これらと人間の関わりについて講述する。この講義を通して、過去、現在、さらに未来にわたって、人間と環境とのあり方を学ぶことを通じて大学と学問の意義、そして大学理念人間環境学を理解する。		
授業内容		
宇宙空間に水の惑星である地球が誕生し、そこに奇跡的に生命を育むことができた。その生命は進化を続け、約 20 万年前にホモサピエンス（現生人類）が登場した。 人類は自然環境のなかに存在するとともに、自然への働きかけを続けてきている。時間的、空間的に余裕のあった時代から、現在は人口増加、食糧、エネルギーや自然破壊といった種々の問題に直面している。これらの問題を具体的に講述する。		
留意事項（履修条件他）		
人間環境学は本学の建学理念をなすもので、学生全員にとって「必須課目」であることに留意せよ。		
教材		
板書を中心に講述する。人間環境学用のノートを必ず準備すること。配布資料はノートに貼付すること。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	地球と生命	
2	環境とは	自然環境、精神環境、歴史・文化環境
3	人口・食糧・エネルギー・環境	配布資料をもとに考察
4	水の循環	自然界における水循環と利用
5	水の特性	水の物理的・化学的特性と生命
6	岩石・土壤・植物	岩石の風化と土壤生成
7	森林の機能	物質資源および環境資源
8	大気圏の科学	空気、オゾン層、紫外線
9	放射線と人間（1）	放射線、放射能、放射性物質
10	放射線と人間（2）	核分裂、核融合、放射線の利用
11	中央アジア・アラル海の消滅	人間活動によって、世界第4位だったアラル海が消滅
12	水俣病（1）	四大公害病の水俣病とは。映像を使用
13	水俣病（2）	患者の発生から原因究明
14	水俣病（3）	なぜ水俣病は公害の原点と言われているのか
15	公害から環境問題へ	1980年代に公害問題から環境問題に何故変わったか
評価方法 および評価基準		
期末試験 80%、確認テスト 20%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BA0301	医療キャリアの基礎	1年/前期	1
担当教員			科目区分
石井英子 森川英子 山田裕子 藏本直子 大林実菜 (寒川)		基礎科目-専門学修の基礎	

講義目的					
<ol style="list-style-type: none"> 将来の医療キャリアの形成のために必要な考え方や看護職の基本的な仕事内容を理解する。 医療職業人としての必要な接遇について基本的な態度を培う。 上記1及び2を通して4年間のキャリア形成について具体的な目標を描くことができる。 					
授業内容					
<p>本講座の医療キャリアは、人として、看護師として成長していくための生涯のプロセスと理解し、看護師を基本に、保健師、助産師、養護教諭になるための道筋や教育の仕組みを学ぶ。</p> <p>また、専門職として人の心と体の両面を支え、人々の健康を見守る職務に求められる最低限度の接遇を身につける。</p>					
留意事項（履修条件他）					
各時間には専門職としての服装、態度、エチケット等を体現して授業に臨むこと					
教材					
篠田弥寿子「心の届くマナーと声かけ 介護・福祉・医療」ひかりのくに 2005年					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	看護職としてのキャリア形成 4/11	<ul style="list-style-type: none"> 看護職のイメージができた体験を思い起こして授業に参加する 看護職は資格が生涯を通じた自立した職業である認識の整理する 計画的にスキル・キャリアアップを展望し自分の人生設計を描く 			
2	看護師の仕事とは 4/18	<ul style="list-style-type: none"> 看護師との今までのつながりを整理して授業に臨む 看護師の基本的な仕事内容を理解する 看護師に必要な基本的な態度について考え、まとめる 			
3	養護教諭の仕事とは、養護教諭になるには 4/25	<ul style="list-style-type: none"> 小・中・高校時代における保健室の思い出を整理して授業に参加する 児童生徒の立場から見えていなかった養護教諭の仕事を整理する 			
4	助産師の仕事とは 5/2	<ul style="list-style-type: none"> 誕生時の話を助産師とのつながりで保護者に聞き、授業参加する 将来のキャリア設計に助産師を位置づけるための課題を整理する 			
5	保健師の仕事について実際場面と特徴を知る 5/9	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の保健師活動のニュースを調べて授業に臨む 将来のキャリア設計に保健師を位置づけるための課題を整理する 			
6	看護職に必要なマナー・接遇	7/5(火)	4限		
7	看護職に必要なマナー・接遇		5限		
8	グループワーク 5/16	<ul style="list-style-type: none"> 教材の下読みで授業に臨む 過去の気持ちのよかったマナーや接遇を受けた経験を掘り起こす 患者の立場になり授業の効果を実感し、言語化して認識を深める 			
評価方法 および評価基準					
期末試験 %、課題レポート 50%、授業態度やグループワーク参加度 50%					
S (100~90点) : 過去の体験や将来像などを含め、看護職としての自身の意見や考察をまとめている。					
A (89~80点) : 授業で得た知識に考察や意見を交えてまとめている。					
B (79~70点) : 授業で得た知識に感想をまとめている。					
C (69~60点) : 授業の知識をまとめている。					
D (60点未満) : Cのレベルに達していない					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0101	英語 I	1学年/前期	2
担当教員		科目区分	
西牟田祐美子		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場すぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授業内容		
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。 日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。		
留意事項（履修条件他）		
積極的に授業に参加することが望まれる。		
教材		
適宜教材を印刷して渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、自己紹介	
2	発音/スピーキング、リーディング	
3	リスニング/クラスルームイングリッシュ、歌手に関するリサーチ	自己紹介用の写真を集める
5	プレゼン、GWについてプレゼンの準備	文章を覚える/プレゼンの練習
6	病氣、ペアワーク	質問に答える/辞書を使う
7	マインドマップ/病氣、経験したことを書く	クロスワード
8	リスニング、ロールプレイ	歌や歌手について調べる
9	グループワーク、患者さんとの会話	ダイアローグ A と B を読む
10	ペアワーク	ダイアローグを覚える
11	ダイアローグ	
12	復習/経験を尋ねる	提案を書き出す
13	プレゼン/スキットを覚える、クイズ、推薦する	
14	復習/夏休み	テスト勉強
15	テスト	
評価方法 および評価基準		
筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5% の総合得点で 100 点満点とする。 S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。 A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。 B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。 C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。 D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0201	英語Ⅱ	1学年/前期	2
担当教員		科目区分	
西牟田祐美子		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場すぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授業内容		
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。 日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。		
留意事項（履修条件他）		
積極的に授業に参加することが望まれる。		
教材		
適宜ハンドアウトを渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション	家族の血液型
2	月日 曜日 診断の予約を入れる	家族の誕生日
3	個人情報、問診票	問診票
4	好き嫌い、バイタルサイン	インタビューの準備
5	頻度、健康アドバイス	健康調査
6	能力体力、簡単な健康診断	調査結果レポート
7	家族、基本的な身体部位	身体部位の復習
8	外見、有名人	人の特徴を表す
9	職業、病院内の仕事	単語の確認
10	時間、シフト計画	シフト計画を立てる
11	仕事の情報、質問	自分のバイトについて説明する
12	過去の経験、病歴	最近の旅行について説明する
13	スポーツ、運動、健康	スポーツについて説明する。
14	復習	復習
15	テスト	
評価方法 および評価基準		
筆記試験 50%、課題レポート等 30%、授業態度 20%の総合得点で 100 点満点とする。		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に満たしている。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0102	英語Ⅰ	1年/前期	2
BB0202	英語Ⅱ	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
Cabrido Erwin Figarola		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的																																																
This course is designed for students with a basic knowledge of general English, who now require an elementary course in nursing.																																																
授業内容																																																
The topics reflect the latest developments in nursing, making them immediately relevant to students' needs. Each topic uses clearly defined language and function objectives.																																																
留意事項（履修条件他）																																																
The students will be required to participate actively in class.																																																
教材																																																
English for Nursing 1 by Rose Wright and Bethany Cagnol, Pearson Longman, ISBN 9781408269930																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内 容</th><th>学習課題（予習・復習）</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Meeting Colleagues</td><td>Introductions, Schedule, Meeting patients and visitors</td></tr> <tr><td>2</td><td>Nursing Assessment</td><td>Checking patient details, Describing symptoms</td></tr> <tr><td>3</td><td>Nursing Assessment</td><td>Assessing common childhood diseases, Taking a blood sample</td></tr> <tr><td>4</td><td>The Patient Ward</td><td>Monitoring body temperature, The patient ward</td></tr> <tr><td>5</td><td>The Patient Ward</td><td>Nursing duties, Qualities of a responsible nurse</td></tr> <tr><td>6</td><td>Food and Measurements</td><td>Hospital food and beverages, Measurements and quantities</td></tr> <tr><td>7</td><td>Food and Measurements</td><td>Helping a patient order, Assisting the patient at mealtimes</td></tr> <tr><td>8</td><td>The Body and Movement</td><td>Limbs and joints, Torso and head</td></tr> <tr><td>9</td><td>The Body and Movement</td><td>Setting goals and giving encouragement, Documenting ROM exercises</td></tr> <tr><td>10</td><td>Medication</td><td>Medication routes and forms, Dosages and frequency</td></tr> <tr><td>11</td><td>Medication</td><td>Side effects, Communicating with relatives</td></tr> <tr><td>12</td><td>The Hospital Team</td><td>Moving and handling patients, Communicating with team members</td></tr> <tr><td>13</td><td>The Hospital Team</td><td>Ordering supplies, Giving simple safety instructions</td></tr> <tr><td>14</td><td>Recovery and Assessing the Elderly</td><td>Caring for a patient in the recovery room, Removing sutures</td></tr> <tr><td>15</td><td>Recovery and Assessing the Elderly</td><td>Talking about old age, Assessing an elderly care home resident</td></tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	Meeting Colleagues	Introductions, Schedule, Meeting patients and visitors	2	Nursing Assessment	Checking patient details, Describing symptoms	3	Nursing Assessment	Assessing common childhood diseases, Taking a blood sample	4	The Patient Ward	Monitoring body temperature, The patient ward	5	The Patient Ward	Nursing duties, Qualities of a responsible nurse	6	Food and Measurements	Hospital food and beverages, Measurements and quantities	7	Food and Measurements	Helping a patient order, Assisting the patient at mealtimes	8	The Body and Movement	Limbs and joints, Torso and head	9	The Body and Movement	Setting goals and giving encouragement, Documenting ROM exercises	10	Medication	Medication routes and forms, Dosages and frequency	11	Medication	Side effects, Communicating with relatives	12	The Hospital Team	Moving and handling patients, Communicating with team members	13	The Hospital Team	Ordering supplies, Giving simple safety instructions	14	Recovery and Assessing the Elderly	Caring for a patient in the recovery room, Removing sutures	15	Recovery and Assessing the Elderly	Talking about old age, Assessing an elderly care home resident
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	Meeting Colleagues	Introductions, Schedule, Meeting patients and visitors																																														
2	Nursing Assessment	Checking patient details, Describing symptoms																																														
3	Nursing Assessment	Assessing common childhood diseases, Taking a blood sample																																														
4	The Patient Ward	Monitoring body temperature, The patient ward																																														
5	The Patient Ward	Nursing duties, Qualities of a responsible nurse																																														
6	Food and Measurements	Hospital food and beverages, Measurements and quantities																																														
7	Food and Measurements	Helping a patient order, Assisting the patient at mealtimes																																														
8	The Body and Movement	Limbs and joints, Torso and head																																														
9	The Body and Movement	Setting goals and giving encouragement, Documenting ROM exercises																																														
10	Medication	Medication routes and forms, Dosages and frequency																																														
11	Medication	Side effects, Communicating with relatives																																														
12	The Hospital Team	Moving and handling patients, Communicating with team members																																														
13	The Hospital Team	Ordering supplies, Giving simple safety instructions																																														
14	Recovery and Assessing the Elderly	Caring for a patient in the recovery room, Removing sutures																																														
15	Recovery and Assessing the Elderly	Talking about old age, Assessing an elderly care home resident																																														
評価方法 および評価基準																																																
期末試験 70%、課題レポート 30%																																																
S (100~90 点) : The student can communicate in almost perfect English and has excellent knowledge of nursing vocabulary.																																																
A (89~80 点) : The student can communicate effectively in English and has very good knowledge of nursing vocabulary.																																																
B (79~70 点) : The student can communicate well in English and has good knowledge of nursing vocabulary.																																																
C (69~60 点) : The student can communicate in basic English and has rudimentary knowledge of nursing vocabulary.																																																
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0103	英語Ⅰ	1年/前期	2
BB0203	英語Ⅱ	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
Ngaire Anne Keenan		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的					
<p>The aim of the class is to focus on the simple communication skills of listening and speaking bearing in mind that these will be very important in the future careers of the students.</p> <p>Developing confidence in speaking clearly in simple sentences and responding appropriately to questions with ease will come from a lot of practice with oral communication during class time. Basic grammar and writing skills will remain less of a focus.</p>					
授業内容					
<p>All lessons will contain a variety of communication exercises. Role play, pair work, group work, presentations and games will all feature the topic or function of the lesson. Pronunciation will also be practiced often but not in each lesson. The aim is that the most of the class time will be spent with the students speaking and memorization of new learning as well as preparation for the next lesson will be done at home.</p>					
留意事項（履修条件他）					
<p>Class participation is the most important requirement of this class and a large part of the grade depends on it. Willingness to try and a good sense of humor are also important. It is vital that students maintain a high standard of regular attendance to get the practice and review needed to really improve both listening and speaking skills. Coming to class on time and prepared are expected. Being prepared means reviewing the previous lesson and previewing the next one.</p>					
教材					
Talk a Lot Book one, by David Martin. EFL Press					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	Orientation, how are you?	Family blood types			
2	Days and dates, appointments	Family birthdays			
3	Personal information, patient cards	Personal patient card			
4	Likes& dislikes, Vital signs	Interview prep			
5	Frequency, health advice	Make health survey			
6	Abilities, simple health checks	Write up survey			
7	Family, basic body parts	Review body parts			
8	Appearances, famous people	Describe somebody			
9	Jobs, jobs in a hospital	Vocabulary check			
10	Telling time, shift schedule	Making shift plan			
11	Job information, job questions	My part time job			
12	Past experiences, medical history	A recent trip			
13	Sports& exercise, sports & health	Describe a sport			
14	Review				
15	Test				
評価方法 および評価基準					
Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, Role play 5% :100 点					
S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives					
A (89~80 点) : Very good level of achievement					
B (79~70 点) : Good level of achievement					
C (69~60 点) : Sufficient to pass					
D (60 点未満) : Failure					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0104	英語Ⅰ	1年/前期	2
BB0204	英語Ⅱ	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
Edward Van Der		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
医療従事者が必要とする英語表現を基礎から学び、医療の現場で自信を持ち、落ち着いて外国人の患者さんに接することができるようになるための英語力、コミュニケーション力を養うことを目的とする。		
授業内容		
医療現場で役立つ英語の習得を目的とする。 医療用語等の専門的な語彙力を高め、会話に必要な文法や関連表現を学ぶ。		
留意事項（履修条件他）		
教材		
Introduction to Medical English: 稲富百合子/Dion Clingwall: (株)松柏社: 2015年: 1,950円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション	授業概要の説明
2	受診の予約（1）	受診時の電話応答をできるようにする。
3	受診の予約（2）	その他の電話表現、症状を表す表現を身に着ける。
4	受診（1）	受付でのスムーズな対応を身に着ける。
5	受診（2）	許可を求める表現、依頼の表現を使い分けられるようにする。
6	問診・医師による診療（1）	診察したい内容を伝えたり、質問ができるようにする。
7	問診・医師による診療（2）	完了形を用いた病状の説明をできるようにする。
8	薬の服用（1）	薬の種類、説明時に大切な関連用語を学ぶ
9	薬の服用（2）	薬について説明できるようにする。
10	再受診・検査（1）	痛みについての表現を学び、症状を聞けるようにする。
11	再受診・検査（2）	院内の案内に関する表現を学び、道案内できるようにする。
12	胃の検査（1）	時間の表現を正確に使い、検査前の説明をできるようにする。
13	胃の検査（2）	検査中の説明ができ、患者の不安を和らげることができるようになる。
14	検査結果・入院	関連単語を覚え、結果、入院について説明できるようにする。
15	期末試験に向けての復習	授業内容の復習をする。
評価方法 および評価基準		
期末試験 30%、口頭テスト 30%、授業態度 20%、毎週の単語小テスト 20%の総合得点で 100 点とする。		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0105	英語Ⅰ	1学年/前期	2
BB0205	英語Ⅱ	1学年/前期	2
担当教員		科目区分	
Lisa D. Mandziak		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
The aim of the class is familiarize students with English needed in various nursing situations and give them more confidence interacting with foreigners.		
授業内容		
A variety of speaking, listening, presentations, role playing tasks and short tests.		
留意事項（履修条件他）		
Students are required to come to class prepared to be active in the lesson. Please bring notebook, pens, dictionaries. Be prepared for an active class requiring students to interact with others. It is not a class where you can sit alone, quietly taking notes and hope to pass. English is a language used to communicate. Communication doesn't happen alone, it happens between two people or more.		
教材		
Handout		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Orientation Self-introduction	No homework
2	Pronunciation/speaking Reading	Gather photos etc. for introduction page
3	Listening/classroom English Listening/research singer	Memorize text & practice for presentation.
4	Presentation Prepare paper about G. W.	Answer questions/dictionary work.
5	Sickness Pair work	Crossword
6	Mind mapping/sickness Write about their experience	Research songs:singers
7	Listening Role play	Read dialogues A&B
8	Group work Conversation with patient	Memorize dialogues.
9	Pair work	
10	Dialogue	
11	presentations	
12	Review / have you ever.	Writing out suggestions
13	Presentation Memorize skit/quiz/recommendations	
14	Review/ holiday	Oral test
15	Test	Summer homework
評価方法 および評価基準		
Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, role play 5%:100 点		
S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives		
A (89~80 点) : Very good level of achievement		
B (79~70 点) : Good level of achievement		
C (69~60 点) : Sufficient to pass		
D (60 点未満) : Failure		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0301	英語Ⅲ	1学年/後期	2
担当教員		科目区分	
西牟田祐美子		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場すぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		
授業内容		
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学習によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の習得を目標とする。 日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語 (Medical Term) をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。		
留意事項（履修条件他）		
積極的に授業に参加することが望まれる。		
教材		
適宜教材を印刷して渡す。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	会話、夏休み	スクラップページの製作
2	プレゼン	
3	フィットネス/ダイエット	質問に答える
5	ブレーンストーミング、単語	単語の復習
6	怖い話	作文
7	ハロウィン	
8	発音、許可を求める	空欄を埋める
9	アドバイスする	質問文を作る
10	過去について話す	写真を準備する
11	経験についての文章	
12	想像する	仮定法の文
13	リスニング	歌を覚える
14	ダイアローグ	カード、手紙を書く
15	テスト	復習
評価方法 および評価基準		
筆記テスト 20%、プレゼン 20%、授業態度 25%、宿題 10%、クイズ 20%、ロールプレイ 5%の総合得点で 100 点満点とする。		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に満たしている。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限を満たしている。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0401	英語IV	1学年/後期	2
担当教員		科目区分	
西牟田祐美子		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
①英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。		
②現場ですぐに使える英語力、実践的なコミュニケーション力を養う。		
授業内容		
履修者は日常生活の様々な場面で使われる語彙や英語表現を習得し、これまで学習してきた文法の知識を確認しながらより正確な英語運用能力を身につける。ボディーランゲージ、状況に合った適切な語彙の選び方、正しい発音など、ロールプレイを通して医療現場で役立つ英語力を身につける。		
留意事項（履修条件他）		
積極的に授業に参加することが望まれる。		
教材		
適宜ハンドアウトを配る。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	国、国籍、骨	空欄を埋める
2	経験、病院の科	単語
3	位置、病棟	医療科
4	位置、病院内の位置	治療計画
5	道を教える、病院までの道順	地下鉄の地図
6	食事、健康、メニューから選ぶ	食品群
7	規則、病院内の規則	略語
8	未来の出来事、入院中の1日	質問/回答の準備
9	基本的な身体の部位、医療器具	単語
10	大きな臓器、消化器官	綴
11	一般的な病名、症状	マッチング
12	深刻な病気と治療	翻訳
13	応急手当、ロールプレイ	復習
14	復習	
15	テスト	
評価方法 および評価基準		
筆記試験 50%、課題レポート等 30%、授業態度 20%の総合得点で 100 点満点とする。		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に満たしている。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限を満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0302	英語III	1年/後期	2
BB0402	英語IV	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
Cabrido Erwin Figarola		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
This course is designed for students with an elementary knowledge of general English, who now require a pre-intermediate course in nursing.		
授業内容		
The topics reflect the latest developments in nursing, making them immediately relevant to students' needs. Each topic uses clearly defined language and function objectives.		
留意事項（履修条件他）		
The students will be required to participate actively in class.		
教材		
English for Nursing 2 by Ros Wright and Maria Spada Symonds, Pearson Longman, ISBN 9781408269947		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Patient Admissions	Hospital jobs and personnel, Hospital department and facilities
2	Pain	Locating and describing pain, Pain assessment
3	Pain	Successful communication, Pain relief
4	Vital Signs	Statistics and vital signs, Describing readings
5	Vital Signs	Taking vital signs, Circulation and the heart
6	Symptoms	Symptoms and injuries, Asking about symptoms and injuries
7	Symptoms	Asthma emergency, SOAP notes
8	Food and Nutrition	Nutrition, Nutrition status
9	Food and Nutrition	Food allergies and intolerances, Advice on diet
10	Personal Care	Patient hygiene, Activities of daily living
11	Personal Care	Empathy, Wound management
12	Elimination	Assessing patient elimination, Describing bodily functions
13	Elimination	Diarrhea, Presenting a patient case
14	Patient Discharge	Evaluation levels of independence, Patient discharge plan
15	Patient Discharge	Explaining medication, Making appointments on the phone
評価方法 および評価基準		
期末試験 70%、課題レポート 30%		
S (100~90 点) : The student can communicate in almost perfect English and has excellent knowledge of nursing vocabulary.		
A (89~80 点) : The student can communicate effectively in English and has very good knowledge of nursing vocabulary.		
B (79~70 点) : The student can communicate well in English and has good knowledge of nursing vocabulary.		
C (69~60 点) : The student can communicate in basic English and has rudimentary knowledge of nursing vocabulary.		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0303	英語Ⅲ	1年/後期	2
BB0403	英語Ⅳ	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
Ngaire Anne Keenan		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的																																																
<p>The aim of the class is to focus on the simple communication skills of listening and speaking bearing in mind that these will be very important in the future careers of the students.</p> <p>Developing confidence in speaking clearly in simple sentences and responding appropriately to questions with ease will come from a lot of practice with oral communication during class time. Basic grammar and writing skills will remain less of a focus.。</p>																																																
授業内容																																																
<p>All lessons will contain a variety of communication exercises. Role play, pair work, group work, presentations and games will all feature the topic or function of the lesson. Pronunciation will also be practiced often but not in each lesson. The aim is that the most of the class time will be spent with the students speaking and memorization of new learning as well as preparation for the next lesson will be done at home.</p>																																																
留意事項（履修条件他）																																																
<p>Class participation is the most important requirement of this class and a large part of the grade depends on it. Willingness to try and a good sense of humor are also important. It is vital that students maintain a high standard of regular attendance to get the practice and review needed to really improve both listening and speaking skills. Coming to class on time and prepared are expected. Being prepared means reviewing the previous lesson and previewing the next one.</p>																																																
教材																																																
<p>Talk a Lot Book one, by David Martin. EFL Press</p>																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Countries &nationalities, bones</td> <td>Fill in the table</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Experiences 2, medical department</td> <td>Vocabulary</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Location 1, on the ward</td> <td>Medical departments</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Location 2, directions in the hospital</td> <td>Draw plan</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Giving directions, directions to the hospital</td> <td>Subway map</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Food & health, menu choices</td> <td>Food groups</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Rules, hospital rules</td> <td>Abbreviations</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Future events, a stay in hospital</td> <td>Q&A prep</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Basic body parts, medical instruments</td> <td>Vocabulary</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Large organs, digestive system</td> <td>Spelling</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Common illnesses, symptoms</td> <td>Matching</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Serious illnesses, treatment</td> <td>Translation</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>First aid, role play</td> <td>Review</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Test</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	Countries &nationalities, bones	Fill in the table	2	Experiences 2, medical department	Vocabulary	3	Location 1, on the ward	Medical departments	4	Location 2, directions in the hospital	Draw plan	5	Giving directions, directions to the hospital	Subway map	6	Food & health, menu choices	Food groups	7	Rules, hospital rules	Abbreviations	8	Future events, a stay in hospital	Q&A prep	9	Basic body parts, medical instruments	Vocabulary	10	Large organs, digestive system	Spelling	11	Common illnesses, symptoms	Matching	12	Serious illnesses, treatment	Translation	13	First aid, role play	Review	14	Review		15	Test	
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	Countries &nationalities, bones	Fill in the table																																														
2	Experiences 2, medical department	Vocabulary																																														
3	Location 1, on the ward	Medical departments																																														
4	Location 2, directions in the hospital	Draw plan																																														
5	Giving directions, directions to the hospital	Subway map																																														
6	Food & health, menu choices	Food groups																																														
7	Rules, hospital rules	Abbreviations																																														
8	Future events, a stay in hospital	Q&A prep																																														
9	Basic body parts, medical instruments	Vocabulary																																														
10	Large organs, digestive system	Spelling																																														
11	Common illnesses, symptoms	Matching																																														
12	Serious illnesses, treatment	Translation																																														
13	First aid, role play	Review																																														
14	Review																																															
15	Test																																															
評価方法 および評価基準																																																
<p>Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, role play 5% :100 点</p> <p>S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives</p> <p>A (89~80 点) : Very good level of achievement</p> <p>B (79~70 点) : Good level of achievement</p> <p>C (69~60 点) : Sufficient to pass</p> <p>D (60 点未満) : Failure</p>																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0304	英語III	1年/後期	2
BB0404	英語IV	1年/後期	2
担当教員			科目区分
Edward Van Der			基礎科目-コミュニケーションの基礎

講義目的		
医療従事者が必要とする英語表現を基礎から学び、医療の現場で自信を持ち、落ち着いて外国人の患者さんに接することができるようになるための英語力、コミュニケーション力を養うことを目的とする。		
授業内容		
医療現場で役立つ英語の習得を目的とする。 医療用語等の専門的な語彙力を高め、会話に必要な文法や関連表現を学ぶ。		
留意事項（履修条件他）		
教材		
Introduction to Medical English: 稲富百合子/Dion Clingwall: (株)松柏社: 2015年: 1,950円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	術前・術後（1）	気持ちを表す語彙を身に着け、術前術後の対応をできるようにする。
2	術前・術後（2）	術後の様子を理解し、安心できる言葉かけをできるようにする。
3	待合室での会話（1）	一般的な来院に関する表現を覚える。
4	待合室での会話（2）	一般的な体調やけがの状態を説明できるようにする。
5	清拭（1）	清拭時の声掛け説明がスムーズにできるようにする。
6	清拭（2）	入院患者さんとのコミュニケーションができるようにする。
7	リハビリ（1）	リハビリ前の状態を理解し、説明することができる。
8	リハビリ（2）	一つ一つのリハビリの動作について丁寧に説明することができる。
9	歯科治療（1）	歯科治療に関する表現を覚え、理解する。
10	歯科治療（2）	歯科治療に関する説明をできるようにする。
11	回復・退院許可・退院後の生活指導（1）	退院についての説明をできるようにする。
12	回復・退院許可・退院後の生活指導（2）	退院後の生活についての説明をできるようにする。
13	退院（1）	退院時の声掛けをスムーズにできるようにする。
14	退院（2）	AEDの使用方法、心肺蘇生を英語で理解する。
15	期末試験に向けての復習	授業内容の復習をする。
評価方法 および評価基準		
期末試験 30%、口頭テスト 30%、授業態度 20%、毎週の単語小テスト 20%の総合得点で 100%とする。		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0305	英語III	1年/後期	2
BB0405	英語IV	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
Lisa D. Mandziak		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
The aim of the class is familiarize students with English needed in various nursing situations and give them more confidence interacting with foreigners.		
授業内容		
A variety of speaking, listening, presentations, role playing tasks and short tests.		
留意事項（履修条件他）		
Students are required to come to class prepared to be active in the lesson. Please bring notebook, pens, dictionaries. Be prepared for an active class requiring students to interact with others. It is not a class where you can sit alone, quietly taking notes and hope to pass. English is a language used to communicate. Communication doesn't happen alone, it happens between two people or more.		
教材		
Handout		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	Conversations , summer	Creat scrap page
2	Presentation	
3	Fitness/diet	Fill out questions
4	Brain storming, vocabulary	Review vocabulary
5	Scary stories	Write out
6	Special culture event	
7	Pronunciation, asking permission	Fill in blanks
8	Giving advice	Making questions
9	Talking about past	Photo preparation
10	Experience(have ever)	
11	Imagination	If would
12	Listening	Memorize song
13	Dialogue	Prepare letter and card
14	Special culture event	Review
15	Test	
評価方法 および評価基準		
Attendances & participation 25%, presentations 20%, test 20%, homework 10%, quiz 20%, role play 5% :100 点		
S (100~90 点) : Excellent Achievement of learning objectives		
A (89~80 点) : Very good level of achievement		
B (79~70 点) : Good level of achievement		
C (69~60 点) : Sufficient to pass		
D (60 点未満) : Failure		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0501	中国語Ⅰ	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
川口 奈々美		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的																																																
中国語の声調練習から始めて、挨拶の言葉や自己紹介の言葉を身につける。 また、出身地である台湾のこと、旅行に行った際に役立つ言葉などについての説明も交えながら、第二外国語として中国語に興味を持ってもらえるような講義を行っていく。																																																
授業内容																																																
教科書「新訳第3版 中国語会話301」を使って、第一課から第八課まで学修する。第一課から第五課までの学修目標は中国語の音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。また、挨拶の言葉や自己紹介の言葉を身につける。第六課から第八課までは色々な場面での尋ね方（生年月日、時間など）を学修する。授業の流れとしては、 ① 前回の復習 ② 単語の読み方練習、文法の説明 ③ 基本文と会話の文章を読む ④ 入れ替え練習と応用																																																
授業中、たくさん会話練習ができるような講義を行う。																																																
留意事項（履修条件他）																																																
教材																																																
新訳第3版 中国語会話301上																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>音節の構造、声調練習</td> <td>声調練習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第一課 挨拶（一）こんにちは</td> <td>7、8頁の練習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第二課 挨拶（二）お変わりありませんか</td> <td>14、15頁の練習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第三課 挨拶（三）お仕事はお忙しいですか</td> <td>24、25頁の練習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>発音の復習</td> <td>発音の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>第四課 初めて会う（一）お名前は何とおっしゃいますか</td> <td>32、33頁の練習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第五課 初めて会う（二）ちょっとご紹介します</td> <td>41、42頁の練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習一</td> <td>45、46頁の練習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか</td> <td>年月日曜日の表し方</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか</td> <td>54、55頁の練習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか</td> <td>有、没有と前置詞構造</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか</td> <td>63、64頁の練習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>第八課 尋ねる（三）今何時ですか</td> <td>時間の読み方</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第八課 尋ねる（三）今何時ですか</td> <td>73、74頁の練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>第一課から第八課までの復習</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	音節の構造、声調練習	声調練習	2	第一課 挨拶（一）こんにちは	7、8頁の練習	3	第二課 挨拶（二）お変わりありませんか	14、15頁の練習	4	第三課 挨拶（三）お仕事はお忙しいですか	24、25頁の練習	5	発音の復習	発音の復習	6	第四課 初めて会う（一）お名前は何とおっしゃいますか	32、33頁の練習	7	第五課 初めて会う（二）ちょっとご紹介します	41、42頁の練習	8	復習一	45、46頁の練習	9	第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか	年月日曜日の表し方	10	第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか	54、55頁の練習	11	第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか	有、没有と前置詞構造	12	第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか	63、64頁の練習	13	第八課 尋ねる（三）今何時ですか	時間の読み方	14	第八課 尋ねる（三）今何時ですか	73、74頁の練習	15	復習	第一課から第八課までの復習
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	音節の構造、声調練習	声調練習																																														
2	第一課 挨拶（一）こんにちは	7、8頁の練習																																														
3	第二課 挨拶（二）お変わりありませんか	14、15頁の練習																																														
4	第三課 挨拶（三）お仕事はお忙しいですか	24、25頁の練習																																														
5	発音の復習	発音の復習																																														
6	第四課 初めて会う（一）お名前は何とおっしゃいますか	32、33頁の練習																																														
7	第五課 初めて会う（二）ちょっとご紹介します	41、42頁の練習																																														
8	復習一	45、46頁の練習																																														
9	第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか	年月日曜日の表し方																																														
10	第六課 尋ねる（一）誕生日は何月何日ですか	54、55頁の練習																																														
11	第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか	有、没有と前置詞構造																																														
12	第七課 尋ねる（二）ご家族は何人ですか	63、64頁の練習																																														
13	第八課 尋ねる（三）今何時ですか	時間の読み方																																														
14	第八課 尋ねる（三）今何時ですか	73、74頁の練習																																														
15	復習	第一課から第八課までの復習																																														
評価方法 および評価基準																																																
期末試験 30%、課題レポート 40%、小テスト 30%																																																
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)																																																
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)																																																
B (79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)																																																
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)																																																
D (60点未満) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0601	中国語Ⅱ	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
川口 奈々美		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的		
中国語Ⅰに続き、それぞれの場面に応じ、学んだ中国語を使って、コミュニケーションができるようにします。		
授業内容		
教科書「新訳第3版 中国語会話301」を使って、第九課と第十課は方向と道などの尋ね方を学修する。第十一課から第十五課までは買い物用語、車の乗り換え、両替などに必要な表現を学修する。授業の流れとしては、		
<ul style="list-style-type: none"> ① 前回習った単語やセンテンスの聞き取りテスト ② 単語の読み方練習、文法の説明 ③ 基本文と会話の文章を読む ④ 入れ替え練習と応用 		
授業中、たくさん会話練習ができるような講義を行う。		
留意事項（履修条件他）		
教材		
新訳第3版 中国語会話301 上		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	第九課 尋ねる（四）お住まいはどちらですか	連動文
2	第九課 尋ねる（四）お住まいはどちらですか	81、82頁の練習
3	第十課 尋ねる（五）郵便局はどこですか	反復疑問文
4	第十課 尋ねる（五）郵便局はどこですか、復習二	89、90頁の練習
5	第十一課 必要（一）みかんを買いたいです。	語気助詞「了」の使い方①
6	第十一課 必要（一）みかんを買いたいです。	101、102頁の練習
7	第十二課 必要（二）セーターを買いたいです。	能願動詞「想、要、可以、会」の使い方
8	第十二課 必要（二）セーターを買いたいです。	109、110頁の練習
9	第十三課 必要（三）乗り換えが必要です。	二重目的語文と数量詞
10	第十三課 必要（三）乗り換えが必要です。	118、119頁の練習
11	第十四課 必要（四）両替に行きたいです。	兼語文、語気助詞「了」の使い方②
12	第十四課 必要（四）両替に行きたいです。	126、127頁の練習
13	第十五課 必要（五）写真を撮りたいです。	結果補語
14	第十五課 必要（五）写真を撮りたいです。	135、136頁の練習
15	復習三	139、140頁の練習
評価方法 および評価基準		
期末試験30%、課題レポート40%、小テスト30%		
S(100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A(89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B(79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)		
C(69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D(60点未満) : 学習目標の最低限を満たしていない (Failure)		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BB0701	コンピュータ基礎・情報処理法	1年/前期	1
担当教員		科目区分	
市川誠一 西川まり子		基礎科目-コミュニケーションの基礎	

講義目的	<p>汎用ソフトウェアの基本機能を利用しソフトウェア相互のデータ交換ができるように情報活用能力(リテラシー)を向上する。基本的なデータ処理を向上することで、保健医療情報や社会情報の収集・整理・活用能力を養い、統計ソフト、データマイニング、数値地図システム(GIS)等の専門的なソフトウェア利用の準備性を高める。また保健医療情報を扱う看護職者として、情報倫理やリスク管理を理解してインターネット環境での情報処理ができるようにする。</p>																																						
授業内容	<p>情報処理演習室でコンピュータ(PC)の使い方を説明し、その後、実際にPCを使用しながら、文章作成ソフト(Word)による文章作成、レポート作成、表計算ソフト(Excel) エクセル)を用いた表計算や簡単なデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト(Power Point)での文章・表・グラフによる発表などを演習する。身体計測等のデータを課題にグループワークで集計・グラフ作成に取り組み、最後に各人が課題に対するレポートを完成させることを目指す。</p>																																						
留意事項（履修条件他）	<p>情報室（401教室）にて、PCを用いた情報処理を学習する。そのためPCを持参することが条件となる。 大学指定の学生メールアドレスにデータ等を送付するがあるので、データのダウンロードが必要となる。</p>																																						
教材	<p>情報books plus! インターネット社会を生きるための情報倫理、実況出版、400円+税 講義プリント、参考書は適宜紹介する</p>																																						
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内 容</th><th>学習課題（予習・復習）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス：演習室の使い方、授業の進め方などの説明</td><td>本学での情報処理に関するガイダンス 演習室におけるPCの使用について、インターネット利用、プリンター使用などについて説明する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>情報システムの利点とリスク、情報倫理概説</td><td>個人情報、保健医療情報など、情報を取り扱う上での倫理を身につける</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Windows の GUI(Graphical User Interface) の基本操作</td><td>Windows操作の基本をマスターする。 PCやWindowsソフト処理能力について、学生同士がグループワークとして理解できるようにする</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-1 入力と文書作成</td><td>Wordを用いた文書作成についての基本操作をマスターする</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-2 文書作成と出力</td><td>Wordを用いて与えられたテーマのレポートを作成し、プリンターで出力し、提出する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習1 入力と表作成</td><td>Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表の作成の基本操作をマスターする</td></tr> <tr> <td>7</td><td>表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習2 表とグラフ作成、出力</td><td>Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、グラフ作成の基本操作をマスターする</td></tr> <tr> <td>8</td><td>表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習3 エクセル関数を用いた統計量の計算</td><td>Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作をマスターする</td></tr> <tr> <td>9</td><td>表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習4 エクセル関数を用いた統計量の計算</td><td>Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作を活用してレポートを作成し、印刷して提出する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習1</td><td>Power Pointによる発表スライドの作成（文章・表・グラフ）についての基本操作をマスターする</td></tr> <tr> <td>11</td><td>プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習2</td><td>Power Pointの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データにより、表・グラフ作成の基本操作をマスターする</td></tr> </tbody> </table>			回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	ガイダンス：演習室の使い方、授業の進め方などの説明	本学での情報処理に関するガイダンス 演習室におけるPCの使用について、インターネット利用、プリンター使用などについて説明する	2	情報システムの利点とリスク、情報倫理概説	個人情報、保健医療情報など、情報を取り扱う上での倫理を身につける	3	Windows の GUI(Graphical User Interface) の基本操作	Windows操作の基本をマスターする。 PCやWindowsソフト処理能力について、学生同士がグループワークとして理解できるようにする	4	ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-1 入力と文書作成	Wordを用いた文書作成についての基本操作をマスターする	5	ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-2 文書作成と出力	Wordを用いて与えられたテーマのレポートを作成し、プリンターで出力し、提出する	6	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習1 入力と表作成	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表の作成の基本操作をマスターする	7	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習2 表とグラフ作成、出力	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、グラフ作成の基本操作をマスターする	8	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習3 エクセル関数を用いた統計量の計算	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作をマスターする	9	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習4 エクセル関数を用いた統計量の計算	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作を活用してレポートを作成し、印刷して提出する	10	プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習1	Power Pointによる発表スライドの作成（文章・表・グラフ）についての基本操作をマスターする	11	プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習2	Power Pointの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データにより、表・グラフ作成の基本操作をマスターする
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																					
1	ガイダンス：演習室の使い方、授業の進め方などの説明	本学での情報処理に関するガイダンス 演習室におけるPCの使用について、インターネット利用、プリンター使用などについて説明する																																					
2	情報システムの利点とリスク、情報倫理概説	個人情報、保健医療情報など、情報を取り扱う上での倫理を身につける																																					
3	Windows の GUI(Graphical User Interface) の基本操作	Windows操作の基本をマスターする。 PCやWindowsソフト処理能力について、学生同士がグループワークとして理解できるようにする																																					
4	ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-1 入力と文書作成	Wordを用いた文書作成についての基本操作をマスターする																																					
5	ワープロソフト(MS-Word)の基本機能と演習-2 文書作成と出力	Wordを用いて与えられたテーマのレポートを作成し、プリンターで出力し、提出する																																					
6	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習1 入力と表作成	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表の作成の基本操作をマスターする																																					
7	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習2 表とグラフ作成、出力	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、グラフ作成の基本操作をマスターする																																					
8	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習3 エクセル関数を用いた統計量の計算	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作をマスターする																																					
9	表計算ソフト(MS-Excel)の基本機能と演習4 エクセル関数を用いた統計量の計算	Excelの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データ表作成に続き、Excel関数を用いた簡単な集計の基本操作を活用してレポートを作成し、印刷して提出する																																					
10	プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習1	Power Pointによる発表スライドの作成（文章・表・グラフ）についての基本操作をマスターする																																					
11	プレゼンテーションソフト(Power Point)の基本機能と演習2	Power Pointの基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データにより、表・グラフ作成の基本操作をマスターする																																					

12	プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本機能と演習 3	Power Point の基本的操作を学習し、与えられた保健医療情報データにより、表・グラフを作成し、レポートとして印刷する
13	情報処理の演習 1	演習の課題として、身体計測等のデータを与える。 グループワークにより Excel、Power Point 等を活用し、レポート作成の演習を行う
14	情報処理の演習 2	与えられた演習課題について、各人のレポート作成の演習を行い、まとめたものを印刷して提出する
15	看護において保健医療情報を取り扱うことについて 専門的ソフト GIS の説明と保健医療面での活用について (西川)	看護実習等を控え、個人情報、患者データなどを取り扱ううえでの倫理について講義する また、専門的ソフト GIS (地理情報システム) の説明と活用について講義する

評価方法 および評価基準

課題レポート 80% 授業への参加 20%

S (100~90 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理が十分にできる。

A (89~80 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理ができる。

B (79~70 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理がほぼできる。

C (69~60 点) : 情報倫理を理解し、ワード・エクセル・PP による情報処理がややできる。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0101	日本国憲法	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
木幡洋子		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代憲法と日本国憲法の関係について、日本国憲法制定の歴史的背景を踏まえて理解する。 2. 日本国憲法の基本理念・基本構造を理解する。 3. 人権と暮らしの関わりについて事例を通して理解する。 					
授業内容					
<p>日本国憲法が制定された経緯と世界的な人権概念の発展の関係について詳説し、日本における人権の意味の理解を促す。そのうえで、現代社会における人権の現状と新たな課題について講義し、女性、子ども、高齢者などの人権の現状と憲法との関係を詳説する。また、憲法が生活においてどのように活かされるべきかを考えるため、判例や事例を紹介して、憲法を活用して社会における多様な問題に常に考える習慣をつけることを指導する。</p>					
留意事項（履修条件他）					
<p>養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。</p> <p>講義時の聴講と復習が重要なため、講義は真摯な態度で聴講しないと理解が困難である。</p>					
教材					
<p>教科書：講義時に資料を配布する。</p> <p>参考書：授業の進行にあわせて、適宜紹介する。</p>					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	ガイダンス（受講上の注意と憲法を含む日本の法構造について）	ガイダンスの内容を理解しておくこと。			
2	人権の歴史と憲法の意義	人権が求められ憲法に定着した経緯を理解する。			
3	日本国憲法制定の過程	西欧と日本の憲法の違いを理解する。			
4	情報時代の到来と人権の変容	新たな時代とそれに伴う人権構造の変化を理解する。			
5	人権の国際的動向	新たな人権の国際的動向と変化を理解する。			
6	教育と人権（教育人権と学校内における人権）	教育人権により何が保障され手いるかを理解する。			
7	福祉と人権（生存権と福祉の人権）	生存権の基礎である人間の尊厳を理解する。			
8	労働者と人権（労働権・男女雇用機会均等法）	労働者的人権の変遷と現在の状況を理解する。			
9	女性と人権（女性の憲法上の権利・セクハラ訴訟）	女性差別撤廃条約と女性の人権の変化を理解する。			
10	子どもと人権（子どもの権利条約の背景と子どもの人権）	子どもの人権の歴史と国際的動向を背景に理解する。			
11	障害者と人権（障害者の権利条約・障害者の人権問題）	障害者の権利条約と人権保障の動向を理解する。			
12	高齢者と人権（高齢者の人権問題）	高齢社会の到来と高齢者的人権の現状を理解する。			
13	司法と人権（司法の役割と課題）	司法制度と裁判員制度の現状と課題を理解する。			
14	国会と行政（議員定数問題・行政権の限界）	国会をめぐる課題と行政権の限界を理解する。			
15	まとめ（日本国憲法の意味と現状）	日本国憲法制定から今日に至るまでの、日本国憲法をめぐる議論と意義を理解する。			
評価方法 および評価基準					
<p>期末試験 70%、課題レポート 30%</p> <p>S (100~90 点) : 講義内容を十分に理解し、基礎概念を理解したうえで自己の見解を構築する段階に至っている。 レポートでは、客観的な事実に基づき自己の見解を十分に形成する段階に至っている。</p> <p>A (89~80 点) : 講義内容を十分に理解し、諸説を客観的に理解している。 レポートでは、事実に基づき自己の見解を示している。</p> <p>B (79~70 点) : 講義内容を理解し、自分で考える態度を示しているが、客観性が不十分である。 レポートでは、事実に基づいているが自己の見解の形成が不十分である。</p> <p>C (69~60 点) : 講義内容を理解している。 レポートでは、事実に基づいているが分析が不十分である。</p> <p>D (60 点未満) : Cのレベルに達していない</p>					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0201	愛知を学ぶ	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
朝井佐智子		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的			
まず愛知の歴史を古代から現代まで通史として概観することによって基礎的な知識を身につける。次に、愛知の基盤となっている産業がどのような歴史をたどり、現在に至っているのかを学習する。その上で、これら身につけた知識をコミュニケーションのツールとして利用できるようになることを目的とする。			
授業内容			
愛知県は日本の中央に位置し、木曽三川、濃尾平野、伊勢湾など自然に恵まれた地であり、「モノづくり王国あいち」と称されるように、日本の製造業の中心地でもある。こうした現在の愛知を培った木材産業、窯業、醸造業などさまざまな産業の発展過程や、豊田佐吉、福沢桃介、森村市左衛門など現在の礎となった人物にスポットをあて学んでいく。近代愛知の歴史がどういった歩みをしたかを振り返ることによって、現在の愛知をみつめなおすきっかけとができる。			
留意事項（履修条件他）			
授業のなかで隨時説明していくが、中学・高校時代に学んだ日本史（特に近代史）を復習しておくとより理解しやすい。また博物館や産業遺産を訪ねるなど近代の雰囲気を感じ取っておくことが望ましい。			
教材			
特に定めないが、資料を適宜配布する。 参考資料として、中部産業遺産研究会 編『ものづくり再発見：中部の産業遺産探訪』アグネ技術センター2005年を一応挙げておく。			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	ガイダンス	なぜ、愛知のことを学ぶ必要があるのか。愛知県の概要を理解し、基本的知識を身に着ける。	
2	近代成立以前のあいち	古代から江戸末期までの愛知がどのように発展してきたかを理解する。	
3	近代への出発 その1	明治維新以降、どのような産業が起り、現在とどのような繋がりがあるかを理解する。	
4	近代への出発 その2	昭和12年ごろのあいちが、急速に発展した理由と現在まで残るその影響を理解する。	
5	いのちの水と水運	大河川が流れるめぐまれた地形にある愛知の人々が、どのようにその水運を利用してきたかを理解する。	
6	木曽からのめぐみ木材産業	木曽のめぐみが、もたらした木材関連の産業にはどのようなものがあるか、また現在なぜ衰退したのかを考える。	
7	紡ぎと織	近代紡績業の成立と三河のガラ紡や知多・三河木綿について理解し、現在の産業との関連性について考える。	
8	あいちと食	酢、味噌、味噌など愛知は食品産業も盛んな地域であった。その発展の過程と食品産業から他業種への発展の過程を理解する。	
9	あいちの鉄道網	日本の中心に位置する愛知の鉄道網がどのように発展したか、また鉄道発展による産業発展の歴史を理解する。	
10	土と炎～窯業と赤レンガ	瀬戸、常滑など人々が食器として利用する陶磁器だけでなく、産業として利用されている陶磁器や瓦産業などについて学習する。	
11	あいちに光を～電気事業	人の生活の基本となる電気産業がどのように発展したかを理解する。	
12	ものづくり王国あいちへ その1	愛知は、世界に誇れる多くの産業が発展した。今まで紹介した産業以外にどのような産業があるのかを中心に理解する。	
13	ものづくり王国あいちへ その2	自動車産業の発展を豊田佐吉、豊田喜一郎という二人の人物から愛知を振り返る。	
14	近代から現代へ	アジア太平洋戦争は、民衆も産業も甚大な被害を受けるものであった。その実情を知るとともに、現在の産業がどのように復活したのかを理解する。	
15	まとめ	今まで学習してきた成果として、現在の産業はどうであるかを学習する。また産業発展の歴史を今に残す遺産がどのように保存されているかを学ぶ。	
評価方法 および評価基準			
課題レポート 80% 授業内議論の参加貢献度・授業内感想文など 20%			
S (100~90点) : レポート評価基準（レポート課題配布時に説明する）をすべて満たして、授業内議論に積極的に参加している。			
A (89~80点) : レポート評価基準を十分満たして、授業内議論に積極的に参加している。			
B (79~70点) : レポート評価基準を満たして、授業内議論に参加している。			
C (69~60点) : レポート評価基準に不十分な点はあるが、授業内議論にやや参加している。			
D (60点未満) : Cのレベルに達していない			

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0301	人間関係論	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
木幡洋子		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的																																																
<ol style="list-style-type: none"> 現代社会における人間関係の特徴を理解する。 人間関係に関する新たな理論の展開と応用について理解する。 看護の場面における人間関係のあり方について理解する。 																																																
授業内容																																																
人間が関係的存在であることが、どのように理論的に発展してきたかを概観し、さらに専門職者とその対象との関係が、権力関係からパートナーシップ関係へと変わってきていることを理解する。また、こうした変化の歴史と実際の事例を紹介し、さらに、具体的なパートナーシップ構築のための手法として、「共感」に基づくコミュニケーションとはどのようなものであるかを、ワークショップにより経験する。教科書は用いるが、その他の資料を配布して最新の学説と動向を紹介する。授業は教科書に沿って行われるが、新たな動向や学説を紹介するため教科書通りではない。																																																
留意事項（履修条件他）																																																
人間関係論は理論的にも実践においても大きく変化している領域であるため、講義時にそうした変化を紹介していく。また、体験型学習もとりいれているため、講義への出席と真摯な参加が不可欠です。																																																
教材																																																
教科書 系統看護学講座基礎分野『人間関係論最新版』医学書院 参考書 トマス・ゴードン『医療・福祉のための人間関係論』丸善株式会社（2000年）																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス・現代社会と人間関係</td> <td>人間関係の社会的意味</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間存在と人間関係</td> <td>人間存在の特質と社会的役割について理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人間関係における社会的相互作用</td> <td>看護師に求められる社会的役割を理解する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間関係とコミュニケーション</td> <td>コミュニケーションの意義を理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間関係の研究・共感</td> <td>人間研究の変遷と共感の現代的意味を理解する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>人間関係研究の看護ケアへの応用</td> <td>看護ケアの特質と人間関係研究の応用を理解する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>能動的な聞き方</td> <td>能動的な聞き方の実例を理解し、実践してみる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>医療におけるチームとしての人間関係</td> <td>チーム医療と各種専門職の存在を理解する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>チームにおける看護師の役割</td> <td>看護師の役割とチームにおける役割を理解する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>闘病生活を支える人間関係</td> <td>様々な闘病生活とそれに応じた支援を理解する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>終末期の患者と家族を支える人間関係</td> <td>終末期とは何かを理解し看護師の役割を考える。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>家族の人間関係と看護師の役割</td> <td>家族関係を理解し看護師の役割を考える。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ソーシャルサポートと人間関係</td> <td>患者を支える社会資源の存在を理解する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ノーマライゼーションと人間関係</td> <td>ノーマライゼーションの本質を理解する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ（人間関係と医療における意味）</td> <td>医療における人間関係の特質と看護師の役割を考える。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	ガイダンス・現代社会と人間関係	人間関係の社会的意味	2	人間存在と人間関係	人間存在の特質と社会的役割について理解する。	3	人間関係における社会的相互作用	看護師に求められる社会的役割を理解する。	4	人間関係とコミュニケーション	コミュニケーションの意義を理解する。	5	人間関係の研究・共感	人間研究の変遷と共感の現代的意味を理解する。	6	人間関係研究の看護ケアへの応用	看護ケアの特質と人間関係研究の応用を理解する。	7	能動的な聞き方	能動的な聞き方の実例を理解し、実践してみる。	8	医療におけるチームとしての人間関係	チーム医療と各種専門職の存在を理解する。	9	チームにおける看護師の役割	看護師の役割とチームにおける役割を理解する。	10	闘病生活を支える人間関係	様々な闘病生活とそれに応じた支援を理解する。	11	終末期の患者と家族を支える人間関係	終末期とは何かを理解し看護師の役割を考える。	12	家族の人間関係と看護師の役割	家族関係を理解し看護師の役割を考える。	13	ソーシャルサポートと人間関係	患者を支える社会資源の存在を理解する。	14	ノーマライゼーションと人間関係	ノーマライゼーションの本質を理解する。	15	まとめ（人間関係と医療における意味）	医療における人間関係の特質と看護師の役割を考える。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	ガイダンス・現代社会と人間関係	人間関係の社会的意味																																														
2	人間存在と人間関係	人間存在の特質と社会的役割について理解する。																																														
3	人間関係における社会的相互作用	看護師に求められる社会的役割を理解する。																																														
4	人間関係とコミュニケーション	コミュニケーションの意義を理解する。																																														
5	人間関係の研究・共感	人間研究の変遷と共感の現代的意味を理解する。																																														
6	人間関係研究の看護ケアへの応用	看護ケアの特質と人間関係研究の応用を理解する。																																														
7	能動的な聞き方	能動的な聞き方の実例を理解し、実践してみる。																																														
8	医療におけるチームとしての人間関係	チーム医療と各種専門職の存在を理解する。																																														
9	チームにおける看護師の役割	看護師の役割とチームにおける役割を理解する。																																														
10	闘病生活を支える人間関係	様々な闘病生活とそれに応じた支援を理解する。																																														
11	終末期の患者と家族を支える人間関係	終末期とは何かを理解し看護師の役割を考える。																																														
12	家族の人間関係と看護師の役割	家族関係を理解し看護師の役割を考える。																																														
13	ソーシャルサポートと人間関係	患者を支える社会資源の存在を理解する。																																														
14	ノーマライゼーションと人間関係	ノーマライゼーションの本質を理解する。																																														
15	まとめ（人間関係と医療における意味）	医療における人間関係の特質と看護師の役割を考える。																																														
評価方法 および評価基準																																																
期末試験 60%、小テスト 30% レポート 10%																																																
S (100~90点) : 人間関係の現代的意味を理解し、看護師が担う医療現場におけるコミュニケーションの実際に適切に対応し、複雑な状況にも基礎理論をもとに柔軟に対応することができる。																																																
A (89~80点) : 人間関係の現代的意味を理解し、看護師の役割についての十分な応用をすることができる。																																																
B (79~70点) : 人間関係の現代的意味を理解し、看護師の役割と実践についても理解している。																																																
C (69~60点) : 人間関係の現代的意味を理解し、看護師特有の役割について理解している。																																																
D (60点未満) : Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0401	教育心理学	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
宮田延実		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
教育心理学の諸理論について、単に知識として習得するだけでなく、それらについて自分なりに考え、日頃の学校における人間関係や教育現場に活かす豊かな発想ができるこことをめざす。		
授業内容		
学校教育に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、児童生徒の理解や対応に活かす力を身につける。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも教育評価や学級集団等の重要な概念も学ぶ。		
これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振り返り、将来の教師像のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。		
留意事項（履修条件他）		
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。		
教材		
教科書：「教育心理学エッセンシャルズ」第2版 ナカニシヤ出版		
参考書・参考資料等：適宜、紹介します。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	第1回：オリエンテーション、教育心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。
2	第2回：学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。
3	第3回：記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。
4	第4回：個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。
5	第5回：動機づけ	2つの動機付けとその理論について理解する。
6	第6回：学習過程	教授学習モデルについて理解する。
7	第7回：発達①	発達段階と発達課題について理解する。
8	第8回：発達②	認知発達理論について理解する。
9	第9回：発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。
10	第10回：学校適応①	不登校の問題について理解する。
11	第11回：学校適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。
12	第12回：発達障害①	発達障害の諸相について理解する。
13	第13回：発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。
14	第14回：教育評価	教育評価とテスト理論について理解する。
15	第15回：まとめ	全体のまとめを行う。
評価方法 および評価基準		
定期試験 70%、毎回の小レポート 30%		
S (100~90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)		
A (89~80点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)		
B (79~70点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)		
C (69~60点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0501、02	フィットネススポーツ	1年/前期	1
担当教員		科目区分	
伊藤敦子 押村果奈		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
グループに向けた指導方法が習得できる。 プログラミングと指導の実践を通して、必要な実技スキルが習得できる。 健康体操のレッスン形式を指導することができる。 リズムに合わせたウォーミングアップ、メインエクササイズ、筋コンディショニング、ストレッチングの一連の流れを行う。		
授業内容		
運動は健康の維持・増進に必要である。 毎回の健康体操によって、自分自身の健康的なからだ作り運動、健康体操の心身に与える効果を体験する。 メインエクササイズのプログラム作成、指導の実践も行う。		
留意事項（履修条件他）		
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。		
教材		
特になし		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	メインエクササイズ：音楽の役割について講義	
2	メインエクササイズ：ステップのバリエーション	
3	メインエクササイズ：動きの組み合わせ	
4	メインエクササイズ：動きの変化	
5	メインエクササイズ：プログラム構成について講義	
6	メインエクササイズ：安全性	
7	コレオグラフィーの手法	
8	メインエクササイズプログラムの作成①	
9	メインエクササイズプログラムの作成②	
10	プログラムの指導テクニック①	
11	プログラムの指導テクニック②	
12	健康体操による運動指導	
13	メインエクササイズプログラムの指導	
14	ストレッチングと筋コンディショニングの指導	
15	グループエクササイズの指導	
評価方法 および評価基準		
受講態度 75% 実技テスト 25%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0601、02	体育実技	1年/後期	1
担当教員		科目区分	
伊藤敦子 押村果奈		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
<p>運動は健康の維持・増進に有効であることを感じることができる。</p> <p>健康体操によって、自分自身が体力向上の効果を体験する。</p> <p>メインエクササイズのプログラム作成、指導の実践も行う。</p>		
授業内容		
<p>リズムに合わせウォーミングアップ、主エクササイズ、筋コンディショニング、ストレッチングの一連の流れを行う。</p> <p>プログラミングと指導の実践を通して、必要な実技スキルが習得できる。</p> <p>グループに向けた指導方法が習得できる。</p> <p>健康体操のレッスン形式を指導することができる。</p>		
留意事項（履修条件他）		
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。		
教材		
教材プリント配布		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション（授業の目標と進め方、成績評価、運動の意義・目的）	
2	ストレッチング、ジョギングの基礎、現状把握	
3	屋内体力測定	
4	一般的な健康体操についての概要説明と模擬体験	
5	初心者向け健康体操とストレッチング	
6	経験者への中級健康体操とリラクゼーション	
7	健康体操の基本的考え方、特性、効果、運動プログラムについて	
8	有酸素能力向上を主とした健康体操の動き方、注意点について	
9	柔軟性向上を主とした健康体操の動き方、注意点について	
10	筋力アップを主とした健康体操の動き方、注意点について	
11	メインエクササイズの運動強度、指導者側と参加者側を体験し、指導の実践をする	
12	基本動作の修得確認の小テスト	
13	集団の運動指導（レッスン指導）について説明し、指導の実践をする	
14	メインエクササイズの運動プログラム作成について	
15	作成したプログラムの修正（グループ発表）	
評価方法 および評価基準		
受講態度 75% 実技テスト 25%		
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。		
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している。		
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある。		
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0701	家族社会学	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
市川季夫		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
戦後日本における近代家族の成立と変遷を通して、家族の形態・機能・役割を理解する。		
授業内容		
今日、変化多様化する家族が抱える生活と健康問題を理解する。それらの問題に医療・福祉に携わる人たちが、どのように関わっているかを学ぶ。		
留意事項（履修条件他）		
毎回資料を配布する為、資料入手に留意すること。		
教材		
独自の資料を作成し配布する。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	家族とは（1）	家族像をイメージする
2	家族とは（2）	形態・機能・役割を学ぶ
3	近代家族について	近代家族の概念を理解する
4	高度経済成長と家族（1）	地方から都市へ
5	高度経済成長と家族（2）	3ちゃん農業
6	高度経済成長と家族（3）	団地族
7	高度経済成長と家族（4）	核家族
8	高度経済成長の光	豊かな社会
9	高度経済成長の影	斎藤茂男「妻たちの思秋期」より
10	近代家族のゆらぎ	夫婦役割分業について
11	格差社会と家族	子どもの貧困と家族
12	多様化する家族	夫婦同姓をめぐって
13	医療・福祉関係者の働きと家族	宮本ふみ「無名の語り」より
14	医療・福祉関係者の課題	連携について
15	まとめ	振り返りレポート
評価方法 および評価基準		
期末試験 60 %、課題レポート 40 %		
S (100~90 点) : Aに加えて家族にとって医療・福祉関係者の働きが理解できていること		
A (89~80 点) : Bに加えて家族の多様性が理解できていること		
B (79~70 点) : Cに加えて近代家族のゆらぎが理解できていること		
C (69~60 点) : 近代家族が具体的な事象を含めて理解できていること		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0801	生命倫理学	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
佐藤芳		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
倫理学の基本を習得すること。 生命に関する倫理学の基本を習得すること。 医療臨床で生じる倫理的出来事に気づき解決する方策を考えさせること。 命を大切に扱う方法について考え・行動できること。		
授業内容		
倫理学とはもともとギリシャではエーテス（慣習）の学であり、生活の規則（生き方）を対象とする学問である。そして生命倫理学は、人間の生命に関する慣習を扱う学問である。ただし、現在ではこの生命に関する価値観は、医療の高度化にともない再考や変更を迫られている。それゆえ現在の倫理観だけでなく、「人間のくいのち」は、これからどうであるべきか」という将来の倫理観「あるべき倫理」を考察するのが生命倫理学の目的である。授業は次の5つの単元がある。生殖補助医療の倫理学、人工妊娠中絶の倫理学、移植医療の倫理学、終末期医療の倫理学、遺伝子医療の倫理学。これらの概念について考察し、自らの倫理観を培う基礎力を養う。		
留意事項（履修条件他）		
教材		
資料を配布する		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	生命倫理学とは何か？導入	倫理学の基本と、生命倫理学の発生を学ぶ
2	生殖補助医療の倫理学（1）	生殖補助医療の基礎を学ぶ、
3	生殖補助医療の倫理学（2）	生殖補助医療の体験者から、悩みと解決策を探る
4	人工妊娠中絶の倫理学（1）	人工妊娠中絶の基礎を学ぶ
5	人工妊娠中絶の倫理学（2）	人工妊娠中絶の体験者から、悩みと解決策を探る
6	生殖補助医療・人工妊娠中絶のグループワーク（1）	ケースをもとに、倫理的葛藤と調整の手法を学ぶ
7	生殖補助医療・人工妊娠中絶のグループワーク（1）	ケースを作成し、発表して、討論する。
8	移植医療の倫理学（1）	移植医療の基礎を学ぶ
9	移植医療の倫理学（2）	移植医療の体験者から、悩みと解決策を探る
10	終末期医療の倫理学（1）	終末期医療の基礎を学ぶ
11	終末期医療の倫理学（2）	終末期医療の体験者から、悩みと解決策を探る
12	移植医療・終末期医療のグループワーク（1）	ケースをもとに、倫理的葛藤と調整の手法を学ぶ
13	移植医療・終末期医療のグループワーク（2）	ケースを作成し、発表して、討論する。
14	動物の命の倫理と、研究倫理	実験動物の倫理、研究者の倫理を学ぶ
15	まとめ	まとめと、テスト対策
評価方法 および評価基準		
期末試験 50%、作成ケース 50%		
S (100~90点) : 臨床の倫理問題を十分に説明でき、倫理調整に十分に取り組むことができる。		
A (89~80点) : 臨床の倫理問題を概ね説明でき、倫理調整に概ね取り組むことができる。		
B (79~70点) : 臨床の倫理問題を不十分ながら説明でき、倫理調整に不十分ながら取り組むことができる。		
C (69~60点) : 臨床の倫理問題を考えることができ、倫理調整に取り組む努力をしている。		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC0901	社会福祉学	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
塚本銳裕		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的																																																
本授業では、現代社会における子育てや高齢者の介護、障害、疾病や失業などが与える地域生活の問題点、福祉ニーズを整理するとともに、生活問題の解決に向けた社会福祉制度の現状と課題について理解を深める。特に、地域生活を軸に在宅医療や看護、地域保健との連携の重要性、住民を中心に据えた包括的支援を意識することで、看護専門職が社会福祉分野を理解する。																																																
授業内容																																																
現代社会における社会福祉の必要性と、社会福祉と医療、看護領域との関連性について学ぶ。社会福祉の歴史、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、生活保護、生活困窮、地域福祉、司法福祉等について基礎的知識を身につけるとともに、現代社会における地域課題と各福祉分野の必要性について具体的な事例を交え理解する。特に医療や保健、福祉領域の連携、地域包括ケアの視点を身につける。授業の形態としては、映像を駆使した教材を中心に講義を進めるとともに、ケースメソッドを活用し、事例を基に学生同士のグループディスカッションや講師との意見交換等にて理解力を高める。必要に応じ、各福祉分野において直近で起きているトピックや社会問題、新聞報道等にも触れるとともに、現場で活躍する社会福祉士等の実践報告を聴く機会を作る。																																																
留意事項（履修条件他）																																																
5回以上の欠席は評価の対象としない、授業中のレポートも評価の対象となる。																																																
教材																																																
社会福祉士養成講座編集委員会『新社会福祉士養成講座 第4巻現代社会と福祉第4版』中央法規 2014年 2,808円(税込) 最新版																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会福祉の考え方と理念</td> <td>社会福祉とは何かを考え整理する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会構造の変容と社会福祉</td> <td>現在における児童、高齢者の生活問題をニュースや新聞報道から考えてくる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>欧米及び日本における社会福祉の歴史</td> <td>欧米の福祉制度を自分なりに把握してみる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>公的扶助①（生活保護の歴史と概要）</td> <td>憲法25条との関係を考えてみる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>公的扶助②（仕組みと問題点及び生活困窮者自立支援）</td> <td>自立助長とはどのように理解するか考える</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>高齢者福祉制度①（高齢者福祉の歴史と高齢者福祉サービスの概要）</td> <td>高齢者にとっての生きがい、社会参加を考える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>高齢者福祉②（介護保険制度の仕組みと問題点）</td> <td>介護保険の目的、医療との結びつきを整理する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>高齢者福祉③（地域包括支援センターと高齢者虐待防止、成年後見制度）</td> <td>地元の地域包括支援センターの活動を調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>障害者福祉①（障害者福祉の歴史と理念及びノーマライゼーション）</td> <td>ノーマライゼーションについて自分の考えをまとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>障害者福祉②（身体障害者福祉と総合支援法）</td> <td>身体障害者がもつ問題を把握し解決策を考える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>障害者福祉③（知的障害者福祉と総合支援法）</td> <td>知的障害者がもつ問題を把握し解決策を考える</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>障害者福祉④（精神障害者福祉と総合支援法、医療福祉制度、成年後見制度）</td> <td>精神障害者がもつ問題を把握し解決策を考える</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>児童福祉（児童福祉の歴史と児童福祉制度、保育制度、児童手当、児童虐待防止）</td> <td>地元の児童福祉政策を把握しておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>母子寡婦福祉（母子寡婦福祉の歴史と防止寡婦福祉制度及び児童扶養手当、DV防止）</td> <td>DVと母子世帯が持つ問題と解決策を考える</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>地域福祉（社会福祉協議会、ボランティア、共同募金、NPO）及び全体のまとめ</td> <td>行政以外で地域で支える機関を把握していく</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	社会福祉の考え方と理念	社会福祉とは何かを考え整理する	2	社会構造の変容と社会福祉	現在における児童、高齢者の生活問題をニュースや新聞報道から考えてくる	3	欧米及び日本における社会福祉の歴史	欧米の福祉制度を自分なりに把握してみる	4	公的扶助①（生活保護の歴史と概要）	憲法25条との関係を考えてみる	5	公的扶助②（仕組みと問題点及び生活困窮者自立支援）	自立助長とはどのように理解するか考える	6	高齢者福祉制度①（高齢者福祉の歴史と高齢者福祉サービスの概要）	高齢者にとっての生きがい、社会参加を考える	7	高齢者福祉②（介護保険制度の仕組みと問題点）	介護保険の目的、医療との結びつきを整理する	8	高齢者福祉③（地域包括支援センターと高齢者虐待防止、成年後見制度）	地元の地域包括支援センターの活動を調べる	9	障害者福祉①（障害者福祉の歴史と理念及びノーマライゼーション）	ノーマライゼーションについて自分の考えをまとめる	10	障害者福祉②（身体障害者福祉と総合支援法）	身体障害者がもつ問題を把握し解決策を考える	11	障害者福祉③（知的障害者福祉と総合支援法）	知的障害者がもつ問題を把握し解決策を考える	12	障害者福祉④（精神障害者福祉と総合支援法、医療福祉制度、成年後見制度）	精神障害者がもつ問題を把握し解決策を考える	13	児童福祉（児童福祉の歴史と児童福祉制度、保育制度、児童手当、児童虐待防止）	地元の児童福祉政策を把握しておく	14	母子寡婦福祉（母子寡婦福祉の歴史と防止寡婦福祉制度及び児童扶養手当、DV防止）	DVと母子世帯が持つ問題と解決策を考える	15	地域福祉（社会福祉協議会、ボランティア、共同募金、NPO）及び全体のまとめ	行政以外で地域で支える機関を把握していく
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	社会福祉の考え方と理念	社会福祉とは何かを考え整理する																																														
2	社会構造の変容と社会福祉	現在における児童、高齢者の生活問題をニュースや新聞報道から考えてくる																																														
3	欧米及び日本における社会福祉の歴史	欧米の福祉制度を自分なりに把握してみる																																														
4	公的扶助①（生活保護の歴史と概要）	憲法25条との関係を考えてみる																																														
5	公的扶助②（仕組みと問題点及び生活困窮者自立支援）	自立助長とはどのように理解するか考える																																														
6	高齢者福祉制度①（高齢者福祉の歴史と高齢者福祉サービスの概要）	高齢者にとっての生きがい、社会参加を考える																																														
7	高齢者福祉②（介護保険制度の仕組みと問題点）	介護保険の目的、医療との結びつきを整理する																																														
8	高齢者福祉③（地域包括支援センターと高齢者虐待防止、成年後見制度）	地元の地域包括支援センターの活動を調べる																																														
9	障害者福祉①（障害者福祉の歴史と理念及びノーマライゼーション）	ノーマライゼーションについて自分の考えをまとめる																																														
10	障害者福祉②（身体障害者福祉と総合支援法）	身体障害者がもつ問題を把握し解決策を考える																																														
11	障害者福祉③（知的障害者福祉と総合支援法）	知的障害者がもつ問題を把握し解決策を考える																																														
12	障害者福祉④（精神障害者福祉と総合支援法、医療福祉制度、成年後見制度）	精神障害者がもつ問題を把握し解決策を考える																																														
13	児童福祉（児童福祉の歴史と児童福祉制度、保育制度、児童手当、児童虐待防止）	地元の児童福祉政策を把握しておく																																														
14	母子寡婦福祉（母子寡婦福祉の歴史と防止寡婦福祉制度及び児童扶養手当、DV防止）	DVと母子世帯が持つ問題と解決策を考える																																														
15	地域福祉（社会福祉協議会、ボランティア、共同募金、NPO）及び全体のまとめ	行政以外で地域で支える機関を把握していく																																														
評価方法 および評価基準																																																
期末試験 60%、授業の参加及び毎回の課題提出 40%																																																
S (100~90点) : 社会福祉制度の内容や限界、問題点も理解し、インフォーマルな機関や制度との連携、新たな取り組みの必要性も併せて考えることができる																																																
A (89~80点) : 社会福祉制度の内容が理解でき、適切に制度の活用と関係機関の連携を考えることができる																																																
B (79~70点) : 社会福祉制度の内容が概ね理解でき、生活課題をもつ人々に対して制度の活用が図れる																																																
C (69~60点) : 社会福祉制度の目的が概ね理解でき、周りに対して大まかに説明できる																																																
D (60点未満) : Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1001	国際文化論	1年/後期	1
担当教員		科目区分	
大野和基		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的																											
自国から離れて生活したことがない人は、自国の文化の視点からものをみて判断してしまう。しかし、それは非常に危険なことである。日本とは文化の基盤がかなり異なるアメリカの文化を取り上げることで、新しい視点からものごとを見る能够ができるようとする。																											
授業内容																											
アメリカの制度や社会問題を知り、その背景にある課題や文化的な特徴を知ることで、視野を広く持つ素地を養う。具体的には、科目担当者の様々な分野の著名人とのインタビューで得た知識や経験を学ぶことを通して、それによる知識を自己の生活に応用させる素地を養い、自己の生活の足元を見ながら、遠くの目標を見据えることを学ぶ。																											
留意事項（履修条件他）																											
集中講義 12/21（水）2-5限、12/22（木）2-5限																											
教材																											
配布する資料																											
授業計画および学習課題（予習・復習）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大統領はいかにして選ばれるか</td> <td>政治制度の違いを学ぶ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日米の教育システムの違い</td> <td>特に大学教育のあり方の違いを学ぶ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日米の司法制度の違い</td> <td>特に司法取引の功罪を考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日米の危機管理に対する考え方の違い</td> <td>子供を徹底的に守るアメリカ、道路の作り方</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>セカンドチャンスを与えない日本社会</td> <td>失敗を栄誉を考えるアメリカについて</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アメリカの銃文化</td> <td>銃に対するまったく異なる見方について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>政治とメディア</td> <td>政治をビジネス化するアメリカについて</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本とはまったく異なる移民政策について</td> <td>アメリカの移民政策を知る</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	大統領はいかにして選ばれるか	政治制度の違いを学ぶ	2	日米の教育システムの違い	特に大学教育のあり方の違いを学ぶ	3	日米の司法制度の違い	特に司法取引の功罪を考える	4	日米の危機管理に対する考え方の違い	子供を徹底的に守るアメリカ、道路の作り方	5	セカンドチャンスを与えない日本社会	失敗を栄誉を考えるアメリカについて	6	アメリカの銃文化	銃に対するまったく異なる見方について	7	政治とメディア	政治をビジネス化するアメリカについて	8	日本とはまったく異なる移民政策について	アメリカの移民政策を知る
回	内 容	学習課題（予習・復習）																									
1	大統領はいかにして選ばれるか	政治制度の違いを学ぶ																									
2	日米の教育システムの違い	特に大学教育のあり方の違いを学ぶ																									
3	日米の司法制度の違い	特に司法取引の功罪を考える																									
4	日米の危機管理に対する考え方の違い	子供を徹底的に守るアメリカ、道路の作り方																									
5	セカンドチャンスを与えない日本社会	失敗を栄誉を考えるアメリカについて																									
6	アメリカの銃文化	銃に対するまったく異なる見方について																									
7	政治とメディア	政治をビジネス化するアメリカについて																									
8	日本とはまったく異なる移民政策について	アメリカの移民政策を知る																									
評価方法 および評価基準																											
課題レポート 100%																											
S (100~90 点) : 日米の違いをきちんと理解している。文章の構成ができる。																											
A (89~80 点) : 日米の違いは理解しているが、文章が幼稚である。																											
B (79~70 点) : 日米の違いの理解がいまいち足りない。																											
C (69~60 点) : 日米の違いを理解していないだけでなく、文章も幼稚である。																											
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない																											

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1101	教育社会学	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
松浦善満		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
教育社会学における基礎的な学説に学ぶ。また学校制度・学級経営を背景にした教育問題について社会学的に学ぶことを目的にする。特に児童期、青年期を生きるライフステージの質を考え人間生活の健全なあり方について探求する。		
授業内容		
教育社会学の基礎知識を学ぶ。次に、学校現場でのプロブレム（いじめ・不登校。教員の多忙化等）の実態・要因を明らかにし、解決へのプログラムを考える。調査データ、フィールド調査ビデオも視聴して豊かに学ぶ。参加学生が作成したプログラムのプレゼンテーションを行う。		
留意事項（履修条件他）		
出席を重視する。 集中講義 9/17（土）2-5限、9/24（土）2-5限、10/1（土）2-5限、10/8（土）2-4限		
教材		
随時資料を配布する。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	教育社会学とは①（デュルケームからパーソンズへ）	デュルケーム「自殺論」からパーソンズ「家族論」を紹介
2	教育社会学とは②（清水義弘から森田洋司へ）	清水、森田の教育社会学の仕組みを理解させる。
3	教育問題の社会学①（いじめ問題の実態・データと事例にみる）	大河内清輝君いじめ自殺事件の遺書を読む
4	教育問題の社会学②（いじめ問題の国際比較）	イギリス・日本・ノルウェー・オランダ4カ国調査結果から
5	教育問題の社会学③（いじめの解決策・日本と諸外国）	ピアサポート・ピアカウンセリングを学ぶ
6	いじめ問題の解決策を考える（ワークショップ）	学校運営をはじめ教育システム改革の課題を明らかにする。
7	教育問題の社会学④（不登校問題の実態・データと事例にみる）	「私の弟の不登校」を読む・文部科学省データを読む
8	教育問題の社会学⑤（不登校問題の要因を探る）	拙著「教室から見た不登校」（森田洋司共編・東洋館出版参照）に学ぶ
9	不登校問題の解決策を考える（ワークショップ）	学校運営をはじめ教育システム改革の課題を明らかにする。
10	不登校問題の社会学⑥（北星学園余市高校調査から考える）	ビデオ（北海道放送制作・文部省協力）視聴
11	教育問題の社会学⑦（教師の多忙化の実態をみる）	ビデオ（NHK共同制作）視聴
12	教育問題の社会学⑧（教師の多忙化の要因分析）	多忙調査データ紹介
13	教育問題の社会学⑨（教師の多忙化を克服する方策を考える）	学校運営をはじめ教育システム改革の課題を明らかにする。
14	これからの教育問題と教職の課題（学校現場からのレポート）	卒業生の声を学生に届ける
15	まとめ・それでも教師は楽しい仕事（教員文化と教師の生きがい）	これからの学校改革の見通しを提示する。
評価方法 および評価基準		
課題レポート 50% プレゼン 50%		
S (100~90点) : 課題レポートとプレゼンに特別に優れていること		
A (89~80点) : 課題レポートとプレゼンに優れた成果をあげる。		
B (79~70点) : 課題レポート又はプレゼンのどちらかに優れた成果をあげる。		
C (69~60点) : 課題レポートとプレゼンを実施することができる。		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1201	社会保障論	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
塚本銳裕		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的	<p>国内外の社会保障制度の歴史を概観し、現在日本の社会保障制度の体系と各制度の基本的構造を理解する。少子高齢化、核家族化、地域生活の変化、雇用をめぐる状況等社会的課題と各制度との関係や課題についても理解する。また、看護職として、社会保障制度を住民の健全な生活基盤の安定に結び付け理解していく。</p>																																																		
授業内容	<p>日本の社会保障制度の中心をなす、年金保険制度・医療保険制度・介護保険制度等の仕組みと現状・課題を理解することを目的とする。疾病、高齢、児童等の社会生活上の課題を軸に日本の社会保障制度の必要性と問題点を事例や統計データーを基に整理する。また、社会保障構造改革に向けてどのような改革を行おうとしているのかを国的情報等から理解を深める。授業の形態としては、講義を中心としつつ、事例を基に学生間でのディスカッションや講師等との意見交換を行い理解力を高める。必要に応じ、新聞報道などで配信されているトピックや社会問題についても触れる。</p>																																																		
留意事項（履修条件他）	<p>毎回テーマ（制度）が変わるため、欠席5回以上は評価の対象としない</p>																																																		
教材	<p>社会福祉士養成講座編集委員会 『新社会福祉士養成講座 第12巻社会保障第4版』 中央法規 2014年 2,808円（税込）最新版</p>																																																		
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会保障の理念と機能、社会保障制度の体系</td> <td>社会保障とは何かを考えてくる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>欧米における社会保障の歴史的展開</td> <td>欧米の社会保障制度の概要を調べてみる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本における社会保障の歴史的展開</td> <td>昭和初期からの社会保障制度を概観しておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>年金制度の概要と国民年金</td> <td>年金制度について調べ概要を把握しておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>厚生年金保険と共済年金、年金制度をめぐる近年の動向</td> <td>両親が加入している年金を確認してみる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>医療保険制度の沿革及び国民健康保険制度</td> <td>自分が加入している医療保険を確認する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>後期高齢者医療制度、健康保険制度、共済医療制度</td> <td>国民健康保険との相違を整理しておく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>労働保険の沿革と概要及び労働者災害補償保険</td> <td>労働者災害とはどのような災害か調べてみる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>雇用保険と労働保険制度をめぐる近年の動向</td> <td>雇用保険制度の受給要件を把握する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>介護保険制度の創設の経緯と概要</td> <td>介護保険制度創設のねらいを把握する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>介護保険制度をめぐる近年の動向</td> <td>行政の資料等から介護サービスを把握する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会福祉制度の沿革と概要、生活保護制度、生活困窮者自立支援</td> <td>生活保護法1条から8条までを確認する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>高齢者福祉と障害者福祉の概要と課題</td> <td>高齢者、障害者福祉法の目的を把握する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>児童福祉、母子及び寡婦福祉、社会手当の概要と課題</td> <td>児童、母子寡婦福祉法の目的を把握する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ、全体の振り返り</td> <td>理解不足な点を整理しておく</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	社会保障の理念と機能、社会保障制度の体系	社会保障とは何かを考えてくる	2	欧米における社会保障の歴史的展開	欧米の社会保障制度の概要を調べてみる	3	日本における社会保障の歴史的展開	昭和初期からの社会保障制度を概観しておく	4	年金制度の概要と国民年金	年金制度について調べ概要を把握しておく	5	厚生年金保険と共済年金、年金制度をめぐる近年の動向	両親が加入している年金を確認してみる	6	医療保険制度の沿革及び国民健康保険制度	自分が加入している医療保険を確認する	7	後期高齢者医療制度、健康保険制度、共済医療制度	国民健康保険との相違を整理しておく	8	労働保険の沿革と概要及び労働者災害補償保険	労働者災害とはどのような災害か調べてみる	9	雇用保険と労働保険制度をめぐる近年の動向	雇用保険制度の受給要件を把握する	10	介護保険制度の創設の経緯と概要	介護保険制度創設のねらいを把握する	11	介護保険制度をめぐる近年の動向	行政の資料等から介護サービスを把握する	12	社会福祉制度の沿革と概要、生活保護制度、生活困窮者自立支援	生活保護法1条から8条までを確認する	13	高齢者福祉と障害者福祉の概要と課題	高齢者、障害者福祉法の目的を把握する	14	児童福祉、母子及び寡婦福祉、社会手当の概要と課題	児童、母子寡婦福祉法の目的を把握する	15	まとめ、全体の振り返り	理解不足な点を整理しておく
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																																	
1	社会保障の理念と機能、社会保障制度の体系	社会保障とは何かを考えてくる																																																	
2	欧米における社会保障の歴史的展開	欧米の社会保障制度の概要を調べてみる																																																	
3	日本における社会保障の歴史的展開	昭和初期からの社会保障制度を概観しておく																																																	
4	年金制度の概要と国民年金	年金制度について調べ概要を把握しておく																																																	
5	厚生年金保険と共済年金、年金制度をめぐる近年の動向	両親が加入している年金を確認してみる																																																	
6	医療保険制度の沿革及び国民健康保険制度	自分が加入している医療保険を確認する																																																	
7	後期高齢者医療制度、健康保険制度、共済医療制度	国民健康保険との相違を整理しておく																																																	
8	労働保険の沿革と概要及び労働者災害補償保険	労働者災害とはどのような災害か調べてみる																																																	
9	雇用保険と労働保険制度をめぐる近年の動向	雇用保険制度の受給要件を把握する																																																	
10	介護保険制度の創設の経緯と概要	介護保険制度創設のねらいを把握する																																																	
11	介護保険制度をめぐる近年の動向	行政の資料等から介護サービスを把握する																																																	
12	社会福祉制度の沿革と概要、生活保護制度、生活困窮者自立支援	生活保護法1条から8条までを確認する																																																	
13	高齢者福祉と障害者福祉の概要と課題	高齢者、障害者福祉法の目的を把握する																																																	
14	児童福祉、母子及び寡婦福祉、社会手当の概要と課題	児童、母子寡婦福祉法の目的を把握する																																																	
15	まとめ、全体の振り返り	理解不足な点を整理しておく																																																	
評価方法 および評価基準	<p>期末試験70%、課題レポート30%</p> <p>S(100~90点)： 住民が持つ生活課題に対して社会保障制度を総合的に活用でき、生活変化の予測にも対応できる</p> <p>A(89~80点)： 社会保障制度全般が理解でき、住民の生活課題にあわせ制度の説明及び活用を図ることができる</p> <p>B(79~70点)： 社会保障制度の内容が概ね理解でき、住民の生活課題にあわせ情報として伝えられる</p> <p>C(69~60点)： 社会保障制度の目的を概ね理解でき、周りの人々に対しても説明できる</p> <p>D(60点未満)： Cのレベルに達していない</p>																																																		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1301	哲学	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
内藤可夫		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
哲学の歴史をたどり、学問や人間を深く理解する		
授業内容		
古代ギリシアに誕生した哲学は、その後自然科学、自然科学や人間学、社会科学へと分化し、今日の組織化された学問体系へと発展を遂げた。これはヨーロッパに生まれた特殊な学問の歴史である。だが、現代においては、必ずしも自然や人間、社会の学問的な追及は成功しているとは言えない状態である。それは人間理解の限界がニーチェ以来暴露され批判されたからである。授業ではヨーロッパの哲学史を存在と理性の概念を軸に辿り、今日の文明や分化、思想、そして人間の生き方の問題を根本から理解することを試み、生命や環境などの個別の問題の見通しについても検討していくたい。		
留意事項（履修条件他）		
なし		
教材		
適宜プリントを配布。参考書についても適宜指示する。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	哲学とは何か？ フィロソフィアの誕生とその意味	哲学の語の意味を調べる
2	存在概念の岐路としてのパルメニデスとヘラクレイトス	存在という語の意味を考える
3	ソクラテス、プラトン、アリストテレスによる人間の哲学	ソクラテスについて調べる
4	古代哲学のその後とキリスト教	キリスト教思想の特徴を確認する
5	中世哲学からルネサンスへ 合理的な世界理解（ガリレオ）	ルネサンスについて調べる
6	「知は力なり」ベーコン、「我思うゆえに我あり」デカルト	「我思うゆえに我あり」の意味を確認する
7	イギリス経験論デビッド・ヒュームの徹底的懐疑	懐疑という言葉の意味を調べる
8	カントによるヨーロッパ思想の救出とその限界	カントの思想の影響について調べる
9	ヘーゲルによる体系的知の構想と現代史への深甚なる影響	ヘーゲルの現代への影響について調べる
10	「神の死」ニーチェによるヨーロッパ思想の革命的転倒	ニーチェについて調べる
11	ニヒリズム時代の始まり（ニーチェ）	ニヒリズムの意味を整理し確認する
12	現代哲学によるヨーロッパ哲学修復の試みとその終焉	現代における哲学の印象について考えておく
13	現代の学問上の大問題「自己」とは何か？存在とは何か？	私という存在はどういう存在か考えてみる
14	現代の哲学の限界と可能性 非ヨーロッパ思想の可能性と人格、環境	ヨーロッパ以外の思想、例えば東洋思想の現代における役割を考える
15	まとめ	哲学の歴史の大きな流れを確認する
評価方法 および評価基準		
期末試験 100%、課題レポート 0%		
S (100~90 点) : 哲学の歴史の流れを把握し、現代の哲学の課題と可能性について適切に理解している		
A (89~80 点) : 哲学の歴史の流れを把握し、現代の哲学の課題について理解している		
B (79~70 点) : 哲学の歴史の流れをおおよそ把握し、現代の哲学について一部理解している		
C (69~60 点) : 哲学の歴史について一部理解しており、現代の哲学の課題の一部を知っている		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1401	ヨーロッパの芸術文化	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
日比野雅彦		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的	西欧文化の基礎を歴史的に考察し、芸術と社会との関わりを考える。																																																
授業内容	ヨーロッパの芸術文化について言語・文学・美術の各分野にわたって概観する。言語についてはヨーロッパの言語の歴史と近代化の中で言語がはたした役割について検証する。文学については古代ギリシャ時代から現代にいたる演劇の歴史、詩と音楽の関係、印刷術の進化とともに歩んできた小説などについて様々な角度から光をあてる。美術の分野では建築・彫刻・絵画について歴史の流れをたどる。また、芸術文化が技術の発展とどのようにかかわってきたかを検証し、社会と芸術文化の今後を考える。																																																
留意事項（履修条件他）																																																	
特になし																																																	
教材																																																	
プリント配布																																																	
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ヨーロッパとは</td> <td>世界の中でヨーロッパがどこに位置するのか、また歴史的にどのような存在であったのか世界史の教科書で確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ヨーロッパの言語の歴史</td> <td>ヨーロッパの言語にはどのような者があるのか確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現在のヨーロッパの言語</td> <td>時代とともに言語が形成されていくことをみるためヨーロッパの歴史を確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>古代ギリシャ・古代ローマの文学：『オイディップス王』</td> <td>古代ギリシャ・古代ローマの遺跡にはどのようなものがあるのか確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キリスト教と教会美術</td> <td>キリスト教の布教活動と教会建築・美術との関係を調べるために『聖書』の内容について簡単に調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中世の文学：『アーサー王』</td> <td>中世の騎士道精神がどんなものであったのか確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ルネサンス：印刷術の発明と大航海時代</td> <td>印刷術が発明されることによって社会にどのような影響が起きたと考えられるか調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>演劇の時代（1）：シェークスピア</td> <td>演劇が社会に与える影響について調べておくこと。代表作の「ロミオとジュリエット」の内容を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>演劇の時代（2）：フランス古典劇</td> <td>同時代の学者デカルトやパスカルについて調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>啓蒙の時代：『百科全書』</td> <td>どのような科学的な発見があったのか確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>芸術家の誕生：バッハからベートーベンへ</td> <td>バッハ、モーツアルト、ベートーベンの音楽の特色を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>教育制度の整備：小説の時代</td> <td>フランス革命後の19世紀に起きた社会の変化を確認しておくこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>絵画と写真</td> <td>印象派の絵画がどのような特徴をもっているのか調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>映画の誕生</td> <td>19世紀末から20世紀初冬にかけての社会の変化を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ヨーロッパの食文化</td> <td>食文化がどのように形成してきたのか、またフランス料理、イタリア料理などの特色を調べておくこと</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	ヨーロッパとは	世界の中でヨーロッパがどこに位置するのか、また歴史的にどのような存在であったのか世界史の教科書で確認しておくこと	2	ヨーロッパの言語の歴史	ヨーロッパの言語にはどのような者があるのか確認しておくこと	3	現在のヨーロッパの言語	時代とともに言語が形成されていくことをみるためヨーロッパの歴史を確認しておくこと	4	古代ギリシャ・古代ローマの文学：『オイディップス王』	古代ギリシャ・古代ローマの遺跡にはどのようなものがあるのか確認しておくこと	5	キリスト教と教会美術	キリスト教の布教活動と教会建築・美術との関係を調べるために『聖書』の内容について簡単に調べておくこと	6	中世の文学：『アーサー王』	中世の騎士道精神がどんなものであったのか確認しておくこと	7	ルネサンス：印刷術の発明と大航海時代	印刷術が発明されることによって社会にどのような影響が起きたと考えられるか調べておくこと	8	演劇の時代（1）：シェークスピア	演劇が社会に与える影響について調べておくこと。代表作の「ロミオとジュリエット」の内容を調べておくこと	9	演劇の時代（2）：フランス古典劇	同時代の学者デカルトやパスカルについて調べておくこと	10	啓蒙の時代：『百科全書』	どのような科学的な発見があったのか確認しておくこと	11	芸術家の誕生：バッハからベートーベンへ	バッハ、モーツアルト、ベートーベンの音楽の特色を調べておくこと	12	教育制度の整備：小説の時代	フランス革命後の19世紀に起きた社会の変化を確認しておくこと	13	絵画と写真	印象派の絵画がどのような特徴をもっているのか調べておくこと	14	映画の誕生	19世紀末から20世紀初冬にかけての社会の変化を調べておくこと	15	ヨーロッパの食文化	食文化がどのように形成してきたのか、またフランス料理、イタリア料理などの特色を調べておくこと
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																															
1	ヨーロッパとは	世界の中でヨーロッパがどこに位置するのか、また歴史的にどのような存在であったのか世界史の教科書で確認しておくこと																																															
2	ヨーロッパの言語の歴史	ヨーロッパの言語にはどのような者があるのか確認しておくこと																																															
3	現在のヨーロッパの言語	時代とともに言語が形成されていくことをみるためヨーロッパの歴史を確認しておくこと																																															
4	古代ギリシャ・古代ローマの文学：『オイディップス王』	古代ギリシャ・古代ローマの遺跡にはどのようなものがあるのか確認しておくこと																																															
5	キリスト教と教会美術	キリスト教の布教活動と教会建築・美術との関係を調べるために『聖書』の内容について簡単に調べておくこと																																															
6	中世の文学：『アーサー王』	中世の騎士道精神がどんなものであったのか確認しておくこと																																															
7	ルネサンス：印刷術の発明と大航海時代	印刷術が発明されることによって社会にどのような影響が起きたと考えられるか調べておくこと																																															
8	演劇の時代（1）：シェークスピア	演劇が社会に与える影響について調べておくこと。代表作の「ロミオとジュリエット」の内容を調べておくこと																																															
9	演劇の時代（2）：フランス古典劇	同時代の学者デカルトやパスカルについて調べておくこと																																															
10	啓蒙の時代：『百科全書』	どのような科学的な発見があったのか確認しておくこと																																															
11	芸術家の誕生：バッハからベートーベンへ	バッハ、モーツアルト、ベートーベンの音楽の特色を調べておくこと																																															
12	教育制度の整備：小説の時代	フランス革命後の19世紀に起きた社会の変化を確認しておくこと																																															
13	絵画と写真	印象派の絵画がどのような特徴をもっているのか調べておくこと																																															
14	映画の誕生	19世紀末から20世紀初冬にかけての社会の変化を調べておくこと																																															
15	ヨーロッパの食文化	食文化がどのように形成してきたのか、またフランス料理、イタリア料理などの特色を調べておくこと																																															
評価方法 および評価基準																																																	
課題レポート 80%	出席 20%																																																
S (100~90 点) :	ヨーロッパの芸術文化について十分な知識を身につけている																																																
A (89~80 点) :	ヨーロッパの芸術文化について一般的な知識を身につけている																																																
B (79~70 点) :	ヨーロッパの芸術文化について基礎的な知識が十分ある																																																
C (69~60 点) :	ヨーロッパの芸術文化についての基本が理解できている																																																
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1501	日本の歴史と文化	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
田浦雅徳		基礎科目 - 人間と生活の理解	

講義目的																																																
高校時代までに学んだ歴史知識の確認を第一として、古代から現在までの我が国の歴史を広い視点から学ぶ。また、周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、我が国が如何なる発展をしてきたかを考え、現在の我が国がどのような理由で形成されているのかを理解する。																																																
授業内容																																																
我が国の歴史・文化の基礎的知識の理解を通じて、今後の我が国のあるべき姿の指針を得ることを目標とし、先史時代から現在までの我が国の歴史の流れを学ぶ。その際、各時代を代表する政治的、文化的重要事項・事件や政治的・文化的な代表人物等を中心として講義し、その時代理解の一助とする。また、我が国の周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、その中で、我が国がいかなる歩みをしたのかを考え、現在の我が国をとりまく諸問題を歴史的に理解する。そして、今後、我が国が取るべき指針を得る。																																																
留意事項（履修条件他）																																																
看護師である前に一個の日本人としての教養を身に付けることもまた重要である。過去の日本人の生き方や知恵を学ぶことは看護師としてきっと役立つことが多いであろう。																																																
教材																																																
もういちど読む山川日本史：五味文彦・鳥海靖編 山川出版社 2009、1,500円+税																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本のあけぼの</td> <td>テキスト第1章を読み、旧石器時代・縄文時代・弥生時代の特徴について知る。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大和政権の成立</td> <td>第2章を読み、大和政権の成立や古墳文化の特徴について知る。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>東アジア情勢と古代国家の成立</td> <td>第3章をよく読む。隋や唐という中国における巨大帝国の成立という状況のなかで、朝鮮半島の情勢を踏まえながら、飛鳥・奈良時代の日本が如何にして律令国家の形成を行ったかを知る。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>律令国家の変質と摂関政治</td> <td>第4章を読み、平安時代における藤原氏の台頭と摂関政治の進行と衰退を武士団の発生と関連づけながらみていく。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武家社会の形成</td> <td>第5章を読み、院政から平氏政権を経て鎌倉幕府の成立いたる過程とその展開をみていく。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>蒙古襲来と武家社会の転換</td> <td>第6章を読み、蒙古襲来によって鎌倉幕府が衰退し、南北朝時代を経て室町幕府が成立した時代を知る。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>下剋上と戦国大名</td> <td>第7章を読み、応仁の乱を経て守護大名がやがて戦国大名に取って代わられる時代をみていく。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>幕藩体制の確立</td> <td>第8章を読み、戦国時代から織豊政権を経て、徳川将軍のもと幕府が諸藩を支配する幕藩体制の成立にいたる歴史をみていく。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>幕政の安定と町人の活動</td> <td>第9章を読み、徳川綱吉の時代を中心に町人の台頭と元禄文化の繁栄をみていく。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>幕藩体制の動搖</td> <td>第10章を読み、動搖しゆく幕府政治のなかで行われた享保・寛政・天保の三大改革を中心みていく。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>幕末の動乱と明治維新</td> <td>第11章1～3節を読み、黒船来航から始まる幕末の動乱のなかで倒幕から明治維新へ大転換していく時代の動きを知る。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近代国家の成立と明治立憲制の形成</td> <td>第11章4～9節を読み、西洋をモデルに急速な近代化の発展と立憲政治の確立に努力する明治日本の苦闘の歴史をみていく。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>日清・日露戦争と帝国主義的発展</td> <td>第12章を読み、朝鮮問題や満州をめぐって日清・日露の両戦争に勝利した日本が、植民地を持ち大陸へ進出して帝国主義的な発展をとげていく明と暗の側面をみていく。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本をめぐる内外情勢</td> <td>第13章を読み、大正時代から昭和戦前期にかけて、政党政治を確立した第一次大戦後の日本が、列強のうごめく国際社会のなかで、政治の不安定化をかかえながら如何にして自国の自立と発展をとげようとしたかをみていく。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>「大東亜戦争」と戦後日本</td> <td>第14・15章を読み、満州事変・日中戦争を経て「大東亜戦争」の開戦に踏み切り、あえなく敗戦のどん底に落ち込んだものの、そこから再び国際社会の有力な一員として発展するまでに回復した悲劇と栄光の歴史をみていく。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	日本のあけぼの	テキスト第1章を読み、旧石器時代・縄文時代・弥生時代の特徴について知る。	2	大和政権の成立	第2章を読み、大和政権の成立や古墳文化の特徴について知る。	3	東アジア情勢と古代国家の成立	第3章をよく読む。隋や唐という中国における巨大帝国の成立という状況のなかで、朝鮮半島の情勢を踏まえながら、飛鳥・奈良時代の日本が如何にして律令国家の形成を行ったかを知る。	4	律令国家の変質と摂関政治	第4章を読み、平安時代における藤原氏の台頭と摂関政治の進行と衰退を武士団の発生と関連づけながらみていく。	5	武家社会の形成	第5章を読み、院政から平氏政権を経て鎌倉幕府の成立いたる過程とその展開をみていく。	6	蒙古襲来と武家社会の転換	第6章を読み、蒙古襲来によって鎌倉幕府が衰退し、南北朝時代を経て室町幕府が成立した時代を知る。	7	下剋上と戦国大名	第7章を読み、応仁の乱を経て守護大名がやがて戦国大名に取って代わられる時代をみていく。	8	幕藩体制の確立	第8章を読み、戦国時代から織豊政権を経て、徳川将軍のもと幕府が諸藩を支配する幕藩体制の成立にいたる歴史をみていく。	9	幕政の安定と町人の活動	第9章を読み、徳川綱吉の時代を中心に町人の台頭と元禄文化の繁栄をみていく。	10	幕藩体制の動搖	第10章を読み、動搖しゆく幕府政治のなかで行われた享保・寛政・天保の三大改革を中心みていく。	11	幕末の動乱と明治維新	第11章1～3節を読み、黒船来航から始まる幕末の動乱のなかで倒幕から明治維新へ大転換していく時代の動きを知る。	12	近代国家の成立と明治立憲制の形成	第11章4～9節を読み、西洋をモデルに急速な近代化の発展と立憲政治の確立に努力する明治日本の苦闘の歴史をみていく。	13	日清・日露戦争と帝国主義的発展	第12章を読み、朝鮮問題や満州をめぐって日清・日露の両戦争に勝利した日本が、植民地を持ち大陸へ進出して帝国主義的な発展をとげていく明と暗の側面をみていく。	14	日本をめぐる内外情勢	第13章を読み、大正時代から昭和戦前期にかけて、政党政治を確立した第一次大戦後の日本が、列強のうごめく国際社会のなかで、政治の不安定化をかかえながら如何にして自国の自立と発展をとげようとしたかをみていく。	15	「大東亜戦争」と戦後日本	第14・15章を読み、満州事変・日中戦争を経て「大東亜戦争」の開戦に踏み切り、あえなく敗戦のどん底に落ち込んだものの、そこから再び国際社会の有力な一員として発展するまでに回復した悲劇と栄光の歴史をみていく。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	日本のあけぼの	テキスト第1章を読み、旧石器時代・縄文時代・弥生時代の特徴について知る。																																														
2	大和政権の成立	第2章を読み、大和政権の成立や古墳文化の特徴について知る。																																														
3	東アジア情勢と古代国家の成立	第3章をよく読む。隋や唐という中国における巨大帝国の成立という状況のなかで、朝鮮半島の情勢を踏まえながら、飛鳥・奈良時代の日本が如何にして律令国家の形成を行ったかを知る。																																														
4	律令国家の変質と摂関政治	第4章を読み、平安時代における藤原氏の台頭と摂関政治の進行と衰退を武士団の発生と関連づけながらみていく。																																														
5	武家社会の形成	第5章を読み、院政から平氏政権を経て鎌倉幕府の成立いたる過程とその展開をみていく。																																														
6	蒙古襲来と武家社会の転換	第6章を読み、蒙古襲来によって鎌倉幕府が衰退し、南北朝時代を経て室町幕府が成立した時代を知る。																																														
7	下剋上と戦国大名	第7章を読み、応仁の乱を経て守護大名がやがて戦国大名に取って代わられる時代をみていく。																																														
8	幕藩体制の確立	第8章を読み、戦国時代から織豊政権を経て、徳川将軍のもと幕府が諸藩を支配する幕藩体制の成立にいたる歴史をみていく。																																														
9	幕政の安定と町人の活動	第9章を読み、徳川綱吉の時代を中心に町人の台頭と元禄文化の繁栄をみていく。																																														
10	幕藩体制の動搖	第10章を読み、動搖しゆく幕府政治のなかで行われた享保・寛政・天保の三大改革を中心みていく。																																														
11	幕末の動乱と明治維新	第11章1～3節を読み、黒船来航から始まる幕末の動乱のなかで倒幕から明治維新へ大転換していく時代の動きを知る。																																														
12	近代国家の成立と明治立憲制の形成	第11章4～9節を読み、西洋をモデルに急速な近代化の発展と立憲政治の確立に努力する明治日本の苦闘の歴史をみていく。																																														
13	日清・日露戦争と帝国主義的発展	第12章を読み、朝鮮問題や満州をめぐって日清・日露の両戦争に勝利した日本が、植民地を持ち大陸へ進出して帝国主義的な発展をとげていく明と暗の側面をみていく。																																														
14	日本をめぐる内外情勢	第13章を読み、大正時代から昭和戦前期にかけて、政党政治を確立した第一次大戦後の日本が、列強のうごめく国際社会のなかで、政治の不安定化をかかえながら如何にして自国の自立と発展をとげようとしたかをみていく。																																														
15	「大東亜戦争」と戦後日本	第14・15章を読み、満州事変・日中戦争を経て「大東亜戦争」の開戦に踏み切り、あえなく敗戦のどん底に落ち込んだものの、そこから再び国際社会の有力な一員として発展するまでに回復した悲劇と栄光の歴史をみていく。																																														
評価方法 および評価基準																																																
期末試験 試験100%																																																
S (100~90点) : 日本史の知識と流れについて理解が極めてよくできている。																																																
A (89~80点) : 日本史の知識と流れについて理解がよくできている。																																																
B (79~70点) : 日本史の知識と流れについて理解が概ねできている。																																																
C (69~60点) : 日本史の知識と流れについて理解が不十分がある程度できている。																																																
D (60点未満) : Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1601	経営学の基礎	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
磯貝明		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
大学生のキャリア教育の基礎いわば社会人としての必須教養として、広く社会経済への関心を促すとともに、企業・産業と経済の問題について考える力を涵養することを意図し、経営学の入門的知識を修得させる。		
授業内容		
アップトゥデイトな話題を紹介しつつ、企業論的視点から、企業行動に関する基礎知識を修得させるとともに、経済主体の一つである企業行動の影響を理解させ、産業の動向や日本経済の実際を広く理解させるよう展開していく。		
留意事項（履修条件他）		
教材		
北中英明『プレステップ経営学』弘文堂、2009年		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	イントロダクション・経営学とは何か	<p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の該当部分の教科書を読んでおく。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の配付資料を再度読み返し、講義中に事例として紹介したケースの身近な例を考えておく。 教科書中のキーワードについて、その言葉と意味を理解し覚えておく。
2	企業の概念と類型	
3	企業組織と日本の特質	
4	人的資源管理	
5	企業の戦略行動—経営戦略	
6	生産管理	
7	市場参入とマーケティング	
8	営業管理	
9	意思決定	
10	会計のしくみ	
11	会計情報と財務諸表	
12	財務管理	
13	サプライチェーンマネジメント・経営情報	
14	経済発展と企業の社会的責任	
15	経済成長と環境問題、環境経営	
評価方法 および評価基準		
期末試験 50%、レポート・小テスト 50%		
S (100~90点) : 学習目標である経営学の入門的知識をほぼ完全に習得している		
A (89~80点) : 学習目標である経営学の入門的知識を相応に習得している		
B (79~70点) : 学習目標である経営学の入門的知識を相応に習得しているが不十分な点がある		
C (69~60点) : 学習目標である経営学の入門的知識の最低限は習得している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BC1701	社会・環境と健康	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
朝山正己		基礎科目-人間と生活の理解	

講義目的		
21世紀日本の健康、医療、福祉領域における最大の課題は少子高齢化社会と地球温暖化問題などの環境問題に対する対応である。 本講では、第2次世界大戦後から今日に至るまでの日本経済や社会の変遷と健康政策の足跡と実態を理解させる中で、健康と社会や環境の係りについて学び、21世紀社会の医療人としての基礎を養う。		
授業内容		
<p>授業の目的を達成するために、主に次の内容で講義を構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康についての理解を深めるとともに、社会や環境とヒトの健康との関わりについて明らかにする。 ② 日本が取り組んできた健康政策の変遷と、今後、日本が取り組むべき健康に対する課題について明らかにする。 ③ 少子高齢社会の「光と陰」について述べ、今後、日本が取り組むべき課題について学ぶ。 <p>授業は、指定の教科書を使い、授業の要点をパワーポイントによって提示する。また、必要によって印刷物を資料として配布する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>受講者の授業に対する理解度と出席を確認するために、毎回、小テストを実施する。</p> <p>授業には、学生の積極的な参加を促し、双方向型の授業展開に心掛ける。</p>		
教材		
朝山・井谷・芳本著「イラスト健康管理概論」（東京教学社）をテキストとして使用。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	健康とは？	WHO憲章、日本国憲法・法規から健康を考える
2	社会と健康	戦後日本の経済発展と日本人の健康との係りを理解する。
3	環境と健康（1）	健康と環境との係りを理解するとともに、環境基本法の理解に努める。
4	環境と健康（2）	環境汚染と健康被害について過去の公害問題から学ぶ。
5	環境と健康（3）	地球温暖化の問題とその健康被害について熱中症予防対策法を中心に理解する。
6	国民衛生の動向（1）	人口の推移と人口構成の変化から少子高齢社会の問題について考える。
7	国民衛生の動向（2）	各種の死亡統計から日本人の健康に対する課題を考える。
8	国民衛生の動向（3）	各種の死亡統計の国際比較から日本人の健康に対する課題を考える。
9	生活習慣病の現状と対策（1）	我が国の健康政策の変遷と社会の動向について学ぶ。
10	生活習慣病の現状と対策（2）	健康づくりの3原則とその対策について健康政策と絡めて理解する。
11	生活習慣病の現状と対策（3）	健康のリスクファクター（喫煙、飲酒）の現状と対策について諸外国の現状とも比較しながら対応を考える。
12	健康寿命を高めるための方策（1）	人生100年時代に求められる生き方について考える。その授業の内容を参考に課題を与え、次の講義に発表させる。
13	健康寿命を高めるための方策（2）	前講に基づいて、受講生自ら考案した健康寿命を高めるための方策について発表する。
14	グローバル社会への対応	感染症対策を中心にグローバル社会への対応について考える。
15	まとめ	本講の全体を通して、学習の目的が達成できたかどうか確認する。
評価方法 および評価基準		
期末試験60%、課題レポート40%		
S(100~90点) : 本講義の内容が十分に理解され、しかも、得られた学習知識が今後の生活の中で十分応用できるだけの実践力が養成されたと認められる。		
A(89~80点) : 本講義の内容が十分に理解され、授業にも積極的に参画できたと認められる。		
B(79~70点) : 本講義の内容が十分に理解されが、授業には積極的に参画できたとは認められない。		
C(69~60点) : 本講義の内容が十分に理解されていると必ずしも言えないが、授業には積極的に出席し、課題の提出等で評価する。		
D(60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0101	教職論	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
折出健二		資格科目-教職関連科目	

講義目的		
<p>目的：教職についての基本的な知識を身につけるとともに、教職への理解を深め、関心を高めて、自らの教師像を意識化することをめざす。</p>		
<p>目標：・教職の意義及び役割を説明することができる。 　・研修、服務が定められ、教員としての身分保障があることを事例から説明できる。 　・教職実践に対する知見と課題意識を持って自己の省察と検証を行う素地を修得する。</p>		
授業内容		
<ul style="list-style-type: none"> 教職の役割と機能、その職責と可能性を学ぶ。 学校組織における教員の研修、服務、身分保障などを具体的に学ぶ。 教員等へのインタビュー等による具体事例との出会いを通じて、各自の教職への理解と関心を高め、養護教諭になる基礎を構築する。 		
留意事項（履修条件他）		
教師インタビューは教職を具体的に理解する大事な学習機会なので、必ず参加して実施すること。		
教材		
テキスト 岩田康之・高野和子編：教師教育テキストシリーズ 教職論 学文社		
参考書 片山紀子編、富永直也：学校が見える教職論 大学教育出版他		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、教職とは	これまでの教育体験を振り返り、養護教諭を含めた教職の及ぼす影響について考える。
2	社会人としての教師と職業倫理	専門職者であり市民である教員のあり方を考える。
3	子どもの発達と学びを支える「先生」の意義と役割	一人の子どもの発達と広義の学びに及ぼす教師の役割の大きさを考える。
4	労働力市場と教師	社会全体の中での教師の職業的あり方を考える。
5	学校教師の実際	一日の活動を例に学校での教師の実際の動きを考察する。
6	教員等へのインタビュー(1)	小・中・高校のいずれかの特定教師への聞き取りをする意義とその技法について知る。
7	教員等へのインタビュー(2)	各自の予定教師と聞き取りの計画案などを報告し合う。
8	学校教師の勤務と職能成長（子どもの支援・指導の実際）	実践記録を基に子どもとの関係から見る教師の変容と成長を考察する。予め実践記録を読んでおく。
9	学校教師の勤務と職能成長（服務・規律・研修等）	学校という組織の構成員としての教師の立ち位置や役割を考察する。教師インタビューの参考にする。
10	教職のための学び（学問性と実践性）	教職の知性を構成する学問性と実践との結合について考える。
11	公共空間としての教室とその文化	学級担任の場合とも比較しながら保健室の特質や保健に関わる文化炊き環境のあり方を考える。
12	保護者との連携	具体例も交えながら保護者との関係づくりを考える。
13	インタビュー結果のプレゼンテーション	インタビューの概要、教職について得られた知見など、聞き取りの内容を発表する。
14	教師のストレスマネジメント	教職に伴う精神的負荷を考察し、その対処のための視点について考える。
15	学びつづける教師	本講の総括を兼ねて、現代の教師のあり方を考え、まとめをする。
評価方法 および評価基準		
期末試験 60%、現職者聞き取りの課題発表 40%		
S (100~90 点) : 教職の専門性に関する理解が十分であり、養護教諭の役割についても論理的に説明できる。		
A (89~80 点) : 教職の専門性に関して概ね理解できており、養護教諭の役割についても自分で説明できる。		
B (79~70 点) : 教職の専門性に関して不十分な面もあるが基本点を理解でき、養護教諭の役割を誠実に受け止めている。		
C (69~60 点) : 教職の専門性について自主的に考えることができ、養護教諭の役割についても誠実に理解しようと努力している。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0201	教育原理	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
折出健二		資格科目-教職関連科目	

講義目的																																																
(1)教育の理念と歴史、(2)発達と教育、学校と教育をめぐる現代的課題、(3)教師・子ども・学びの3つのテーマから教育を学ぶことを目的とし、「いのち」をつなぐ人類史への目線と国際性をもって教育と人間形成について熟考する態度と基礎的な知識を身につけることを目指す。																																																
授業内容																																																
授業の概要 (1)近代から現代にかけての子ども観や学校教育の成立思想及び教育実践の原理について概観する。 (2)発達と教育の原理をふまえ教育の現代的課題、子どもの人権、学校の役割、家族の自立等の考えを深める。 (3)子どもの理解、学習観や教師像の変容、教師の専門的成長について理解を図る。																																																
留意事項（履修条件他） テキスト以外にも教育思想家の著作にふれて教育について思考すること。																																																
教材 参考図書 折出健二：人間的自立の教育実践学 創風社 柴田義松編：新・教育原理[改訂版] 有斐閣双書その他																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なぜ、教育学を学ぶのか（教師と教育学）</td> <td>教育の原点について授業で配布する教員自作の資料プリントを復習し、次時に備える。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間と教育</td> <td>人間形成にとっていかに教育が不可欠で重要な役割を持つかを理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発達と教育</td> <td>個人の発達の可能性と多面性を理解する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>教育と社会</td> <td>市民社会の発展と学校を含む教育との関わりを理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題（1）：西洋</td> <td>教育の体験者として学校の経験を出し合い、学校とは何かの切り口をさぐり、その歴史をと知る。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題（1）：アジアと日本</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>教育の権利</td> <td>日本国憲法 26 条を含めた原理的な理解に努め、授業テーマに作成した資料プリントを復習し、次時に備える。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>教育の理念</td> <td>中間的なまとめも兼ねて「教育とは何か」をおさえる。同上</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>子どもの人権と学習指導・生活指導</td> <td>受講者自身の学校体験を交流し、それらを整理する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〈子どもに学ぶ〉ことと教師の成長</td> <td>教師の実践記録を通して教師の指導と成長の実際について知る。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>家庭教育のこれまでとこれから</td> <td>授業主題にかかわる資料プリントを復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会教育・生涯学習の可能性</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>教育的指導者・援助専門職者としての教師</td> <td>教職論とのつながりで教師の専門職性について考える。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>教員養成と現職教育</td> <td>教員養成の歩みを知り、教職者育成の意義を理解する。資料プリントの復習。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>本講の総括</td> <td>各自の感想を述べ合い、教員のコメントを参考にして全体をまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	なぜ、教育学を学ぶのか（教師と教育学）	教育の原点について授業で配布する教員自作の資料プリントを復習し、次時に備える。	2	人間と教育	人間形成にとっていかに教育が不可欠で重要な役割を持つかを理解する。	3	発達と教育	個人の発達の可能性と多面性を理解する。	4	教育と社会	市民社会の発展と学校を含む教育との関わりを理解する。	5	学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題（1）：西洋	教育の体験者として学校の経験を出し合い、学校とは何かの切り口をさぐり、その歴史をと知る。	6	学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題（1）：アジアと日本	同上	7	教育の権利	日本国憲法 26 条を含めた原理的な理解に努め、授業テーマに作成した資料プリントを復習し、次時に備える。	8	教育の理念	中間的なまとめも兼ねて「教育とは何か」をおさえる。同上	9	子どもの人権と学習指導・生活指導	受講者自身の学校体験を交流し、それらを整理する。	10	〈子どもに学ぶ〉ことと教師の成長	教師の実践記録を通して教師の指導と成長の実際について知る。	11	家庭教育のこれまでとこれから	授業主題にかかわる資料プリントを復習する。	12	社会教育・生涯学習の可能性	同上	13	教育的指導者・援助専門職者としての教師	教職論とのつながりで教師の専門職性について考える。	14	教員養成と現職教育	教員養成の歩みを知り、教職者育成の意義を理解する。資料プリントの復習。	15	本講の総括	各自の感想を述べ合い、教員のコメントを参考にして全体をまとめる。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	なぜ、教育学を学ぶのか（教師と教育学）	教育の原点について授業で配布する教員自作の資料プリントを復習し、次時に備える。																																														
2	人間と教育	人間形成にとっていかに教育が不可欠で重要な役割を持つかを理解する。																																														
3	発達と教育	個人の発達の可能性と多面性を理解する。																																														
4	教育と社会	市民社会の発展と学校を含む教育との関わりを理解する。																																														
5	学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題（1）：西洋	教育の体験者として学校の経験を出し合い、学校とは何かの切り口をさぐり、その歴史をと知る。																																														
6	学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題（1）：アジアと日本	同上																																														
7	教育の権利	日本国憲法 26 条を含めた原理的な理解に努め、授業テーマに作成した資料プリントを復習し、次時に備える。																																														
8	教育の理念	中間的なまとめも兼ねて「教育とは何か」をおさえる。同上																																														
9	子どもの人権と学習指導・生活指導	受講者自身の学校体験を交流し、それらを整理する。																																														
10	〈子どもに学ぶ〉ことと教師の成長	教師の実践記録を通して教師の指導と成長の実際について知る。																																														
11	家庭教育のこれまでとこれから	授業主題にかかわる資料プリントを復習する。																																														
12	社会教育・生涯学習の可能性	同上																																														
13	教育的指導者・援助専門職者としての教師	教職論とのつながりで教師の専門職性について考える。																																														
14	教員養成と現職教育	教員養成の歩みを知り、教職者育成の意義を理解する。資料プリントの復習。																																														
15	本講の総括	各自の感想を述べ合い、教員のコメントを参考にして全体をまとめる。																																														
評価方法 および評価基準																																																
期末試験 80%、課題レポート 20%																																																
S (100~90 点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について十分に説明でき、今日の教育問題を自主的に思考することができる																																																
A (89~80 点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について基本を理解し概ね説明できる																																																
B (79~70 点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について概ね理解し、不十分ながらも説明できる																																																
C (69~60 点) : 人間形成に対するその歴史的な見方、個の発達可能性と多面性、教職との結合性について関心を抱き、その理解と説明に努力している																																																
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0301	教育方法論	2年/後期	2
担当教員		科目区分	
北島信子		資格科目-教職関連科目	

講義目的

「(教育職員免許法施行規則第6条)」を学ぶ。

- ・授業の良否や展開に影響する諸条件やそのための最善策を考えることができる。
- ・学校で、教育する側の論理や概念を理解し、自らその視座で考えることができる。
- ・児童生徒に対する指導言(発問・指示・説明)を工夫し、その結果の反応も予想できる。

授業内容

児童生徒に何を教えるかを考えるために、実際の授業を進める上の不可欠な概念、教育方法の基本的な理論を取り上げる。また、子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解をはかる。

教育方法のあり方について理論・歴史・実践の多様な角度から学ぶ。原則、毎時授業内レポートを課し、翌週に添削したものをお返しする。

留意事項(履修条件他)

養護教諭コース選択希望者は必修のこと

教材

毎回プリント教材を配布する。原則、毎時次週の予習課題(実践事例等)を配布する。

テキスト: 使用しない 参考文献: 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996年。

授業計画および学習課題(予習・復習)

回	内 容	学習課題(予習・復習)
1	ガイダンス: 授業の進め方、教育方法の概要	シラバスを確認しておくこと(予習)、プリント教材(復習)
2	教育方法の理論と歴史1: 西欧・近代教育方法論(1)	「教授論」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
3	教育方法の理論と歴史2: 西欧・近代教育方法論(2)	「教授論」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
4	教育方法の理論と歴史3: アメリカ・新教育運動	「ドルトン・プラン」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
5	教育方法の理論と歴史4: 日本・大正新教育運動	「大正新教育資料」(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
6	教育方法の理論と歴史5: 日本・戦後新教育(1)	「生活綴方教育」①資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
7	教育方法の理論と歴史6: 日本・戦後新教育(2)	「生活綴方教育」②資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
8	教育方法の理論と歴史7: 日本・戦後新教育(3)	「生活綴方教育」③資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
9	教育課程の編成原理1: 学習指導要領の変遷(1)	「学習指導要領」①資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
10	教育課程の編成原理2: 学習指導要領の変遷(2)	「学習指導要領」②資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
11	教育課程の編成原理3: 諸外国の教育課程	「フランスの教育課程」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
12	教育課程の編成原理4: 総合学習の教育課程	「総合学習」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
13	教育評価の方法と課題	「教育評価の歴史と課題」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
14	授業における情報機器の活用と課題	「教育メディアとその活用と課題」資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)
15	まとめ	資料(予習)、プリント教材・添削済み授業内レポート(復習)

評価方法および評価基準

試験 60%、授業内レポート 40%にもとづき、総合的に評価する。

- S(100~90点): 子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解について、本授業の目標が十分に達成された。
- A(89~80点): 子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解について、本授業の目標が十分に達成された。
- B(79~70点): 子どもたちの指導にあたっての必要な技術、情報機器の活用を含む教育メディアの利用、指導や学習に有効な組織のあり方、教育評価の意味と方法の理解について、本授業の目標がおおむね達成された。
- C(69~60点): 子どもたちの指導にあたっての必要な技術についての本授業の目標が達成された。
- D(60点未満): Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0401	教育課程論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
今井理恵		資格科目-教職関連科目	

講義目的		
<p>(1) 初等教育における教育課程の意義について説明することができる。</p> <p>(2) 学習指導要領と教育課程編成、教科書検定制度との関係について理解し、説明できる。</p> <p>(3) 近年の関連事項（総合的な学習の時間、外国語活動等）について、概要を説明できる。</p>		
授業内容		
この授業では、中等教育に比べ教科及び教科外の境界が未分化な初等教育を中心に、その教育課程の意義、編成の方法に関する事項を扱う。		
留意事項（履修条件他）		
養護教諭コースの選択希望者は必ず履修すること。		
教材		
テキスト：学習指導要領解説 総則編		
参考文献：適宜、紹介する		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション	授業の概要について知り、教育課程の論理に関心を持つ
2	教育課程とは何か（1）教育課程の歴史	教育課程の歴史的変遷について学ぶ
3	教育課程とは何か（2）教育課程と学習指導要領	教育課程と学習指導要領の関係を捉え、学習指導要領の意義について学ぶ
4	わが国の教育課程改革の歴史（1）明治期～戦前①	明治期～戦前①における教育課程改革の歴史について学ぶ
5	わが国の教育課程改革の歴史（2）明治期～戦前②	明治期～戦前②における教育課程改革の歴史について学ぶ
6	わが国の教育課程改革の歴史（3）戦後「新教育」のカリキュラム改革	戦後「新教育」のカリキュラム改革の特質について学ぶ
7	わが国の教育課程改革の歴史（4）学習指導要領の変遷	学習指導要領の変遷について学ぶ
8	わが国の教育課程改革の歴史（5）現代の教育課程改革の展望	現代の教育改革の課題と展望について学ぶ
9	諸外国におけるカリキュラム改革の展望	諸外国におけるカリキュラム改革の特質と展望について学ぶ
10	教育課程に関する諸法規	教育課程に関する諸法規の特質について学ぶ
11	初等教育における教育課程の類型	教育課程の類型を知り、その特質について学ぶ
12	教科書制度と学習指導要領	教科書制度と学習指導要領の関連について学ぶ
13	学習指導案と授業設計（1）学習指導案とは何か	学習指導案づくりについて学ぶ
14	学習指導案と授業設計（2）学習指導案の実際と授業実践	授業を構想し、学習指導案を作成する
15	まとめ	今日における教育課程にかかわる課題
評価方法 および評価基準		
期末試験 80%、課題レポート 20%		
S (100～90 点) : 今日の社会的課題との関連で教育課程の意義を十分に検討することができ、子どもの学びにとって意味ある充実した授業構想と学習指導案を作成することができる。		
A (89～80 点) : 今日の社会的課題との関連で教育課程の意義を検討することができ、子どもの学びにとって意味ある授業構想と学習指導案を作成することができる。		
B (79～70 点) : 今日の社会的課題との関連で教育課程の意義を検討することにはやや不十分さはあるが、子どもの視点に立った授業を構想し学習指導案を作成することができる。		
C (69～60 点) : 今日の教育課程の意義について検討し、授業構想と学習指導案を作成することができる。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0501	道徳教育・特別活動論	2年/後期	2
担当教員		科目区分	
山口匡 宮田延実		資格科目-教職関連科目	

講義目的					
道徳教育及び特別活動に関して基礎的な理解を得ると同時に、それらの指導実践の基礎となる方法論を身につけるとともに、児童生徒の実態に即した対応力を培う。					
授業内容					
(1) 道徳教育及び特別活動の諸概念、歴史、学習指導要領の内容の理解を図る。 (2) 実践事例の考察と学習指導案の作成を通して、指導方法の基礎固めを図る。 (3) いじめや発達障害の文献討論を通し、望ましい指導実践の在り方を探求する。					
留意事項（履修条件他）					
養護教諭コース選択希望者は必修のこと					
教材					
教科書：小学校学習指導要領解説「特別活動編」、「道徳教育編」					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	オリエンテーション（目的、概要、担当決め）、道徳教育改訂の要点（山口）	道徳の教科化をめぐる状況			
2	道徳の目標 (山口)	「学習指導要領」の理解			
3	道徳の内容、道徳教育の歴史 (山口)	日本における道徳教育の歴史（戦前・戦後）			
4	道徳の指導計画 (山口)	道徳教育の全体計画、年間指導計画、学習指導案			
5	道徳の時間の指導 (山口)	学習指導案の作成①：内容項目とねらい			
6	教育活動全体を通じて行う指導 (山口)	学習指導案の作成②：主題設定の理由、学習過程			
7	家庭や地域社会との連携 (山口)	現代の道徳的課題、子どもの状況と学校の役割			
8	児童理解に基づく道徳教育の評価 (山口)	評価の観点と方法：「学習指導要領解説 道徳編」			
9	特別活動改訂の趣旨と要点 (宮田)	中教審の教育課程に関する情報の理解			
10	特別活動の目標 (宮田)	「学習指導要領」の理解			
11	各活動・学校行事の目標及び内容 (宮田)	各活動・学校行事の事例検討			
12	指導計画の作成と内容の取扱い (宮田)	特別活動の課題についての理解			
13	指導計画の作成に当たっての配慮事項 (宮田)	指導計画案の作成①：目標と内容			
14	内容の取扱いについての配慮事項 (宮田)	指導計画案の作成②：指導過程			
15	特別活動における評価 (宮田)	評価の観点と方法「学習指導要領開設 特別活動編」			
評価方法 および評価基準					
試験 70%、感想シートのコメント 30%					
S (100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)					
A (89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)					
B (79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)					
C (69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0601	生徒指導論	2年/後期	2
担当教員			科目区分
折出健二			資格科目-教職関連科目

講義目的		
<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導の歴史を概観し、現代の学校教育における生活指導・生徒指導の原理と意義を学ぶ。 ・児童生徒の人権と指導・支援の関係認識に立ち、適切かつ必要な生徒指導を説明できる。 ・いじめ・非行などの多様な事象への適切な指導方針、状況の分析など教員集団として継続的に学ぶための基礎力の定着を図る。 		
授業内容		
<p>生活指導・生徒指導の歴史を踏まえ、今日の生徒指導の基礎理論を学び、児童生徒等を取り巻く現代社会の状況や諸問題に関する理解と関心を深め、児童生徒等の支援のあり方を考える。さらに、教員の実践記録等から生徒指導の実際を学び、養護教諭の役割を考える。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>教育実践記録を読み開くという学習体験は教職の専門性への大事な入り口である。ただ国語的に読むだけではなく、指導・支援の立場に我が身を置いて読み取り、記録上の指導例から学び取る努力を期待したい。</p>		
教材		
<p>テキスト 折出健二：教師教育シリーズ 生活指導～生き方についての生徒指導・進路指導とともに (改訂版) 学文社</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション（生活指導・生徒指導の意義と原理）	改めて学校生活における生活指導・生徒指導の役割を考える手がかりを得る。各自の教育体験も交流する。
2	生活指導・生徒指導の歴史的展開と諸理論	わが国の生活指導の系譜を知り、その固有の役割を考えるためにテキストの復習と、次時3の資料プリントの予習。
3	生活指導・生徒指導とは何か（教師の生徒理解、教師の自己理解）	生徒理解の基本を考えるためにテキストの復習と、次時4の資料プリントの予習。
4	教育課程における生徒指導の位置	教育課程の構造的な理解をめざし、テキストの復習と、次時5の資料プリントの予習。
5	学級・ホールームづくりの意義と生徒指導	学級・HRの生活集団的役割を知り、テキストの復習と、次時6の資料プリントの予習。
6	学びの共同性と生徒指導の課題	学びとの関連を考え、テキストの復習と、次時7の資料プリントの予習。
7	発達障害児の理解と生徒指導	発達障害の基本的理解に努めるために、テキストの復習と、次時8の資料プリントの予習。
8	子ども虐待と生徒指導の実践	テキストの復習と、次時9の実践記録プリントの予習。
9	生徒指導の実践（課題解決学習「いじめ」）	実践記録の分析と意見交流に参加する。次時の資料を予習する。
10	生徒指導の実践（課題解決学習「インターネット」、「携帯にかかる課題」）	実践記録の分析と意見交流に参加する。次時の資料を予習する。
11	生徒指導の実践（課題解決学習「非行」）	実践記録の分析と意見交流に参加する。テキストの次時12の予習。
12	生徒懲戒をめぐる諸問題	生徒懲戒の基本について今時の復習と次時13テキストの予習。
13	生徒指導の進め方と学校運営	学校運営のあり方について今時の復習と次時14テキストの予習。
14	生徒指導における学級・HRと地域や家庭との連携	学校と地域との連携の理解に努め、今時の復習を含めた、総論的な振り返りをしておく。
15	総括	各自の言葉で「生活指導・生徒指導の果たす役割」について感想・意見を述べ、教員のコメントによってまとめる。
評価方法 および評価基準		
<p>期末試験 60%、実践記録分析レポート 30% 討論などへの参加態度 10%</p> <p>S (100~90 点) : 生活指導・生徒指導の原理に関わる知識・理解が十分に習得され、教育実践記録の討議やレポートから教職への関心・意欲が十分に見られ、児童生徒との関わりにも誠実に思考することができる。</p> <p>A (89~80 点) : 生活指導・生徒指導の原理に関わる知識・理解が習得され、教育実践記録の討議やレポートから教職への関心・意欲が見られ、児童生徒との関わりにも誠実に思考することができる。</p> <p>B (79~70 点) : 生活指導・生徒指導の原理に関わる知識・理解が概ね習得され、教育実践記録の討議やレポートから教職への関心・意欲が見られ、児童生徒との関わりにも誠実に思考する努力が見られる。</p> <p>C (69~60 点) : 生活指導・生徒指導の原理に関わる知識・理解が不十分ながらも最少の事柄は習得され、教育実践記録の討議やレポートから教職への関心・意欲が見られる。</p> <p>D (60 点未満) : Cのレベルに達していない</p>		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BD0801	ボランティア実習	2年/後期	1
	担当教員	科目区分	
森川英子		資格科目-教職関連科目	

講義目的					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大府市連携協定に基づき特別支援教育をとおして大府市の障がいを持つ児童の教育活動から教員の資質を学ぶ。 2. 特別支援教育を通して学校の仕組み、教育制度を学ぶ。 3. 上記1及び2を通して4年間のキャリア形成について具体的な目標を描く。 					
授業内容					
本講座は、大学が特別に開設した特徴ある科目であり、障がいを持つ児童との交流を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する知識を深め、教員としての資質の向上を図る。					
留意事項（履修条件他）					
ボランティアとして事前学習を復習し、児童との距離感を常に意識化する。					
教材					
国民衛生の動向					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	I	<p>21時間以上の実習</p> <p>大府市教育委員会との協議により各学校の教育計画に基づき特別支援学級等の児童生徒に関する日常教育活動に伴う実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障がいの重度・重複化、多様化の事実とその対応方法の把握 2. 障がいを持つ一人ひとりの児童に応じた指導が展開されている事実の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・登校時のお出迎え ・朝の会 ・給食時の補助 ・下校時の送迎等 3. 自立活動へのかかわり 4. 交流及び共同学習の具体例の把握と実習生としての役割 			
	II	<p>II及びIIIは、合わせて9時間以上目途とする その他、大府市教育委員会が管轄する教育的行事（就学時検診、林間学習等の宿泊行事等）に代表される行事に学生のスケジュールが合致すれば参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の教育環境の保全活動 ・児童生徒の教育活動の補助 			
	III	その他の内容については大府市教育委員会と看護学科教職担当者と協議する。			
	IV	総計、30時間のボランティア実習により1単位と認める			
評価方法 および評価基準					
実習記録 60%、実習態度や体験校での参加度 40%					
S (100~90点) : 授業目的について自身の意見や考察をまとめている。					
A (89~80点) : 授業で得た知識に考察や意見を交えてまとめている。					
B (79~70点) : 授業で得た知識に感想をまとめている。					
C (69~60点) : 授業の知識をまとめている。					
D (60点未満) : Cのレベルに達していない					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0101	解剖生理学ⅠA	1年/前期	1
担当教員		科目区分	
石黒士雄		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的		
形態とは身体を構成する臓器、器官の構造を意味し、機能はその構造から生ずる。器官・臓器の正常構造を学ぶことから始まり、人体を構成する諸器官の機能分担と調節機構、内在する法則性を理解することが目的である		
授業内容		
人体の基本的な形態と機能を理解し説明できることが目標となる。各臓器（循環器、呼吸器、中枢神経系、感覚器、内分泌、泌尿器、血液系）の機能・形態を知ること、その結果、全体として統合された恒常性を保持することができる仕組みが理解できる。その仕組みの異常が疾病であり、その成因を理解することが目標である。この科目では、人体の成り立ち、細胞の構造や組織・臓器の構成、骨格系、筋系、神経系、感覚器官の構造を理解する。		
留意事項（履修条件他）		
疾病についての知識の基礎となるもので、十分理解することが必要である。時間外学習として受講前に教科書の講義内容部分を読んでおくこと。不明な部分については講義後あるいは時間外に質問し、疑問点を放置しないこと		
教材		
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	人体の成り立ち：人体構造と器官系	人体を作り上げている構造の階層的構成について述べることができる
2	細胞の構造	細胞内の構造と機能について理解することができ、細胞質、核、遺伝子の働きを述べることができる
3	組織・臓器の構成	人体を構成する4大組織の名称を挙げ、それぞれの特徴を述べることができる
4	発生と三胚葉	胚子期に起こる主な発達経過について説明することができる
5	上皮・外皮	さまざまなタイプの上皮組織の構造、局在、機能について述べることができる
6	骨格系：骨の種類、成長と骨年齢	骨の働きと骨格系を述べることができる
7	骨格系：脊柱と姿勢	全身の骨のそれぞれの位置と働きを述べることができる
8	形態観察の方法：X線と構造	骨の内部構造、形態を調べる方法を述べることができる
9	骨の連結：関節の構造	骨の連結の構造と機能の分類を述べることができる
10	筋系	筋細胞の組織構造とともに各部位における筋の所在と機能について述べることができる
11	神経系：中枢神経	神経系の基本機能を理解し、神経インパルスがどのように発生し、伝えられるかを述べることができる
12	神経系：交感神経、副交感神経	交感神経系と副交感神経系の伝導路の構成を理解し、その働きの違いを述べることができる
13	神経系：感覚神経（眼球・聴覚器官）	特殊感覚の構造と機能を述べることができる
14	血管の構造、循環	血管の構造と機能を理解し、身体各部の主要な循環路を比較説明できる
15	輸血と血液型	ABO式、Rh式血液型を述べることができる
評価方法 および評価基準		
期末試験 50 %、確認テスト 50 %		
S (100~90点) : 人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる		
A (89~80点) : 人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる		
B (79~70点) : 人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる		
C (69~60点) : 人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0201	解剖生理学ⅡA	1年/前期	1
担当教員		科目区分	
石黒士雄		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的	<p>現代の複雑な医療環境のなかで、看護活動を正しく行うためには、人体の解剖学的知識とともに、その機能について十分理解することが基本である。まず、人体を作りあげている分子、および、細胞の働きを学ぶ。それぞれの細胞が集まった組織・器官がその機能を統合し、調整を行うことで人体の生命維持が可能であることを理解するのが目的である</p>																																																		
授業内容	<p>ひとの身体は組織・器官が働くことで内部環境の恒常性が図られている。すなわち、消化・血液・循環・免疫・呼吸・排泄の仕組みを学ぶ。また生体が内部環境を維持するうえで、外部からの刺激（感染、放射線、化学物質）に対する対応（情報伝達、免疫、組織修復）も知る必要がある。生殖のシステム、発生、老化などの現象を理解し、その機能を受け繋いでゆくための遺伝情報の理解も重要である。</p>																																																		
留意事項（履修条件他）	<p>疾病についての知識の基礎となるもので、十分理解することが必要である。時間外学習として受講前に教科書の講義内容部分を読んでおくこと。不明な部分については講義後あるいは時間外に質問し、疑問点を放置しないこと</p>																																																		
教材	<p>ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社</p>																																																		
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ホメオスターシス</td> <td>ホメオスターシスを定義し、フィードバックシステムの構成要素を述べることができる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生命と化合物</td> <td>糖質、脂質、たんぱく質の機能を論じることができる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>染色体の構造</td> <td>DNA, RNA, ATP の重要性を説明することができる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>遺伝子の働き</td> <td>タンパク質の合成の仕組みを述べることができる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>細胞分裂</td> <td>体細胞分裂における細胞周期の各段階で起きる出来事とその意義を述べることができる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>外部環境の影響</td> <td>内部環境の維持と外部環境の影響を比較し論ずることができる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>細胞活動と電気</td> <td>神経インパレスがどのように発生し、伝えられるかを述べることができる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>細胞間伝達機構：神経伝達物質、サイトカイン</td> <td>細胞間の情報伝達の方法と伝達物質のタイプを説明することができる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>内分泌系：下垂体、副腎</td> <td>視床下部と下垂体の位置と相互関係について理解し、下垂体から分泌される個々のホルモンの機能について述べることができる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>内分泌系：甲状腺、性腺、臍</td> <td>個々の内分泌臓器の位置とホルモン、機能について述べることができる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>フィードバック機構</td> <td>ネガティブ、ポジティブフィードバック機構を述べることができる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>インスリンと膜抵抗性：臍ランゲルハンス島</td> <td>臍ランゲルハンス島の位置、ホルモン、内分泌機能を述べることができる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>カルシウム調節</td> <td>副甲状腺の位置、ホルモン、機能を述べることができる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>網膜と視力</td> <td>眼の付属器官、眼球壁の構造、水晶体、眼球の内部、結像のメカニズム、両眼視について述べることができる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>聴覚：感音系と伝音系</td> <td>外耳、中耳、内耳の構造について述べることができる、また聴覚、平衡覚の受容器及びその伝導路について述べができる</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	ホメオスターシス	ホメオスターシスを定義し、フィードバックシステムの構成要素を述べることができる	2	生命と化合物	糖質、脂質、たんぱく質の機能を論じることができる	3	染色体の構造	DNA, RNA, ATP の重要性を説明することができる	4	遺伝子の働き	タンパク質の合成の仕組みを述べることができる	5	細胞分裂	体細胞分裂における細胞周期の各段階で起きる出来事とその意義を述べることができる	6	外部環境の影響	内部環境の維持と外部環境の影響を比較し論ずることができる	7	細胞活動と電気	神経インパレスがどのように発生し、伝えられるかを述べることができる	8	細胞間伝達機構：神経伝達物質、サイトカイン	細胞間の情報伝達の方法と伝達物質のタイプを説明することができる	9	内分泌系：下垂体、副腎	視床下部と下垂体の位置と相互関係について理解し、下垂体から分泌される個々のホルモンの機能について述べることができる	10	内分泌系：甲状腺、性腺、臍	個々の内分泌臓器の位置とホルモン、機能について述べることができる	11	フィードバック機構	ネガティブ、ポジティブフィードバック機構を述べることができる	12	インスリンと膜抵抗性：臍ランゲルハンス島	臍ランゲルハンス島の位置、ホルモン、内分泌機能を述べることができる	13	カルシウム調節	副甲状腺の位置、ホルモン、機能を述べることができる	14	網膜と視力	眼の付属器官、眼球壁の構造、水晶体、眼球の内部、結像のメカニズム、両眼視について述べることができる	15	聴覚：感音系と伝音系	外耳、中耳、内耳の構造について述べることができる、また聴覚、平衡覚の受容器及びその伝導路について述べができる
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																																	
1	ホメオスターシス	ホメオスターシスを定義し、フィードバックシステムの構成要素を述べることができる																																																	
2	生命と化合物	糖質、脂質、たんぱく質の機能を論じることができる																																																	
3	染色体の構造	DNA, RNA, ATP の重要性を説明することができる																																																	
4	遺伝子の働き	タンパク質の合成の仕組みを述べることができる																																																	
5	細胞分裂	体細胞分裂における細胞周期の各段階で起きる出来事とその意義を述べることができる																																																	
6	外部環境の影響	内部環境の維持と外部環境の影響を比較し論ずることができる																																																	
7	細胞活動と電気	神経インパレスがどのように発生し、伝えられるかを述べることができる																																																	
8	細胞間伝達機構：神経伝達物質、サイトカイン	細胞間の情報伝達の方法と伝達物質のタイプを説明することができる																																																	
9	内分泌系：下垂体、副腎	視床下部と下垂体の位置と相互関係について理解し、下垂体から分泌される個々のホルモンの機能について述べることができる																																																	
10	内分泌系：甲状腺、性腺、臍	個々の内分泌臓器の位置とホルモン、機能について述べることができる																																																	
11	フィードバック機構	ネガティブ、ポジティブフィードバック機構を述べることができる																																																	
12	インスリンと膜抵抗性：臍ランゲルハンス島	臍ランゲルハンス島の位置、ホルモン、内分泌機能を述べることができる																																																	
13	カルシウム調節	副甲状腺の位置、ホルモン、機能を述べることができる																																																	
14	網膜と視力	眼の付属器官、眼球壁の構造、水晶体、眼球の内部、結像のメカニズム、両眼視について述べることができる																																																	
15	聴覚：感音系と伝音系	外耳、中耳、内耳の構造について述べることができる、また聴覚、平衡覚の受容器及びその伝導路について述べができる																																																	
評価方法 および評価基準	<p>期末試験 50 %、確認テスト 50 %</p> <p>S (100~90 点) : 人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる</p> <p>A (89~80 点) : 人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる</p> <p>B (79~70 点) : 人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる</p> <p>C (69~60 点) : 人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している</p> <p>D (60 点未満) : Cのレベルに達していない</p>																																																		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0301	解剖生理学ⅠB	1年/後期	1
担当教員		科目区分	
石黒士雄		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的		
形態とは身体を構成する臓器、器官の構造を意味し、機能はその構造から生ずる。器官・臓器の正常構造を学ぶことから始まり、人体を構成する諸器官の機能分担と調節機構、内在する法則性を理解することが目的である		
授業内容		
人体の基本的な形態と機能を理解し説明できることが目標となる。各臓器（循環器、呼吸器、中枢神経系、感覚器、内分泌、泌尿器、血液系）の機能・形態を知ること、その結果、全体として統合された恒常性を保持することができる仕組みが理解できる。その仕組みの異常が疾病であり、その成因を理解することが目標である		
留意事項（履修条件他）		
疾病についての知識の基礎となるもので、十分理解することが必要である。時間外学習として受講前に教科書の講義内容部分を読んでおくこと。不明な部分については講義後あるいは時間外に質問し、疑問点を放置しないこと		
教材		
ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	呼吸系：上気道	鼻・咽頭・喉頭の構造と機能を述べることができる
2	呼吸系：気管支、肺、胸腔	気管・気管支・肺の構造と機能を述べることができる 吸息と呼息がどのように行われるかを説明することができる
3	循環系：血液（血球）	血液の产生・成分と機能について論ずることができる
4	循環系：血液（体液）	失血や浮腫を防ぐメカニズムに関して述べることができる
5	循環系：心臓	心臓の位置、および壁の層と部屋について述べることができる
6	循環系：動脈	異なる種類の血管の構造と機能について説明することができる
7	循環系：静脈、リンパ管	身体各部への主要な循環路を比較説明することができる
8	消化器系：上部消化管	消化器系の各器官の所在及びその基本的な機能を正確に述べることができる
9	消化器系：腹腔、胃腸管	腹腔の構造を理解し、胃・小腸の機能を説明することができる
10	消化器系：肝臓、胆道、脾臓	肝臓・胆嚢・脾臓の位置、構造、機能について述べることができる
11	泌尿器系：腎	泌尿器系の構成要素とその一般的機能を列挙することができる
12	泌尿器系：尿路	尿管、膀胱、尿道の構造と機能について述べることができる
13	臓器の形態検査：造影、シンチグラム	各臓器の形態を観察する方法について説明することができる
14	臓器の形態検査：MRI、エコー	各臓器の形態を観察する方法について説明することができる
15	生殖器	男性、女性性器の構造と機能を説明できる
評価方法 および評価基準		
期末試験 50 %、確認テスト 50 %		
S (100~90点) : 人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる		
A (89~80点) : 人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる		
B (79~70点) : 人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる		
C (69~60点) : 人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0401	解剖生理学ⅡB	1年/後期	1
担当教員		科目区分	
石黒士雄		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的	<p>現代の複雑な医療環境のなかで、看護活動を正しく行うためには、人体の解剖学的知識とともに、その機能について十分理解することが基本である。まず、人体を作りあげている分子、および、細胞の働きを学ぶ。それぞれの細胞が集まった組織・器官がその機能を統合し、調整を行うことで人体の生命維持が可能であることを理解するのが目的である</p>																																																
授業内容	<p>ひとの身体は組織・器官が働くことで内部環境の恒常性が図られている。すなわち、消化・血液・循環・免疫・呼吸・排泄の仕組みを学ぶ。また生体が内部環境を維持するうえで、外部からの刺激（感染、放射線、化学物質）に対する対応（情報伝達、免疫、組織修復）も知る必要がある。生殖のシステム、発生、老化などの現象を理解し、その機能を受け繋いでゆくための遺伝情報の理解も重要である</p>																																																
留意事項（履修条件他）	<p>疾病についての知識の基礎となるもので、十分理解することが必要である。時間外学習として受講前に教科書の講義内容部分を読んでおくこと。不明な部分については講義後あるいは時間外に質問し、疑問点を放置しないこと</p>																																																
教材	<p>ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 4800円 参考書：トートラ人体解剖生理学 第9版 佐伯由香ほか著 丸善株式会社</p>																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内 容</th><th>学習課題（予習・復習）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>呼吸機能</td><td>肺気量分画と肺容量について定義することができる</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ガス交換（内呼吸・外呼吸）</td><td>肺胞気と血液との間の酸素と二酸化炭素の交換と血液と組織細胞間の酸素と二酸化炭素の交換について説明することができる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ヘモグロビンの働き</td><td>血液が酸素と二酸化炭素をどのように運搬するのかを述べることができる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>圧と生体機能：血圧、静脈圧、脳圧</td><td>生体内の各種の圧がどのように影響しているのかを述べることができる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>心機能：刺激伝導系（筋収縮と膜電位）</td><td>心臓の1回ごとの拍動が、どのように始まり、どのように維持されているのかを説明することができる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>心機能：心電図</td><td>心電図の意味と診断学的な価値を述べることができる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>体液の働き：浸透圧</td><td>毛細血管の血液への物質の出入りの仕組みについて述べることができる</td></tr> <tr> <td>8</td><td>電解質と酸塩基平衡</td><td>水と溶質の獲得および排出の方法について述べることができ、どのように調節されているかを説明することができる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>免疫：自然免疫と獲得免疫</td><td>自然免疫の様々な構成要素を理解し、獲得免疫との違いを述べることができる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>免疫：細胞性と液性</td><td>細胞性と液性免疫の違いを比較説明できる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>栄養代謝：タンパク</td><td>体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>栄養代謝：糖・脂肪</td><td>体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>臓器の機能検査</td><td>機能的面から各臓器の評価法を理解することができる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>尿の生成</td><td>糸球体、尿細管、集合管の機能を説明することができる</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発生と遺伝</td><td>遺伝を定義でき、優性遺伝、劣性遺伝および伴性遺伝の特性について述べることができる</td></tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	呼吸機能	肺気量分画と肺容量について定義することができる	2	ガス交換（内呼吸・外呼吸）	肺胞気と血液との間の酸素と二酸化炭素の交換と血液と組織細胞間の酸素と二酸化炭素の交換について説明することができる	3	ヘモグロビンの働き	血液が酸素と二酸化炭素をどのように運搬するのかを述べることができる	4	圧と生体機能：血圧、静脈圧、脳圧	生体内の各種の圧がどのように影響しているのかを述べることができる	5	心機能：刺激伝導系（筋収縮と膜電位）	心臓の1回ごとの拍動が、どのように始まり、どのように維持されているのかを説明することができる	6	心機能：心電図	心電図の意味と診断学的な価値を述べることができる	7	体液の働き：浸透圧	毛細血管の血液への物質の出入りの仕組みについて述べることができる	8	電解質と酸塩基平衡	水と溶質の獲得および排出の方法について述べることができ、どのように調節されているかを説明することができる	9	免疫：自然免疫と獲得免疫	自然免疫の様々な構成要素を理解し、獲得免疫との違いを述べることができる	10	免疫：細胞性と液性	細胞性と液性免疫の違いを比較説明できる	11	栄養代謝：タンパク	体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる	12	栄養代謝：糖・脂肪	体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる	13	臓器の機能検査	機能的面から各臓器の評価法を理解することができる	14	尿の生成	糸球体、尿細管、集合管の機能を説明することができる	15	発生と遺伝	遺伝を定義でき、優性遺伝、劣性遺伝および伴性遺伝の特性について述べることができる
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																															
1	呼吸機能	肺気量分画と肺容量について定義することができる																																															
2	ガス交換（内呼吸・外呼吸）	肺胞気と血液との間の酸素と二酸化炭素の交換と血液と組織細胞間の酸素と二酸化炭素の交換について説明することができる																																															
3	ヘモグロビンの働き	血液が酸素と二酸化炭素をどのように運搬するのかを述べることができる																																															
4	圧と生体機能：血圧、静脈圧、脳圧	生体内の各種の圧がどのように影響しているのかを述べることができる																																															
5	心機能：刺激伝導系（筋収縮と膜電位）	心臓の1回ごとの拍動が、どのように始まり、どのように維持されているのかを説明することができる																																															
6	心機能：心電図	心電図の意味と診断学的な価値を述べることができる																																															
7	体液の働き：浸透圧	毛細血管の血液への物質の出入りの仕組みについて述べることができる																																															
8	電解質と酸塩基平衡	水と溶質の獲得および排出の方法について述べることができ、どのように調節されているかを説明することができる																																															
9	免疫：自然免疫と獲得免疫	自然免疫の様々な構成要素を理解し、獲得免疫との違いを述べることができる																																															
10	免疫：細胞性と液性	細胞性と液性免疫の違いを比較説明できる																																															
11	栄養代謝：タンパク	体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる																																															
12	栄養代謝：糖・脂肪	体内で糖質、脂質、たんぱく質がどのように使われるか説明することができる																																															
13	臓器の機能検査	機能的面から各臓器の評価法を理解することができる																																															
14	尿の生成	糸球体、尿細管、集合管の機能を説明することができる																																															
15	発生と遺伝	遺伝を定義でき、優性遺伝、劣性遺伝および伴性遺伝の特性について述べることができる																																															
評価方法 および評価基準																																																	
期末試験 50 %、確認テスト 50 %																																																	
S (100~90 点) :	人体の基本的な形態と機能を十分理解し説明できる																																																
A (89~80 点) :	人体の基本的な形態と機能を概ね理解し説明できる																																																
B (79~70 点) :	人体の基本的な形態と機能を不十分ではあるが理解し説明できる																																																
C (69~60 点) :	人体の基本的な形態と機能について考えることができ、理解するように努力している																																																
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0501	微生物学	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
石原 由華		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的			
微生物学・感染症が理解でき、感染防御法の基礎知識を得る。また、特異的生体防御機構として免疫の理解できる。			
授業内容			
病原微生物と感染症について学び、感染症の治療及び予防のための基本的知識の習得を目指す。病原微生物として細菌、ウイルス、真菌ならびに原虫の性質を説明した後に、肺炎、尿路感染症など各種感染症のメカニズムと発病、それに伴う生体の反応について説明する。さらに、感染症の検査、感染防止対策、滅菌・消毒方法等を解説する。また、微生物による感染から生体を守り、異物の侵入に対して特異的に反応する力である免疫について説明する。			
留意事項（履修条件他）			
内容が多いので、復習は必須である。予習については指定教科書の当該部分について読んでおくことが望まれる。講義出席は基本であり、授業中の私語を慎むようにする。配布された講義資料はファイルして整理しておくこと。			
課題レポート（15%）は講義毎の小テストで評価する。			
教材			
藤本秀士 編「病原体・感染・免疫」 南山堂			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	病原微生物：細菌、ウイルス、真菌、原虫の概説と増殖	病原微生物とは何かについて予習する。 細菌、ウイルス、真菌、寄生虫の構造、病原性、増殖のしかた等について復習する。またブリオンとは何かについても復習する。	
2	感染のメカニズム：微生物の病原性、感染経路、ヒトの感染感受性と炎症反応	感染とは何か、感染の成立を決定する因子について予習する。 感染症の経過、感染経路、日和見感染、と易感染宿主、病原因子について復習する。	
3	感染症の診断と治療：微生物の検査法、抗菌薬	感染症を診断する上で必要な微生物の検査法について予習する。 感染症診療のながれと治療法の選択、原因微生物の検査と各種検体採取法について復習する。また化学療法とは何か、化学療法の副作用についても復習する。	
4	多剤耐性菌：ESBL、MRSA、VRE、多剤耐性緑膿菌、結核菌、キノロン耐性菌など	黄色ブドウ球菌、緑膿菌、腸球菌、結核菌について予習する。 多剤耐性菌であるMRSA、VRE、多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌、ESBLs 产生菌とは何か、それらの耐性菌の感染経路について復習する。	
5	血液感染ウィルス：B、C型肝炎ウィルス、HTLV-1、HIV	肝炎ウィルスについて予習する。 A型肝炎ウィルス、B型肝炎ウィルス、C型肝炎ウィルス、E型肝炎ウィルスの感染経路、感染様式などについて復習する。特にB型肝炎ウィルスの3種類の抗原については復習して理解を深める。 レトロウィルスであるHTLV-1、HIVについても感染経路、感染から発症までの経過について復習する。	
6	主要ウィルス感染：インフルエンザ、麻疹、風疹、ムンプス、水痘、ヘルペス、ノロウィルス	インフルエンザ、麻疹、風疹、ムンプス（流行性耳下腺炎）、水痘、ヘルペス、ノロウィルス感染症がどのような病気であるのかを予習する。 インフルエンザウイルスの変異と流行のメカニズム、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、ムンプスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、ノロウィルス、ヘルペスウイルスの感染経路ならびに感染の経過、治療、予防について復習する。	
7	AIDS（疫学、感染経路、治療ならびに予防）、新興・再興感染症など	HIV 感染により発症するAIDSについて予習する。また新興・再興感染症とは何かについても予習する。 HIV感染者ならびにAIDS患者の世界や日本における動向について復習し、HIV感染経路別対策や予防についても復習する。 レジオネラ症、腸管出血性大腸菌感染症とその他の食中毒、肺炎球菌性肺炎、大腸菌感染症、マイコプラズマ肺炎についても復習する。	
8	感染予防策：標準予防策、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策、血液感染予防策	標準予防策（スタンダードプロトコーション）について予習する。 標準予防策の定義・基本、感染経路別予防策である接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策、血液感染予防策について復習する。	
9	消毒薬概論および各論	消毒とは何か、滅菌とは何かについて予習する。 消毒と滅菌の違い、各種滅菌法、消毒水準分類、消毒薬の特性や副作用、各種消毒薬の抗微生物スペクトルと使用方法、実際の医療現場における消毒と滅菌について復習する。	

10	(A) 免疫に関する細胞、組織：リンパ球、マクロファージ、リンパ組織、好中球 (B) 先天性免疫と食細胞	免疫を担当する細胞や組織は何かについて予習する。各免疫細胞やリンパ組織の具体的な働きについて復習する。また先天性免疫とは何かについて理解を深め、食細胞の働きや炎症についても復習する。
11	免疫の成立：抗体（免疫グロブリン）、抗原（異物）、補体、モノクローナル抗体、抗原抗体反応と臨床検査	獲得免疫とは何かについて予習する。獲得免疫の特徴、抗体の基本構造、抗体の種類や働き、抗原とは何か、抗原提示とリンパ球の活性化、抗原抗体反応と臨床検査について復習する。
12	免疫応答：一次応答、二次応答と免疫記憶、ワクチン	ワクチンについて予習する。液性免疫、免疫応答、免疫記憶、ワクチンの種類、予防接種法、ワクチンの副反応、各種ワクチンについて復習する。
13	細胞性免疫：Tリンパ球、マクロファージ、サイトカインの働き、SIRS、移植免疫、輸血	細胞性免疫について予習する。細胞性免疫、臓器移植と移植免疫、血液型と輸血について復習する。
14	アレルギー：I、II、III、IV型アレルギーと疾患	アレルギーとは何かについて予習する。I型～IV型アレルギーの発症機序や各アレルギーの関連疾患について復習する。
15	自己免疫疾患と膠原病：臓器特異的自己免疫病、慢性関節リューマチ、SLE、ベーチェット病	自己免疫疾患と膠原病とは何かについて予習する。自己免疫疾患の発症機序、自己抗体、慢性関節リューマチ、SLE、シェーグレン症候群、ベーチェット病、臓器特異的自己免疫疾患について復習する。

評価方法 および評価基準

期末試験 85%、課題レポート 15%

S (100～90点) : 期末試験と課題レポートで合計90～100点をSとする。

A (89～80点) : 期末試験と課題レポートで合計80～89点をAとする。

B (79～70点) : 期末試験と課題レポートで合計70～79点をBとする。

C (69～60点) : 期末試験と課題レポートで合計60点以上をCとする。

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0601	生化学	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
太田美智男		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的																																																
人体の機能を生化学的に理解し、病気を生化学的に理解できる。																																																
授業内容																																																
人体や細胞を構成する成分を学び、それぞれの成分の働きを分子レベルで理解して細胞の活動を学ぶ。特に核酸、タンパク質、糖質ならびに脂質の働きと代謝の基本的なメカニズムを学び、それらを支えるビタミンやミネラルなどの役割も含めて生命維持の機構を理解する。さらに遺伝の機構と遺伝子の役割を学んで、遺伝子解析、遺伝子組み換えなども理解できるようにする。また生命維持機構の破綻として生じる各種疾患を生化学的に理解する。																																																
留意事項（履修条件他）																																																
講義は理系の内容であり、高校で文系の学生には内容を理解することが難しい。したがって各回の講義について教科書の内容を予習しておくことが望ましい。また、学生全員に対して毎回の講義内容を復習することを課する。																																																
教材																																																
書名：ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 著者名：宮澤 恵二編集 出版社・出版年：メディカ出版／2013年 値格：2730円																																																
授業計画および学習課題（予習・復習）																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>人体を構成する元素、化合物と細胞の構造</td> <td>各元素の名前と記号、化学結合について理解する。 細胞の構造を理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>糖の吸収、代謝</td> <td>ブドウ糖の吸収メカニズムならびにブドウ糖の代謝機構を理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>糖新生、血糖値の調節</td> <td>肝臓におけるブドウ糖合成のメカニズムについて理解する。 インスリンをはじめとする各種ホルモンによる血糖値の調節機構について理解し、記憶する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生体エネルギーと ATP</td> <td>解糖系、ケン酸回路におけるATP産生の機構を理解する。 ATPの役割について理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>蛋白とアミノ酸：摂取と代謝、尿素サイクル</td> <td>蛋白の吸収機構を理解する。アミノ酸の分解・排泄機構を理解する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>蛋白の機能：酵素、血清蛋白、さまざまな蛋白</td> <td>酵素の働きを理解する。疾患と酵素の関わりについて知る。 血清蛋白について理解する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>補酵素、ビタミン</td> <td>補酵素・ビタミンの代謝における役割を理解する。主要ビタミンの作用について覚える。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>人体に必要なミネラル</td> <td>人体にとって必要なミネラルを知り、欠乏症を覚える。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>脂質代謝、脂質合成、ステロイド、エイコサノイドの合成</td> <td>脂肪酸の分解、合成について理解する。ステロイドの役割、エイコサノイドの産生機構と作用について理解する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ヘモグロビン、ヘムの合成と代謝：ビリルビン異常症、貧血</td> <td>ヘモグロビンの役割を理解する。ヘムの代謝と排泄、異常症について理解する。貧血について分類し、理解する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>核酸の合成と代謝、DNAの複製、転写、翻訳、蛋白の合成</td> <td>DNA、RNAの合成機構とDNA複製機構を理解する。 転写/翻訳による蛋白合成機構を理解する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>遺伝子、変異と遺伝病</td> <td>遺伝子について知る。遺伝子の変異のメカニズムについて理解し、主要遺伝病について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ホルモン1：主要ホルモンと分泌臓器、分泌の調節</td> <td>人体のホルモン分泌臓器とそれぞれのホルモンについて理解する。ホルモン分泌調節機構について理解する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ホルモン2：各種ホルモンの働き</td> <td>主要ホルモンの作用について理解し、覚える。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>栄養吸収、代謝における各臓器の役割</td> <td>エネルギー代謝における肝臓、脾臓、脂肪組織、筋、脳の役割を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	人体を構成する元素、化合物と細胞の構造	各元素の名前と記号、化学結合について理解する。 細胞の構造を理解する。	2	糖の吸収、代謝	ブドウ糖の吸収メカニズムならびにブドウ糖の代謝機構を理解する。	3	糖新生、血糖値の調節	肝臓におけるブドウ糖合成のメカニズムについて理解する。 インスリンをはじめとする各種ホルモンによる血糖値の調節機構について理解し、記憶する。	4	生体エネルギーと ATP	解糖系、ケン酸回路におけるATP産生の機構を理解する。 ATPの役割について理解する。	5	蛋白とアミノ酸：摂取と代謝、尿素サイクル	蛋白の吸収機構を理解する。アミノ酸の分解・排泄機構を理解する。	6	蛋白の機能：酵素、血清蛋白、さまざまな蛋白	酵素の働きを理解する。疾患と酵素の関わりについて知る。 血清蛋白について理解する。	7	補酵素、ビタミン	補酵素・ビタミンの代謝における役割を理解する。主要ビタミンの作用について覚える。	8	人体に必要なミネラル	人体にとって必要なミネラルを知り、欠乏症を覚える。	9	脂質代謝、脂質合成、ステロイド、エイコサノイドの合成	脂肪酸の分解、合成について理解する。ステロイドの役割、エイコサノイドの産生機構と作用について理解する。	10	ヘモグロビン、ヘムの合成と代謝：ビリルビン異常症、貧血	ヘモグロビンの役割を理解する。ヘムの代謝と排泄、異常症について理解する。貧血について分類し、理解する。	11	核酸の合成と代謝、DNAの複製、転写、翻訳、蛋白の合成	DNA、RNAの合成機構とDNA複製機構を理解する。 転写/翻訳による蛋白合成機構を理解する。	12	遺伝子、変異と遺伝病	遺伝子について知る。遺伝子の変異のメカニズムについて理解し、主要遺伝病について学ぶ。	13	ホルモン1：主要ホルモンと分泌臓器、分泌の調節	人体のホルモン分泌臓器とそれぞれのホルモンについて理解する。ホルモン分泌調節機構について理解する。	14	ホルモン2：各種ホルモンの働き	主要ホルモンの作用について理解し、覚える。	15	栄養吸収、代謝における各臓器の役割	エネルギー代謝における肝臓、脾臓、脂肪組織、筋、脳の役割を理解する。
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																														
1	人体を構成する元素、化合物と細胞の構造	各元素の名前と記号、化学結合について理解する。 細胞の構造を理解する。																																														
2	糖の吸収、代謝	ブドウ糖の吸収メカニズムならびにブドウ糖の代謝機構を理解する。																																														
3	糖新生、血糖値の調節	肝臓におけるブドウ糖合成のメカニズムについて理解する。 インスリンをはじめとする各種ホルモンによる血糖値の調節機構について理解し、記憶する。																																														
4	生体エネルギーと ATP	解糖系、ケン酸回路におけるATP産生の機構を理解する。 ATPの役割について理解する。																																														
5	蛋白とアミノ酸：摂取と代謝、尿素サイクル	蛋白の吸収機構を理解する。アミノ酸の分解・排泄機構を理解する。																																														
6	蛋白の機能：酵素、血清蛋白、さまざまな蛋白	酵素の働きを理解する。疾患と酵素の関わりについて知る。 血清蛋白について理解する。																																														
7	補酵素、ビタミン	補酵素・ビタミンの代謝における役割を理解する。主要ビタミンの作用について覚える。																																														
8	人体に必要なミネラル	人体にとって必要なミネラルを知り、欠乏症を覚える。																																														
9	脂質代謝、脂質合成、ステロイド、エイコサノイドの合成	脂肪酸の分解、合成について理解する。ステロイドの役割、エイコサノイドの産生機構と作用について理解する。																																														
10	ヘモグロビン、ヘムの合成と代謝：ビリルビン異常症、貧血	ヘモグロビンの役割を理解する。ヘムの代謝と排泄、異常症について理解する。貧血について分類し、理解する。																																														
11	核酸の合成と代謝、DNAの複製、転写、翻訳、蛋白の合成	DNA、RNAの合成機構とDNA複製機構を理解する。 転写/翻訳による蛋白合成機構を理解する。																																														
12	遺伝子、変異と遺伝病	遺伝子について知る。遺伝子の変異のメカニズムについて理解し、主要遺伝病について学ぶ。																																														
13	ホルモン1：主要ホルモンと分泌臓器、分泌の調節	人体のホルモン分泌臓器とそれぞれのホルモンについて理解する。ホルモン分泌調節機構について理解する。																																														
14	ホルモン2：各種ホルモンの働き	主要ホルモンの作用について理解し、覚える。																																														
15	栄養吸収、代謝における各臓器の役割	エネルギー代謝における肝臓、脾臓、脂肪組織、筋、脳の役割を理解する。																																														
評価方法 および評価基準																																																
90%期末試験の成績、10%は小テストなど授業参加の評価を合計する。																																																
S(100~90点)： 試験でとくに優秀な成績をとり、理解が特に優れている																																																
A(89~80点)： 試験で優れた成績をとり、講義内容が理解できる。																																																
B(79~70点)： 講義内容が理解できていると考えられる。																																																
C(69~60点)： 講義内容がほぼ理解できていると考えられる。																																																
D(60点未満)： Cのレベルに達していない																																																

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0701	栄養学	2年/前期	1
担当教員		科目区分	
太田美智男		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的					
各種栄養素の人体における働きを理解し、食と健康のあり方について学ぶ。また各種疾患と食の関わりについて理解する。					
授業内容					
食と健康の関わりを科学的に理解し、成長過程における各種栄養素の必要性と問題点を学ぶ。また免疫と食の関係についても学ぶ。さらに糖尿病、脂質異常症など代謝疾患およびメタボリック症候群などと栄養の関係を学ぶ。また消化器疾患、循環器疾患、腎疾患、癌など各種疾患の病態と栄養の関係について学ぶとともに、栄養管理について基本を理解する。					
留意事項（履修条件他）					
毎回の講義の内容は、生化学の講義を踏まえて行う。さらに臨床医学的な内容が加えられる。講義内容を理解し記憶するために、各回の講義後の復習を課す。					
教材					
書名：ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 著者名：關戸啓子編集 出版社・出版年：メディカ出版／2013年 価格：2940円					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	人生各期における栄養：栄養不良症（クワシオルコル、マラスムス）、高齢者の食事の問題点	乳児期・小児期、成人、高年期における栄養摂取の特徴を理解する。 栄養不良症を理解する。			
2	エネルギー消費量の基準、基礎代謝とホルモンの働き：甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、アドレナリン、活動時エネルギー消費量、メツツ値	エネルギー消費量の基準について理解する。 基礎代謝と基礎代謝に影響を与える各種ホルモンの作用を理解する。			
3	①食事摂取基準：エネルギー及び炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルの摂取量の基準。②栄養アセスメント：NSTと栄養アセスメントの方法	各種栄養摂取基準を理解する。栄養アセスメントの意義と方法を理解する。			
4	①経腸栄養と高カロリー輸液：経腸栄養(EN)、高カロリー輸液(TPN) ②摂食・消化・排泄と消化器の機能：胃、小腸、大腸の機能、炎症性腸疾患の食事	経腸栄養法、高カロリー輸液について、内容を理解する。 栄養摂取における腸管の機能と、その障害について理解する。			
5	①肝臓、脾臓の機能と疾患、②糖尿病：食事療法、インスリン療法、糖尿病合併症	栄養摂取における肝臓と脾臓の役割およびその傷害による疾患を理解する。 糖尿病について理解し、治療法の概略を説明できる。			
6	脂質異常症：食事療法と治療薬、動脈硬化、メタボリック症候群と予防	脂質異常症を理解し説明できる。 メタボリック症候群とその予防法について理解する。			
7	腎臓、心臓の機能と栄養：栄養代謝における腎の働き、電解質バランス、腎不全と栄養、高血圧と食事	栄養代謝における腎臓の役割を理解する。腎不全の病態とその栄養治療について理解する。 栄養代謝における心臓の働きを理解する。高血圧発症のメカニズムとその予防のための食事を理解する。			
8	免疫と栄養、各種疾患と食事：免疫機能と栄養、食物アレルギー、腸内細菌の働き、周術期、熱傷、褥瘡、急性膵炎、多発外傷、脳卒中、癌患者の食事	免疫機構を理解し、栄養の免疫系への影響を理解する。 食物アレルギーについて知り、説明できる。 手術、熱傷、脳卒中、がんなどの患者の食事の留意点を理解する。			
評価方法 および評価基準					
90%期末試験の成績、10%は小テストなど授業参加の評価を合計する。					
S (100~90点) : 試験でとくに優秀な成績をとり、理解が特に優れている					
A (89~80点) : 試験で優れた成績をとり、講義内容が理解できる。					
B (79~70点) : 講義内容が理解できていると考えられる。					
C (69~60点) : 講義内容がほぼ理解できていると考えられる。					
D (60点未満) : Cのレベルに達していない					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BE0801	適応・協関の生理学	2年/後期	2
担当教員		科目区分	
朝山正己		専門基礎科目-人体の構造と機能	

講義目的		
<p>ヒトは、外部からの刺激に対して体の諸機能を調節することで生体機能を一定に保とうとする働き（恒常性）を有するが、運動負荷や高温暴露などの「刺激とそれに対する反応」が繰り返されることによって、恒常性の能力が亢進する。この働きを適応と言う。換言すると、健康な状態とは適応反応が正常に働いている状態であり、健康増進とは適応能力を高めることと言える。一方、病気は適応能力が低下ないしは破綻した状態と言える。</p> <p>本講では、呼吸、循環、エネルギー代謝あるいは体温などのヒトの生理機能に対する基礎知識を学習するとともに、それらの運動や暑熱負荷に対する生理調節反応と機序について述べる。講義を通してバイタルサインの基本的な指標である体温の基礎知識を学ぶ。また、健康づくりの基本となる運動による健康増進のための基礎知識を養成する。さらに、体温や体液バランスの不調がもたらす熱中症の病態と予防方法についても習得する。</p>		
授業内容		
<p>授業の目的を達成するために、講義は次の内容で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 運動の強度や量を科学的に理解するために、その基礎となる呼吸、循環、エネルギー代謝等の生理学に関する基礎知識を学習する。 温熱環境に対する適応を理解するために、その基礎となる体温調節の機序について学習する。 上記で得た知識をもとに、体温等のバイタルサインによる健康管理の要諦について学習する。 <p>また、熱中症などの暑熱障害やその予防策、あるいは交叉適応についても学習する。</p> <p>授業は、指定の教科書を使い、学習の要点をパワーポイントによって提示する。また、必要に応じて簡単な模擬実験を行ながら授業を展開する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
授業の理解度と出席の状況を確認するために、毎時の授業に小テストを行う。		
教材		
朝山他編著「イラスト運動生理学」（東京教学社）をテキストとして使用。		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	運動と適応（1）呼吸の仕組み	呼吸や換気運動についての概要について理解させる
2	（2）血液による酸素と炭酸ガスの運搬	呼吸ガスが血液によってどのように運ばれるか、その基本について理解させる。
3	（3）呼吸調節の仕組み	呼吸を調節する仕組みについて理解させる。
4	（4）運動と酸素	運動と酸素の関係を理解し、有酸素運動と無酸素運動の違いについて理解させる。
5	（5）運動とエネルギー代謝	運動とエネルギー代謝の関係を学び、それに基づいて運動の強度と量の違いを科学的に理解し、健康運動の基礎知識を養成する
6	（6）循環の仕組み	循環の仕組みについて学習させる。
7	（7）運動と循環	運動に対する循環反応を学び、その反応から運動強度の表し方や、運動処方の指標に応用する技術を学ばせる。
8	環境と適応（1）体温とその調節	体温とは何か。ヒトの体温変動の要因について理解させる。
9	（2）体温の体熱バランス（その1）	体温は熱放散と熱産生のバランスによって調節されるが、この講義では熱放散要因について理解させる。
10	（3）体温の体熱バランス（その2）	前週に続いて、体温の体熱バランスの熱産熱要因について学ばせる。
11	（4）体温調節の機序	体温は数々の生理的、物理的要因が係って調節される。この講義では体温調節の仕組みについて学ばせる。
12	（5）体温の病態生理	疾患と体温の変動、あるいは小児の体温低下の実態と原因などについて知ることによって、体温による健康管理の要諦を学ばせる。
13	交叉適応（1）運動適応と体温調節	運動時の体温反応や運動鍛練者の暑熱適応反応の特性から交叉適応についての基礎知識を学ばせる。
14	（2）暑熱適応と体温調節	暑熱環境下における体温調節反応特性を明らかにして環境に対する適応や馴化について理解させる。
15	まとめ	講義のまとめとして、ヒトの生命活動や健康の維持にどのようにヒトの適応協同のメカニズムが係っているか総括する。

評価方法 および評価基準	
期末試験 60%、小テスト 40%	
S (100~90 点) :	本講義の内容が十分理解され、しかも、得られた学習知識がお応用できる実践力あると認められる。
A (89~80 点) :	本講義の内容が十分理解され、授業にも積極的に参加できたと認められる。
B (79~70 点) :	本講義の内容が十分理解されるが、授業には積極的に参加できたとは認められない。
C (69~60 点) :	本講義の内容が十分理解されたとはいえないが、授業には積極的に出席し、課題の提出等の成績を含めて評価できる。
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BF0101	病理学	2年/前期	1
担当教員		科目区分	
太田美智男		専門基礎科目-疾病の治療と回復促進	

講義目的					
病気の機序を学び、その原因を理解する。					
授業内容					
さまざまな病気の原因を科学的に理解し、病気の機序を学びその結果として人体にどのような影響が現れるかを学ぶ。とくに組織の構造や機能に現れる変化を学ぶ。					
留意事項（履修条件他）					
講義内容を理解し記憶するために、毎回の授業の後で復習を必須とする。					
教材					
カラーで学べる病理学「第3版」（ヌーベルヒロカワ）					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	病理学の領域：病理学の概要、医療における臨床病理学の役割、組織診断の手順、腫瘍概論	臨床病理学について理解する。 組織診断の手順を説明できる。			
2	細胞・組織とその障害、再生と修復：細胞・組織の構造と機能、細胞ならびに組織の障害、再生と分化、創傷治癒、老化	細胞の傷害と修復機構を理解できる。 創傷治癒のメカニズムを理解できる。 老化について考え方を知る。			
3	炎症：炎症の病変・メカニズム、慢性炎症、肉芽腫性病変、SIRS、感染症	炎症反応の機構を理解する。 全身性炎症反応疾患を理解する。 主要感染症に対する生体反応、症状を理解する。			
4	免疫とアレルギー①：免疫系の仕組み、免疫系の役割と作用機構、免疫記憶、免疫対応	免疫のしくみと役割を理解できる。			
5	免疫とアレルギー②：アレルギー、自己免疫疾患、膠原病、免疫不全	免疫の関与する疾患（アレルギー、自己免疫病、膠原病、免疫不全症）を理解し説明できる。			
6	血液凝固と塞栓症：凝固・止血機構、凝固に関する疾患、血栓・塞栓症	血液凝固のメカニズムを理解できる。 凝固に関する疾患を説明ができる。			
7	循環障害：充血・うっ血、虚血と梗塞、心不全、ショック、高血圧	循環の機構を説明できる。 梗塞、心不全、高血圧について理解できる。			
8	代謝異常：糖質代謝とその異常、脂質代謝異常、核酸代謝異常、生活習慣病	糖代謝異常について理解できる。 脂質代謝異常について理解できる。 核酸代謝異常について理解できる。 生活習慣病を説明できる。			
9	内分泌臓器：内分泌臓器の分泌ホルモンと機能、それぞれの内分泌臓器の疾患（自己免疫病、良性腫瘍、ホルモン分泌異常症）	各種内分泌疾患について、原因、症状を理解し説明できる。			
10	血液と骨髓：血液細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫	各種血液疾患について、理解できる。			
11	呼吸器：鼻腔・咽頭・気道・肺の構造と機能、COPD、肺炎、肺癌	呼吸器の機能を理解し、COPD、肺炎、肺癌を説明できる。			
12	消化管：食道・胃・小腸・大腸・肛門の構造と機能、潰瘍、各部位の腫瘍、イレウス	消化管の各部位の機能を理解できる。 各部位の潰瘍、腫瘍について説明できる。			
13	肝臓・脾臓：肝臓・脾臓の構造と機能、肝炎、肝臓癌、胆道系疾患、脾炎、脾癌	肝臓・脾臓の機能を理解し、その確定のメカニズムを理解できる。 肝がん、胆管癌、脾がんを理解できる。			
14	脳・神経系疾患、運動器系疾患：脳浮腫、脳血管障害、神経変性疾患、脱髓性疾患、感染症、外傷、脳腫瘍、骨折、骨・関節の炎症、骨・関節の腫瘍、脊椎疾患、筋肉の疾患	脳神経疾患をあげ、それぞれの疾患を理解し説明できる。 骨・関節疾患を理解し説明できる。 筋肉の疾患を理解できる。			
15	腎・泌尿器、生殖器：腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、腎がん、膀胱腫瘍、泌尿器系感染、前立腺疾患、精巣腫瘍、子宮疾患、卵巢疾患、乳がん	腎・泌尿器疾患を理解し腎臓の機能に基づいて説明できる。 男性生殖器の疾患を理解できる。 女性生殖器の疾患を理解できる。			
評価方法 および評価基準					
試験による評価を90%、授業態度を10%として評価する。					
S (100~90点) :	試験でとくに優秀な成績をとり、理解が特に優れている				
A (89~80点) :	試験で優れた成績をとり、講義内容が理解できる。				
B (79~70点) :	講義内容が理解できていると考えられる。				
C (69~60点) :	講義内容がほぼ理解できていると考えられる。				
D (60点未満) :	Cのレベルに達していない				

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BF0201	疾病・治療論Ⅰ [2時間連続]	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
石黒士雄		専門基礎科目-疾病の治療と回復促進	

講義目的	<p>生体（臓器）の形態や機能についての知識をベースとして疾病と症状の関係を理解する。症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法を学ぶ。疾患と関連付けた代表的な治療法を理解する</p>		
授業内容	<p>主要な疾患について症状、成因、検査、治療法を述べることができることが目標となる。</p> <p>疾患（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を理解し適切な対応について説明できる。</p> <p>外科的適応疾患については麻酔、人工換気療法を含めた</p> <p>集学的な治療法を学ぶ</p>		
留意事項（履修条件他）	<p>時間外学習として受講前に教科書の講義内容部分を読んでおくこと。</p> <p>受講後、不明な部分については講義後あるいは時間外に質問し、疑問点を放置しないこと</p>		
教材	<p>看護のための臨床病態学：浅野嘉延編 南山堂 (491.61・A87)</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	疾病の診断に必要なことから	疾患の病態・診断・治療について一連のプロセスを理解し、必要性を考える	
2	呼吸器①急性疾患、肺がん	肺急性疾患の症候・治療法を理解し、説明できる	
3	呼吸器②慢性閉塞性肺疾患	肺慢性疾患の症候を理解し、それへの対応を検討できる	
4	呼吸器③呼吸管理	呼吸管理が必要な病態を説明でき、機器の管理・運用が説明できる	
5	循環器①虚血性心疾患	虚血性心疾患の病態・症候を説明できる	
6	循環器②不整脈：WPW、房室ブロック	不整脈の種類ごとの変化を説明でき、対応を述べることができる	
7	循環器③不整脈：細動、脚ブロック	不整脈の種類ごとの変化を説明でき、対応を述べることができる	
8	循環器⑤心臓手術	疾患ごとの手術法の違いを理解し、対応法の重要性を述べることができる	
9	麻酔①：全身麻酔と人工換気療法	麻酔の方法・薬物について説明でき、異常時の対応法を述べることができる	
10	麻酔②：局所麻酔	局所麻酔薬の種類・方法について説明ができる	
11	脳神経系疾患①血管障害	血管の異常の部位や状態により異なった病態になることを理解し、それへの対応を説明できる	
12	脳神経系疾患②変性疾患	神経細胞の代謝異常などの変化を理解し、治療法を考えることができる	
13	脳神経系疾患③腫瘍	頭蓋内に発生する腫瘍での特殊な病態症状を理解することができる	
14	脳神経系疾患③脊髄	伝導路の構成を理解し、症候と病変部の関連を理解できる	
15	脳神経系疾患：末梢神経疾患	外傷、感染、自己免疫疾患など多様な原因で発生する疾患ごとに病態を理解でき対応を説明できる	
16	血液疾患①出血・凝固異常	血管が破裂して出血すると生体は止血機構を働かせる、この止血機構の障害がどのような症状をきたすのか理解、説明できる	
17	血液疾患②貧血、白血病	造血機構の炎症、腫瘍、先天性疾患などを理解し、その対応を説明できる	
18	内分泌①糖尿病	糖尿病の発症には遺伝因子、環境因子、生活習慣が関与する。治療の基本となる患者自身への教育や、心理面のサポートを理解できる	
19	内分泌②クッシング症候群、バセドウ病	全身的に起きる多彩な症状の原因を理解し説明できる	
20	感染症と免疫疾患	感染症への標準的予防策を理解し、疾患ごとに異なる対応を考えることができる	
21	腎疾患①：腎機能と糸球体疾患	腎炎は一つの病気を意味する言葉でないことを理解し、疾患ごとの対応を理解できる	
22	腎疾患②：腎不全	腎臓が働かなくなった腎不全では透析治療が重要となる。長期治療が必要な病態と対応を説明できる	

23	泌尿器疾患	結石、感染、腫瘍、先天異常による障害が引き起こす症状を理解することができる
24	消化器①口腔・食道・胃	腹痛、嘔吐などの症状をきたす疾患を説明でき、それへの対応を考えることができる
25	消化器②小腸、大腸	腹満、下痢、便秘などがどのような消化管の病変で起きるのかを理解できる
26	消化器③肝	黄疸、腹水など肝臓が原因できたす症状は複雑である。その病態、治療法を説明できる
27	消化器④胆道、膵	早期に診断を付けにくく、検査法が特殊な臓器の特性を理解し、対応を説明できる
28	消化器手術と管理法	切除手術は開腹のみならず、内視鏡手術でも行われる。適応について理解し、その利点、欠点を説明できる
29	運動器疾患①骨、関節	年齢ごとに異なる疾患がどのように発生するのかを理解し、対応法を説明できる
30	運動器疾患②腫瘍	診断方法、治療法を説明できる

評価方法 および評価基準

期末試験 50 %、確認テスト 50 %

- S (100~90 点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を十分理解し適切な対応について説明できる
- A (89~80 点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を概ね理解し適切な対応について説明できる
- B (79~70 点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を不十分な点もあるが理解し適切な対応について説明できる
- C (69~60 点) : 看護に求められる疾病（呼吸循環器、脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態を理解しようと努力している
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BF0301	疾病・治療論Ⅱ	2年/前期	1
担当教員		科目区分	
安藤勝久 岡本和士 尾関善宣 中村晴彦 石川博彦		専門基礎科目-疾病の治療と回復促進	

講義目的

- 精神医学の代表的な疾患の病因、症状や治療法について理解できる。
- 老年期の特徴と老年期の代表的な疾患の症状や治療について理解できる。
- 耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法の基本的な内容について理解できる。

授業内容

この科目では、看護師が知っておくべき精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。精神医学では、代表的な精神疾患、統合失調症、気分障害、摂食障害、てんかん、不安障害などの病因、症状、治療法について理解できる。老年医学では、高齢者の健康問題の特徴と高齢者がかかりやすい疾患やその予防、治療法について理解できる。耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法についてその基本が理解できることを目的とする。

留意事項（履修条件他）

- 毎週の決まった時間の講義ではないため、このシラバスで授業日をよく確認しておくこと。
- 専門的な内容のため、解剖生理学や病理学で学んだ知識をこの授業で学ぶ疾患の基礎として復習して授業に臨むこと。
- 学習課題の予習と復習をしっかりしてください。

教材

授業中に資料を配布する

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習内容）
1	皮膚科の疾患と治療の基礎（石川） 4月20日（水）4限	解剖生理学や病理学で学んだ皮膚科に関する内容の復習をして授業に臨んでください。
2	精神医学① 精神科疾患の総論（安藤） 5月11日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
3	精神医学② 統合失調症①（安藤） 5月18日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
4	眼科の疾患と治療の基礎（尾関） 5月21日（土）4限	解剖生理学や病理学で学んだ眼科に関する内容の復習をして授業に臨んでください。
5	精神医学③ 統合失調症②（安藤） 5月25日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
6	老年医学①高齢者の身体的、生理的特徴（岡本） 5月28日（土）3限	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で学んだ内容の復習をして授業に臨んでください。
7	老年医学②高齢者における疾患の特徴（岡本） 5月28日（土）4限	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で学んだ内容の復習をして授業に臨んでください。
8	老年医学③高齢者における循環器疾患（岡本） 5月28日（土）5限	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で学んだ内容の復習をして授業に臨んでください。
9	精神医学④ 気分障害、ストレス関連障害①（安藤） 6月1日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
10	精神医学⑤ 気分障害、ストレス関連障害②（安藤） 6月8日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
11	老年医学④高齢者における精神疾患について（岡本） 6月11日（土）1限	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で学んだ内容の復習をして授業に臨んでください。
12	老年医学⑤高齢者における神経学的疾患・内分泌疾患（岡本） 6月11日（土）2限	病態生理を中心に講義するので解剖生理学や病理学で学んだ内容の復習をして授業に臨んでください。
13	精神医学⑥ 不安障害、摂食障害（安藤） 6月15日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
14	精神医学⑦ てんかんなど（安藤） 6月22日（水）4限	精神保健看護学概論のテキストの精神看護における治療と看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを読んで授業に臨んでください。
15	耳鼻科の疾患と治療の基礎 7月20日（水）4限	解剖生理学や病理学で学んだ耳鼻科に関する内容の復習をして授業に臨んでください。

評価方法 および評価基準

期末試験 100%で評価します。各回を 10 点として 150 点満点を 100 点に換算して評価をします。

100 点換算後の 60 点以上を合格とします。60 点未満の再試験は 1 回のみです。

- S (100~90 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、十分に説明できる。
- A (89~80 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、十分に説明できる。
- B (79~70 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、概ね説明できる。
- C (69~60 点) : この科目で学んだ精神疾患や老年期の特徴や疾患、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の疾患の病因、症状、治療が、不十分ながら最低限の内容は説明できる。
- D (60 点未満) : C のレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BF0401	疾病・治療論Ⅲ	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
前田正信 澤田富夫		専門基礎科目-疾病の治療と回復促進	

講義目的		
<p>産婦人科医学における到達目標は、以下とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な妊娠経過と妊娠期の異常について理解する。 2. 正常な分娩と分娩期の異常について理解する。 3. 正常な産褥期と産褥期の異常について理解する 4. 不妊治療や更年期の特徴や治療について理解する。 5. 解剖生理学、病理学の基礎的知識を基盤に、女性生殖器腫瘍の病理と治療について理解する。 <p>小児医学では、常に発達、成長する子どもの特徴を理解し、小児期に特有の疾患の病態と治療、新生児・未熟児医療、小児神経疾患等について学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学、病理学の基礎的知識を基盤に、小児期に特有の疾患の病態と治療について理解する。 2. 小児の成長・発達にあわせた治療、検査の特徴について理解する。 3. あらゆる健康段階にある小児の疾患の診断と治療について理解する。 		
授業内容		
<p>この科目は、小児医学と産婦人科医学を教授する科目である。女性の生殖器と周産期に関する健康問題に対し、基礎的知識を教授する。</p> <p>女性の性・生殖に関する解剖生理の復習と、更年期・老年期にいたるまでの生理を解説する。また、女性の健康問題の早期発見と適切なケア、予防教育の提供を目標に、周産期に起こりうる健康問題や代表的な疾患を、さらには、婦人科系疾患の病理・診断、治療に関して知識を教授する。</p> <p>小児医学では、周産期及び小児期に特有の疾患の診断と治療に関する基礎的知識を学修する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。</p>		
教材		
<p>（母性看護学概論で用いる教科書） 森恵 系統看護学講座 母性看護学1 母性看護学2 医学書院 2015年 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円+税</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	女性生殖器の解剖・生理について [9月17日 4時間 澤田] *注意：土曜日	予習として、1年次に学習した女性生殖器の解剖生理学の部分のテキストや授業内容を復習し押さえておくこと。2年前期の病理学の女性生殖器に関連する部分についても復習しておくこと。
2	正常な妊娠経過と妊娠期の異常 [9月21日 5時間 宮村]	
3	分娩の生理と正常分娩、分娩期の異常 [9月28日 4時間 関谷]	
4	正常な産褥期、産褥期の異常 [9月28日 5時間 関谷]	
5	不妊と治療 [10月5日 4時間 澤田]	復習として、授業の資料をよく理解すること母性看護学概論で用いたテキストの左記の部分を読んでおくこと。
6	更年期医学 [10月5日 5時間 澤田]	
7	女性生殖器の腫瘍の病理、診断および治療 [10月12日 4時間 藤井]	
8	循環器疾患（先天性心疾患、川崎病） [10月19日 4時間 前田]	
9	染色体異常、先天異常、新生児疾患、低出生体重児疾患（RDS、NEC） [10月26日 4時間 前田]	テキストの第8章A総論およびBおもな疾患①総論②先天性心疾患③川崎病④後天性心疾患⑤心臓律動の異常⑥突然死を読む。授業では実例画像を示し最近の治療法を紹介して先天性心疾患の発生や病態の理解を深める。授業後は循環器疾患全体の考え方を整理し、先天性疾患の発生や病態を系統的に理解する。
		テキストの第1章染色体異常の項目Bおもな疾患、第2章①新生児の疾患②低出生体重児の疾患③成熟異常を読む。授業では実際のNICUなど新生児疾患の管理方法などを学習し、産科を含めた周産期医療の在り方の理解を深める。

10	代謝性疾患（Ⅰ型糖尿病）、内分泌疾患、及び特別講義「地域包括ケア時代における母子手帳の在り方」 [11月2日 4時間 前田]	テキスト第3章代謝性疾患と看護Bおもな疾患①新生児マスースクリーニング、②先天性代謝異常③代謝異常（糖尿病）、第4章Bおもな疾患①下垂体②甲状腺③副甲状腺④副腎⑤性腺を読み、生理学各項の関連を再度一読しておく。授業後は生理学と病態学を関連付け、臨床を知る。「母子手帳からの生涯健康手帳」の新しい考え方を紹介する。
11	免疫疾患、アレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー）リウマチ性疾患（JIA） [11月9日 4時間 前田]	テキストの第5章A看護総論Bおもな疾患①アレルギーのメカニズムを読み、生理学の生体防御機構の項も再度読み返し理解しておく。②アレルギー疾患③原発性免疫不全④リウマチ性疾患を読む。授業では各疾患の最近の治療法などを交え、病態と臨床の理解を深める。授業後は生体防御機構と各疾患の関連性を整理し、免疫アレルギーなどの病態生理全体の理解を深める。
12	感染症（ウイルス感染症、細菌感染症）、呼吸器疾患（クループ、細気管支炎、肺炎） [11月16日 4時間 前田]	テキストの第6章A看護総論①子供の感染に関する基本的知識、Bおもな疾患①微生物総論②ウイルス感染症①から②、③細菌感染症①から①を読み、④⑤その他も目を通しておく。第7章A看護総論Bおもな疾患①②③④を読む。授業では小児一般診療の最も多い感染症と呼吸器疾患と合わせてその臨床を理解する。授業後は感染症と呼吸器、消化器、皮膚疾患など関連付けて理解を深める。
13	消化器疾患（先天性疾患、腸炎）および血液・造血器疾患（ITP、血友病）、悪性新生物（白血病、その他固形腫瘍） [11月30日 4時間 前田]	テキスト第9章A看護総論、Bおもな疾患①から⑩を読み消化器疾患の多様性を知っておく。授業では重要な疾患の臨床の理解を深める。その後先天性から感染症までの臨床の理解を深める。テキストの第10章Bおもな疾患①②③を読み、血液の成分の役割や血液凝固、血液型等を生理学を読み返し理解しておく。第11章Bおもな疾患①②④を読む。（脳腫瘍等は「神経」で）
14	腎・泌尿器疾患（先天奇形、ネフローゼ、CKD、AKI、腫瘍等）、生殖器疾患（底流精巢、尿道下裂等）、及び事故・外傷に対する医療 [12月7日 4時間 前田]	テキスト第12章Bおもな疾患①から⑪および、ウイルムス腫瘍を読み先天性、急性疾患、慢性疾患、腫瘍などの多様な疾患を知っておく。授業ではそれぞれの病態生理を深め、その診断、治療などを学習する。第19章A看護総論Bおもな疾患①から⑨を読み、日本の小児の死因第1位の事故・外傷に対応できる知識を持ち、虐待児への対応も学ぶ。
15	神経疾患（てんかん、筋ジストロフィー）、（脳腫瘍、神経腫瘍）および発達障害 [12月14日 4時間 前田]	テキスト第13章A看護総論Bおもな疾患①から⑨および第11章③④を読み神経筋疾患を知る。テキスト第18章A看護総論Bおもな疾患①から⑤を読む。授業では神経筋の代表的疾患の位階を深め、発達障害に対する考え方の理解を深める。神経疾患及び発達障害の後病態を理解を深め、在宅医療、家族、学校、社会など多職種連携について理解を深める。

評価方法 および評価基準

（小児医学）期末試験 70%、小テスト 30% （産婦人科） 期末試験 100%

S (100~90点) :	看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が十分に理解できる。 小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が十分理解できる。
A (89~80点) :	看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が概ね理解できる。 看護に必要な小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が概ね理解できる。
B (79~70点) :	看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が、不十分な点もあるが理解できる。 看護に必要な小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が不十分な点もあるが、理解できる。
C (69~60点) :	看護に必要な妊娠出産、および産褥期の正常と異常についての基礎的知識、更年期や女性生殖器の疾患についての基礎的知識が理解できるよう努力している。 看護に必要な小児期に特有な疾患の病態と治療の基礎的知識が理解できるよう努力している。
D (60点未満) :	Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BF0601	薬理学	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
堀田芳弘		専門基礎科目-疾病の治療と回復促進	

講義目的	<p>ヒトへの薬物療法を効果的に行える能力を身につけるため、薬物の生体に対する作用機序と共に、生体の薬物に対する効果反応を理解し説明できるようにする。疾患と重ね合わせることにより薬物の薬効メカニズムを理解し、副作用、相互作用の機序、薬物の保管・管理方法などを理解し、より実践的な知識を身につけ臨床の場で応用できる力につける。</p>		
授業内容	<p>総論において、薬理学の基礎知識について医学用語を説明でき、薬理学の大筋をつかむ。そして各論の総論とも言われている自律神経系に作用する薬物を中心として臨床で使用されている薬物について理解し、中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍、薬物中毒などの各論につなげる。教科書・参考書などを読むことにより理解できることを教育の優先とする。講義を受ければ重要な薬物のポイントを認識でき、他の薬物も類推できるようになる。</p>		
留意事項（履修条件他）			
教材			
テキスト：薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 吉岡允弘著、医学書院			
参考書：クイックマスター薬理学、新訂版、鈴木正彦著、サイオ出版			
シンプル薬理学、第5版、野村隆英、石川直久編集、南江堂			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	薬理学の基礎知識1（薬理学の概要、法令）	薬理学の概要（薬力学・薬物動態学）を理解し、ヒトへの薬物の治療応用の有効性・安全性から臨床薬理学へつなげる。薬物の法律である医薬品医療機器等（旧薬事法）によって規制されている薬物についても理解する。	
2	薬理学の基礎知識2（薬物の作用、作用に効果を及ぼす要因）	薬物の薬力学である主・副作用の機序として作用点（受容体など）の関与を理解し説明できるようにする。	
3	薬理学の基礎知識3（適用方法、薬の体内動態、副作用、医薬品の命名法など）	生体の薬物に対する効果である薬物動態学（吸収・分布・代謝・排泄）を理解し有害な副作用情報を説明できるようにする。薬物の名前である一般名・商品名などを命名法として理解する。	
4	末梢神経作用薬1（自律神経作用薬）	各臓器に一对の交感神経・副交感神経（自律神経系）が結合しており、臓器の機能水準を一定に保っていることから各論の総論とされ、作用薬・遮断薬が臨床では汎用されている。各臓器の機能を理解できれば全体の薬理作用を理解できる。	
5	末梢神経作用薬2（局所麻酔薬、筋弛緩薬）	自律神経以外の神経に作用する筋弛緩薬・局所麻酔薬の機序・有害作用について説明できるようにする。	
6	中枢神経作用薬（全身麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬など）	うつ病・パーキンソン病・學習・記憶などに中枢神経系の各ニューロン間の情報伝達に関与している神経伝達物質を理解し、作用機序・有害作用について理解し説明できるようにする。	
7	オータコイド・アレルギー用薬（抗ヒスタミン薬、非ステロイド性抗炎症薬（解熱鎮痛薬）、痛風治療薬）	アレルギー薬を理解し炎症に関連するオータコイド（生体自己調節物質）について説明できるようにする。治療薬として用いられている副腎皮質ステロイド薬と非ステロイド薬（NSAIDs）の作用機序・有害作用について区別して理解する。	
8	心臓血管系作用薬（心不全治療薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、抗高血圧薬、高脂血症薬、利尿薬）	高血圧・心不全など循環系の疾患は、心臓・脳・腎臓血液などへの障害の予防にも関係する。心不全治療薬の治療法は神経系の関与、血液量・心収縮力・末梢血管抵抗などから説明できるようにする。	
9	血液造血系作用薬（貧血/白血球減少症治療薬、血液凝固阻害薬/抗血小板薬、血栓溶解薬/止血薬）	貧血治療薬・血液凝固薬/抗血小板薬などの機序から疾患について理解できるようにする。	
10	呼吸器系作用薬（呼吸促進薬/鎮咳去痰薬、気管支喘息薬）	気管支喘息薬に関して副腎ステロイド薬、気管支拡張薬、抗アレルギー薬の疾患に対する使用法を学ぶと共に有害作用を理解する。	
11	消化器系作用薬（健胃消化薬/制酸薬、消化性潰瘍薬、下剤/止瀉薬、制吐/利胆薬）	消化性潰瘍薬・健胃・消化管運動促進薬の機序の理解と薬物の使用方法について説明できるようにする。	
12	生殖器作用薬・物質代謝作用薬（子宮収縮薬、性ホルモン/経口避妊薬、ビタミン、ホルモン、輸血/栄養/電解質製剤）	糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬と治療薬としてのビタミン剤の機序について理解し説明できるようにする。	

13	抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬（消毒薬、抗菌薬、抗寄生虫薬、抗ウイルス薬、皮膚外用薬、抗悪性腫瘍薬）	抗感染症治療薬と抗悪性腫瘍薬の作用機序と有害作用について理解する。
14	皮膚科用薬・眼科用薬、漢方薬、消毒薬、薬物・毒物中毒の処置	皮膚病薬は外用療法について眼科用薬は線内障治療薬について説明できるようにする。漢方薬の有害作用・有効性のエビデンスについて理解する。消毒薬・薬物中毒についての対処法についても理解する
15	まとめ	全体についてまとめ理解し説明できるようにする。
評価方法 および評価基準		
出席状況 10%、試験・小テスト・提出レポート 90%から総合的に評価する。		
S (100~90 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について十分に説明することでき、患者への有害作用にも十分に対応できる。		
A (89~80 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について概ね説明することでき、患者の有害作用に対応できる。		
B (79~70 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について不十分でもあるが説明することでき、患者の有害作用にも対応できる。		
C (69~60 点) : 看護中の患者に薬物の主作用と有害作用について考えることでき、患者への有害作用にも対応するために努力している。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BG0101	統計学	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
市川誠一 西川まり子		専門基礎科目-健康と生活支援	

講義目的

統計は何れかの集団の特徴を数値化したもので把握し活用する学問である。この授業では保健統計に焦点をあてて、国レベルのデータの解読や、疫学的研究から得られたデータをより的確に処理する統計学の基礎を身につける。

- ・国民の健康や生活衛生の動向を把握するうえで必要となる保健統計について学習する。
- ・国民の健康や疾病に関する健康指標、疫学情報を調査、分析する上で基礎となる統計学について学習する。

授業内容

統計は看護師と保健師課程に必要であり、活動に必要な集団の健康指標に関する情報資源で、疫学的方法論をもとに学ぶ。保健統計では、わが国の人口静態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状況を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。主に「国民衛生の動向」を用いて、健康に関連した指標を理解し、これらを示す統計から国民の健康状態を把握する。人口静態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した傷病統計（国民生活基礎調査、患者調査など）でみる国民の生活と健康の特徴などを把握する。

また、保健医療データに基づくこれらの統計を理解するために、基礎的な統計学を講義する。保健・生物統計の基礎として記述統計、母集団からの標本（サンプル）抽出、母集団の推定、標本におけるグループの違いを推定する検定を学習する。

留意事項（履修条件他）

11回以降は、情報室（401教室）にて、実際の医学検査データについてPCを用いた統計処理を学習する。そのためPCを持参することが条件となる。なお、医学検査データは、あらかじめ大学指定の学生メールアドレスに送付があるので、講義前にデータをダウンロードしておくこと。

教材

- ①財団法人 『厚生統計協会 国民衛生の動向』 最新号、2315円+税
- ②牧本清子 疫学・保健統計学 最新版（標準保健師講座） 医学書院、2800円+税
- ③ラニー・ゴニック、ウルコット・スミス；中村和幸訳「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」白揚社、1900円+税

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	講義の目標と内容について 保健統計 1) 国民衛生の動向、人口静態統計（市川）	人口静態統計の基礎となる国勢調査の概要を知り、「国民衛生の動向」により、人口統計の主要な指標、日本の最新の人口統計の特徴、世界の人口統計の特徴を理解する。
2	保健統計 2) 人口動態統計 出生と死亡、その動向（市川）	「国民衛生の動向」により、人口動態統計の概要、出生の動向、出生に関連する指標、死亡に関連する指標を理解し、日本と世界の動向を理解する。 「国民衛生の動向」
3	保健統計 3) 人口動態統計 主要死因とその動向（市川）	主な死因とその動向（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）、悪性新生物の部位別死因、外因死（不慮の事故、自殺による死因）の動向、日本と世界の相違について、「国民衛生の動向」により、理解する。
4	保健統計 4) 人口動態統計 妊娠・出産関連と乳児死亡（市川）	「国民衛生の動向」により、妊娠から出産、養育における動態統計の指標を理解する。死産、乳児・新生児死亡、妊娠婦死亡、周産期死亡等の原因、これらの指標の日本と世界の動向を理解する。
5	保健統計 5) 人口動態統計 平均余命・平均寿命（市川）	生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命を理解する。「国民衛生の動向」により、日本および世界の国々の平均寿命の推移を理解する。また特定死因と平均寿命との関連、健康寿命に関連する要因を考え、看護職者の役割を理解する。
6	保健統計 6) 健康状態と受療状況 国民生活基礎調査・患者調査（市川）	「国民衛生の動向」により、国民生活基礎調査、患者調査が示す国民の健康状況、外来・入院の受療状況を理解し、保健医療が抱える課題、看護職者の役割を理解する。
7	保健統計 7) 生活習慣と保健統計 飲酒・喫煙・栄養・食生活・運動等（市川）	「国民衛生の動向」により、国民健康・栄養調査が示す国民の食生活、喫煙、飲酒等の状況を理解し、これらの要因の改善、疾病予防における看護職者の役割を理解する。

8	疫学的生物統計の基礎 (1) サンプリング (西川)	サンプリング：サンプリングとは何か・学ぶ理由・種類や方法 「疫学・保健統計」p20-24 「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」p89-110
9	疫学的生物統計の基礎 (2) 記述統計 1 (西川)	統計を学ぶ意義、データの整理、グラフの見方や作成における留意点 「疫学・保健統計」p107-123 「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」p7-26
10	疫学的生物統計の基礎 (3) 記述統計 2 (西川)	平均、標準偏差、変数の種類、中央値、最頻値、範囲、外れ値、四分位 「疫学・保健統計」p107-123 「マンガ確率・統計が驚異的によくわかる」p7-26
11	疫学的生物統計の基礎 (4) 母集団の推定 (市川)	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いた基本統計量の算出、平均値、標準偏差から母集団を推定する統計方法を理解する。
12	疫学的生物統計の基礎 (5) 生物統計における仮説検定、母平均と標本平均の比較検定 (市川)	生物統計における仮説検定を理解する。 健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、エクセルを用いて基本統計量の算出し、母平均と比較する統計方法を理解する。
13	疫学的生物統計の基礎 (6) 生物統計における仮説検定、二つの標本平均の比較検定 (市川)	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、二つの標本平均の比較統検定に関する統計方法を理解する。エクセルを用いて基本統計量を算出し、測定値が「対応がある場合」と「対応が無い場合」について理解する。
14	疫学的生物統計の基礎 (7) 生物統計における仮説検定、相関関係 (市川)	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、二つの変数の相関関係を知るための相関係数の算出や相関の有無に関する検定方法を理解する。エクセルを用いて基本統計量を算出し、相関図の作成、相関関係の検定を理解する。
15	疫学的生物統計の基礎 (8) 生物統計における仮説検定、百分率の比較検定 (市川)	健康診断で扱う医学検査に関するデータサンプルを提示し、離散量(百分率等)に関するデータについて、エクセルを用いて、母集団の推定や、カイニ乗検定による標本百分率の比較などの方法を理解する。

評価方法 および評価基準

中間試験(1-7回分)20%、(8-10回分)20%、(11-15回分)20%、期末試験30%、課題レポート10%

S(100~90点)： 保健統計に関する指標を十分に理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。

保健医療データに基づく統計的処理について十分に理解している。

A(89~80点)： 保健統計に関する指標を理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。

保健医療データに基づく統計的処理について理解している。

B(79~70点)： 保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することの基本的な理解がある。

保健医療データに基づく統計的処理についてある程度理解している。

C(69~60点)： 保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することへの基本的な理解がある。

保健医療データに基づく統計的処理についての基本的な理解をしている。

D(60点未満)： Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BG0201	疫学	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
西川まり子 市川誠一		専門基礎科目-健康と生活支援	

講義目的

疫学は、看護師と保健師課程に必要であり、活動に必要な集団の健康指標に関する情報資源で、保健統計学とともに学ぶ。授業を看護活動、地域保健、国際看護におけるヘルスの指標、評価と診断および健康促進に役立てる。

授業内容

この授業では主に疫学の基礎である(1)疫学の概念、歴史、その重要性、(2)集団の健康状態の把握の方法を述べ、計算する(3)疫学的研究方法(4)疾患の予防とスクリーニング(5)疫学と地理情報 GIS(6)感染症の基礎を学生の身近な事柄、地域、国際状況と照らし合わせながら学ぶ。初めて学ぶ学生にとっては難解な言葉も多いが、やさしい解説とクイズを解きながら自然に楽しく学ぶ。そのうえで、将来自分の実施してみたい疫学的研究内容や方法のイメージを持つ。

留意事項（履修条件他）

疫学は、看護活動や保健師活動の国内外の情報を得るための基礎になります。しっかりと学びましょう。

教材

- ① 牧本清子 『疫学・保健統計』 医学書院 最新号, ISBN978-4-260-00751-1 ¥2800
 - ② ラニー・ゴニック、ウルコット・スミス、中村和幸訳『マンガ確率・統計が驚異的によくわかる』、白揚社、2007、ISBN4-8269-0069-4 ¥1900
 - ③ 服部兼敏、西川まり子、木村義成『地域支援のためのコンパクト GIS-地図太郎入門』、古今書院 ¥2800
 - ④ 財団法人『厚生統計協会 国民衛生の動向』2015-2016 ¥2500
- (参考図書) 三砂ちづる『疫学への招待』医学書院、2005年, ISBN-13: 978-4260334051 ¥2300

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	疫学の概念 概念と定義 (西川)	予習・復習 教科書:①p2-17
2	集団の健康状態の把握：有病率と罹患率死亡率とその比較 (西川)	予習・復習 教科書:①p8-17
3	疫学的研究方法（1）対象集団の選定／観察研究 (西川)	予習・復習 教科書:①p20-23 ②p24-35
4	疫学的研究方法（2）主な観察研究 (西川)	予習・復習 教科書:①p26-35
5	疫学的研究方法（3）主な介入研究 (西川)	予習・復習 教科書:①p36-39
6	疫学的研究方法（4）主な介入研究 (西川)	予習・復習 教科書:①p36-40
7	疫学的研究方法（5）信頼性と妥当性、因果関係の立証 (西川)	予習・復習 教科書:①p41-54
8	疫学的研究方法（6）疫学研究の問題、調査票と倫理 (西川)	予習・復習 教科書:①p18-23
9	看護師・保健師活動と地理情報：GIS (西川)	予習・復習 教科書:③ p1-25
10	看護師・保健師活動と地理情報：GIS (西川)	予習・復習 教科書:③ p135-177
11	スクリーニング（1）疾病の予防3段階 (西川)	予習・復習 教科書:①p60-65
12	スクリーニング（2）疾病の予防とスクリーニング・疾病登録 (西川)	予習・復習 教科書:①p60-72
13	感染症（1）基本概念 (市川)	予習・復習 教科書:④p143-155
14	感染症（2）主要な感染症と法律 (市川)	予習・復習 教科書:④p156-172
15	感染症（3）アウトブレイク時の調査 (市川)	予習・復習 教科書:①p55-59

評価方法 および評価基準

クイズ 30% 期末試験 60% 授業への積極的な参加 10%

S (100~90点) : 疫学全般について、かなり良く理解できている

A (89~80点) : 疫学全般について理解できている

B (79~70点) : 疫学全般についてまあまあ理解できている

C (69~60点) : 疫学全般について、理解しようと努力している

D (60点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BG0401	公衆衛生学	1年/後期	1
担当教員		科目区分	
藤原奈佳子 原田裕子		専門基礎科目-健康と生活支援	

講義目的		
公衆衛生に関する基礎知識を得ることを目的とする。集団としての健康の増進と疾患の予防の具体的方策を考えることができるよう、以下を目標とする。		
<p>(1) 社会の中で、疾病と健康を扱うための理論と実践について説明することができる。</p> <p>(2) 健康・疾病・障害と生活の関わりの基礎的な概念を説明することができる。</p> <p>(3) 自然科学的な研究方法論である疫学の考え方を説明することができる。</p> <p>(4) 実践活動としての、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を説明することができる。</p>		
授業内容		
公衆衛生の歴史と公衆衛生行政の発展を学び、併せてプライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの理念等を踏まえて健康を規定する要因および、公衆衛生の概念を理解できる。また、公衆衛生の健康指標、健康づくり支援技術の根拠となる保健医療福祉制度・公的根拠を理解し、対象別及び集団・地域の公衆衛生の実践、学校及び産業の場における公衆衛生の実践、災害保健や健康危機管理における公衆衛生活動など、様々な公衆衛生の実践の場と看護師・保健師などの役割について学び、看護職の役割が果たせる。		
留意事項（履修条件他）		
日頃から地域や世界でおこっている保健医療の動向に关心をもって講義に積極的に臨むこと。		
教材		
長谷川友紀、長谷川敏彦、松本邦愛編、医療職のための公衆衛生・社会医学、医学評論社 国民衛生の動向、厚生統計協会		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	公衆衛生の概念（藤原）	公衆衛生の概念を説明できる。
2	公衆衛生の歴史（藤原）	公衆衛生の歴史を概観して、人々の健康に関する諸制度と保健活動が組織的に推進されていることが理解できる。
3	公衆衛生行政の発展、地域保健活動（原田）	国・地方公共団体など公の責任で実施される公衆衛生の体系や活動を理解できる。
4	ヘルスプロモーション、生活習慣病とその予防（藤原）	健康の定義について考えることができる。生活習慣病の概念とその対策について説明できる。
5	健康と環境・疫学的方法（藤原）	疫学の視点から人に関する環境をとらえることができる。根拠に基づいた判断とは何か考えることができる。
6	公衆衛生の健康指標（原田）	人口静態統計、人口動態統計、平均余命、有病率、罹患率等、基本的な指標について理解できる。
7	感染症とその予防（原田）	感染症の成立要因、伝播様式、予防や蔓延防止を理解できる。感染症法、予防接種法を理解できる。
8	食品保健と栄養（原田）	食中毒、食品衛生管理、国民栄養の現状、食の安全を理解できる。
9	生活環境の保全（原田）	地球環境、生活環境について考えることができる。公害について理解できる。
10	医療の歴史、医療制度、難病（藤原）	わが国の医療制度の概要を説明できる。難病に対する政策について理解できる。
11	母子保健（原田）	少子高齢化社会での母子保健を考えることができる。妊娠から出産、子育てをライフサイクルの中で理解できる。母子保健行政を理解できる。
12	学校保健（原田）	学校保健の保健教育、保健管理、環境衛生、学校安全を理解できる。学校感染症について理解できる。
13	精神保健福祉（原田）	精神障害者の人権尊重について考えることができる。こころの健康づくりや精神保健福祉制度について理解できる。
14	産業保健（原田）	労働安全衛生管理や法的枠組みについて理解できる。職業性疾病について考えることができる。
15	これからの公衆衛生（原田）	社会環境の変化を理解し、将来の健康課題への対応を考えることができる。
評価方法 および評価基準		
期末試験 60%、課題レポート 40%		
S (100~90 点) : 公衆衛生学の知識に基づき、集団特性に応じた保健活動を考えることができる。		
A (89~80 点) : 公衆衛生学の知識に基づき、健康指標や示されたデータを解釈できる。		
B (79~70 点) : 公衆衛生学の知識に基づき、集団の健康増進と疾病の予防を考えることができる。		
C (69~60 点) : 公衆衛生学の基本的な概念と、用語などに関する基本的事項について理解している。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BG0601	臨床心理学	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
西牟田祐美子		専門基礎科目-健康と生活支援	

講義目的		
臨床心理学とは何か考えるところから始め、その歴史や臨床心理実践を支える理論についてそれぞれ学習し、理解を深める。医療における心理学の概念と、歴史や、健康、心理アセスメントの要点、メンタルヘルス、医療現場で行われる心理療法について、ディスカッションや体験的な学習を通して正しい理解と習得をすることを目標とする。		
授業内容		
臨床心理学の歴史的発展と個々の文化の中での変遷、方法論に関する学術的理解を深める。また個人対個人の心理療法から、家族療法のような集団の関係性の中での療法などについても考察、理解する。医療現場における、心理学的な考え方の重要性について理解することのみならず、実際にアセスメント面談を実践するなど経験的な理解をも促し、また事例検討を通して他の医療従事者やコミュニティとの連携の重要性についても理解できる。		
留意事項（履修条件他）		
特になし		
教材		
書名：徹底図解 臨床心理学 編著者名：青木紀久代 出版社・出版年：新星出版社 2010年 価格：1,500円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	臨床心理学とは何かについて歴史的側面から、ヨーロッパを舞台とした精神分析学の発展とアメリカを中心に発展してきた、行動療法、来談者中心療法、エビデンスとナラティブという心理療法の実践における方法論についての理解を育む。	臨床心理学の歴史と様々な方法論について理解する
2	心理療法の代表的な3つのアプローチについて理解を深める。	心理療法の3つのアプローチについて理解する。
3	心理アセスメントについて学修する。精神科、緩和ケア病棟の心理アセスメントの意義と実際について理解し習得する。	心理アセスメントについて理解する。
4	心理療法におけるラポールと転移について理解する。	ラポール、転移、逆転移について理解する。
5	家族療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。	家族療法についての理解を深める。
6	医療の現場から（心理臨床事例検討1）	事例についてのレポートを作成する。
7	医療の現場から（心理臨床事例検討2）	事例についてのレポートを作成する。
8	まとめ	
評価方法 および評価基準		
期末試験 0%、課題レポート 80% 授業への取り組み 20%		
S (100~90点) : 臨床心理学の理論と実践に関する深い理解に達している。		
A (89~80点) : 臨床心理学の理論と実践に関する十分な理解に達している		
B (79~70点) : 臨床心理学の理論と実践に関する程度の理解に達している。		
C (69~60点) : 臨床心理学の理論と実践に関する一応の理解に達している		
D (60点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0101	看護学概論 I	1年/前期	2
担当教員		科目区分	
篠崎恵美子		専門科目-基盤看護学	

講義目的

看護学の導入として、看護の科学化に貢献する諸理論を学び、看護の過去・現在・未来について探求する。それらの学修を通して、看護実践者としての基礎を培うことを目指す。具体的には以下のことをを目指す。

1. 看護の定義・概念を理解する
2. 看護の歴史的変遷を知る
3. おもな看護理論から基本的な看護の役割と機能を理解する
4. 看護実践を支える法律、制度を理解する
5. 看護実践に関わる倫理的側面について考察する
6. 看護の対象とは何かを考え、対象にふさわしい看護を実践するための論理的思考を理解する

授業内容

看護の対象・役割と機能を学修するために看護の概念・定義、看護の歴史的変遷や主な看護理論を講義する。また、看護に関わる法制度や倫理的側面について考察するために、看護と倫理、看護と法律について事例を提示しながら講義する。さらに看護専門職として対象と向きあうための基本的態度を考察するために、クリティカルシンキングと看護過程を講義する。

留意事項（履修条件他）

看護専門領域の基礎となる科目であるため、主体的な学修を求める。したがって、毎回の講義時には指定する予習と復習をして出席することが条件である。また課題提出は時間厳守とする。

教材

- ・ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論：志自岐康子他編著、メディカ出版、2014、3,024円
- ・新版看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理、日本看護協会監修、日本看護協会出版会、2006、840円
- ・看護覚え書 本当の看護とそうでない看護、フローレンス・ナイチンゲール（著）、小玉香津子他訳、日本看護協会出版会、2004、1,470円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護の概念・定義	看護とは何かを看護学を学び始めた今の自分の考えを言語化する 課題1（現時点で考える看護について）
2	看護の歴史と成立（諸外国）	テキストp36-41を熟読する
3	看護の歴史と成立（日本）	テキストp36-56を熟読する
4	看護理論とは	テキストp104-126を熟読する
5	看護理論（ナイチンゲール）	看護覚え書を読み、本当の看護とは何かを考える
6	看護理論（ヘンダーソン）	テキストp110-112を読み、基本的ニードとは何かを理解する
7	看護理論（オレム）	テキストp112-114, 121-122を読み、セルフケアについて理解する
8	看護の対象とケアリング（ワトソン）	テキストp58-72, 109を読み、ケアリングについて理解する
9	看護と健康	テキストp80-88を読み、健康について自分の考えをまとめるとともに、看護の対象とケアリング（ワトソン）との関連性を理解する
10 11	看護と倫理	新版看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理を読み、倫理とは何かを考える
12	看護と法律	テキストp180-204を読み看護を取り巻く法を把握する
13	クリティカルシンキングと看護過程	テキストp172-177を読み、看護過程について理解する
14	看護診断・看護成果・看護介入	看護診断・成果・介入の関連を理解する
15	看護の役割と機能とは	テキストp150-172を読み、自分が考える看護について言語化する 課題2（講義を終えてあなたの考える看護について）

評価方法 および評価基準

期末試験 50%、確認テスト 30%、課題レポート 20%

- S (100~90 点) : 看護の科学化に貢献する諸理論を十分に理解し、看護の過去・現在・未来について十分に探求できる。また看護実践者としての基礎を培うことができる
- A (89~80 点) : 看護の科学化に貢献する諸理論を概ねに理解し、看護の過去・現在・未来について探求できる。また看護実践者としての基礎を培うことができる
- B (79~70 点) : 看護の諸理論を理解し、看護の過去・現在・未来について知り、考えることができる。また看護実践者としての基礎を培うことができる
- C (69~60 点) : 看護の諸理論を知り、看護の過去・現在・未来について知ることができる。また看護実践者としての基礎を培う努力ができる
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0201	看護学概論Ⅱ	1年/前期	1
担当教員			科目区分
倉田節子 内藤直子 柴山健三 眞井キミカ 山本純子 三徳和子 郷良淳子 西川まり子		専門科目-基盤看護学	

講義目的																											
<ol style="list-style-type: none"> 小児看護学、母性看護学、精神看護学、成人看護学、高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、国際看護学の目的や対象や看護の概要（特徴）がわかる 各対象における看護の倫理的課題について知ることができる。 自分の看護のキャリアをイメージしながら、この科目を主体的に学ぶことができる。 																											
授業内容																											
この科目は、その後に続く看護の各領域で何を学ぶ内容のオリエンテーションとしても科目である。小児看護学、母性看護学、精神看護学、成人看護学、高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、国際看護学の目的や対象および内容の大筋を理解し、基盤看護学との位置づけや統合された看護のイメージや看護職となるうえでの倫理的な課題も含めて学び、今後の学修の動機づけができる。																											
留意事項（履修条件他）																											
<ol style="list-style-type: none"> 8回の授業すべてで、レポート等の課題を出します。1回の授業は、12点満点で評価をします。1回欠席するだけで、12点を失う可能性があります。 3回欠席で失格となります。<u>この科目を失格した場合、「基礎看護学実習Ⅰ」は履修できません（学生便覧・履修の手引き p. 45）。</u>結果的に4年で卒業ができなくなる可能性が大きいです。その自覚をもって、授業に臨んでください。（20分以上の遅刻は欠席となります） 看護専門領域の基礎となる科目であるため、主体的な学修を求めます。 																											
教材																											
授業中に資料を配布する 改訂版「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程 11事例」 著者名：内藤直子他、ふくろう出版第2版・2014年：3000+税 円（第2回目授業で使用）																											
授業計画（8回）および予習・復習内容																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習内容）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代社会・医療における子どもの状況と小児看護の役割（倉田） 5/23</td> <td>現代の子どもの医療をめぐって話題となることを新聞やインターネット等で検索し、自己の意見を持って授業に臨むこと。授業中の課題レポートで評価します。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母性看護学、リプロダクティブヘルスの役割と今日的課題（内藤） 5/30</td> <td>広い意味で母性看護学を考え、今の社会的課題や看護理論や倫理などに关心を持って参加しましょう。講義後のレポートによって評価します。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>成人看護学の役割と今日的課題（柴山） 6/6</td> <td>新聞の医療に関する記事を読むように努めてください。講義後のレポートによって評価します。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高齢者看護学の学び（眞井） 6/13</td> <td>わが国の高齢者の実態について新聞や各種ニュース等の最新の情報を目を通して参加しましょう。授業中の課題レポートで評価します。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>在宅看護学の学び（山本） 6/20</td> <td>訪問看護ステーションで働く訪問看護師の役割について調べておいてください。授業中のレポートで評価します。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>地域看護学・公衆衛生看護学の学び：地域の中で行う公衆衛生看護活動（保健師活動）の目的、方法、意義（三徳） 6/27</td> <td>保健師の活動事例の情報を入手し、保健師活動と看護師活動の違いについてまとめましょう。レポートによって評価します。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>精神保健看護の役割と今日的課題（郷良） 7/4</td> <td>新聞やインターネットなどで精神保健に関連する記事に目を通して、自分なりの意見を持っておいてください。授業中のレポートで評価します。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国際看護学への招待：国際看護とは・世界のヘルスのゴール・世界のヘルスの指標（西川） 7/11</td> <td>2015年9月の国連総会で正式に採択された、持続可能な開発目標（SDGs）のヘルスに関連する事項について自分で調べてきてください。授業中のクイズによって評価します。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習内容）	1	現代社会・医療における子どもの状況と小児看護の役割（倉田） 5/23	現代の子どもの医療をめぐって話題となることを新聞やインターネット等で検索し、自己の意見を持って授業に臨むこと。授業中の課題レポートで評価します。	2	母性看護学、リプロダクティブヘルスの役割と今日的課題（内藤） 5/30	広い意味で母性看護学を考え、今の社会的課題や看護理論や倫理などに关心を持って参加しましょう。講義後のレポートによって評価します。	3	成人看護学の役割と今日的課題（柴山） 6/6	新聞の医療に関する記事を読むように努めてください。講義後のレポートによって評価します。	4	高齢者看護学の学び（眞井） 6/13	わが国の高齢者の実態について新聞や各種ニュース等の最新の情報を目を通して参加しましょう。授業中の課題レポートで評価します。	5	在宅看護学の学び（山本） 6/20	訪問看護ステーションで働く訪問看護師の役割について調べておいてください。授業中のレポートで評価します。	6	地域看護学・公衆衛生看護学の学び：地域の中で行う公衆衛生看護活動（保健師活動）の目的、方法、意義（三徳） 6/27	保健師の活動事例の情報を入手し、保健師活動と看護師活動の違いについてまとめましょう。レポートによって評価します。	7	精神保健看護の役割と今日的課題（郷良） 7/4	新聞やインターネットなどで精神保健に関連する記事に目を通して、自分なりの意見を持っておいてください。授業中のレポートで評価します。	8	国際看護学への招待：国際看護とは・世界のヘルスのゴール・世界のヘルスの指標（西川） 7/11	2015年9月の国連総会で正式に採択された、持続可能な開発目標（SDGs）のヘルスに関連する事項について自分で調べてきてください。授業中のクイズによって評価します。
回	内 容	学習課題（予習・復習内容）																									
1	現代社会・医療における子どもの状況と小児看護の役割（倉田） 5/23	現代の子どもの医療をめぐって話題となることを新聞やインターネット等で検索し、自己の意見を持って授業に臨むこと。授業中の課題レポートで評価します。																									
2	母性看護学、リプロダクティブヘルスの役割と今日的課題（内藤） 5/30	広い意味で母性看護学を考え、今の社会的課題や看護理論や倫理などに关心を持って参加しましょう。講義後のレポートによって評価します。																									
3	成人看護学の役割と今日的課題（柴山） 6/6	新聞の医療に関する記事を読むように努めてください。講義後のレポートによって評価します。																									
4	高齢者看護学の学び（眞井） 6/13	わが国の高齢者の実態について新聞や各種ニュース等の最新の情報を目を通して参加しましょう。授業中の課題レポートで評価します。																									
5	在宅看護学の学び（山本） 6/20	訪問看護ステーションで働く訪問看護師の役割について調べておいてください。授業中のレポートで評価します。																									
6	地域看護学・公衆衛生看護学の学び：地域の中で行う公衆衛生看護活動（保健師活動）の目的、方法、意義（三徳） 6/27	保健師の活動事例の情報を入手し、保健師活動と看護師活動の違いについてまとめましょう。レポートによって評価します。																									
7	精神保健看護の役割と今日的課題（郷良） 7/4	新聞やインターネットなどで精神保健に関連する記事に目を通して、自分なりの意見を持っておいてください。授業中のレポートで評価します。																									
8	国際看護学への招待：国際看護とは・世界のヘルスのゴール・世界のヘルスの指標（西川） 7/11	2015年9月の国連総会で正式に採択された、持続可能な開発目標（SDGs）のヘルスに関連する事項について自分で調べてきてください。授業中のクイズによって評価します。																									

評価方法 および評価基準

(12点×8回=96点、8回すべて出席した場合、4点の出席点を加算 合計100点満点)

授業の評価は授業中の小テストやレポート、あるいは授業終了後のレポート提出によってなされます。期末試験は行いません。

S : この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を授業の内容をもとに、十分に説明できる。各対象における倫理的な課題を説明ができる。授業に積極的に参加し、自己の課題を明確にことができる。

A : この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を授業の内容をもとに、概ね説明できる。各対象における倫理的な課題を概ね理解できる。授業に積極的に参加し、自己の課題を明確にことができる。

B : この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を、不十分ながら説明できる。各対象における倫理的な課題を学ぶことができる。授業に参加し、自己の課題を学ぶことができる。

C : この科目で学んだ看護の領域の目的や対象の概要を、学ぶことができる。各対象における倫理的な課題を知る。授業に参加し、自己の課題を不十分ながら知ることができる。

D : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0401	生活援助方法論	1年/後期	1
担当教員		科目区分	
服部美穂 篠崎恵美子		専門科目-基盤看護学	

講義目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の日常生活行動の援助に必要なケアの意義、目的、方法、留意点が理解できる。 2. 有害なものに対する防御を支援するケアの意義、目的、方法、留意点が理解できる。 3. 身体機能を支援するケアの意義、目的、方法、留意点が理解できる。 4. ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアが理解できる。 5. 心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアが理解できる。 			
授業内容			
<p>生活援助方法論では、看護学概論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識、並行して学習する看護コミュニケーション論の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の看護の基盤となる生活行動の援助にかかわる看護技術とそのエビデンスを学修する。</p> <p>具体的には、「感染予防の技術」、「安楽確保の技術」、「環境を整える技術」、「活動・休息の援助技術」、「食生活と栄養摂取の援助技術」、「排泄の援助技術」、「清潔・衣生活の援助技術」を実践するための基本的な看護介入の方法を学修する。</p>			
留意事項（履修条件他）			
<p>看護専門領域の基礎となる科目である。1年次・前期に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA）および専門科目（看護学概論Ⅰ・Ⅱ）などの知識と技術が基盤となる。また、並行して行われる生活援助方法演習では、この科目で学習した内容の演習を行うため、予習・復習が必須となる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、各授業の終わりには、確認テストを実施する。</p>			
教材			
<ul style="list-style-type: none"> 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2014、3,348円 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2014、3,348円 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2014、5,500円 			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1・2	ガイダンス 看護技術の位置づけと概要	予習：シラバス、テキスト第1部：p2～12	
3・4	感染予防の技術 感染と感染予防策の基礎知識 感染予防における看護師の責務と役割・感染源への対策 感染経路への対策	予習：テキスト第1部：p230～280 技術テキスト：p700～762、課題レポート 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）	
5	安楽確保の技術 看護における安楽の意義・安楽な体位の保持 ボディメカニクスの基本・体位変換	予習：テキスト第1部：p312～338、第2部：p106～117 技術テキスト：p150～169、216～225、課題レポート 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）	
6	環境を整える技術 環境の諸要素とその調整・病室と病床の環境調整	予習：テキスト第2部：p2～21 技術テキスト：p2～18、課題レポート 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）	
7	活動・休息の援助技術 活動と休息の意義・活動のアセスメント 運動機能の低下した人の援助	予習：テキスト第2部：p96～130 技術テキスト：p170～210、課題レポート 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）	
8	活動・休息の援助技術 睡眠の援助	予習：テキスト第2部：p130～136 技術テキスト：p211～214、課題レポート 復習：授業資料	
9 10 11	清潔・衣生活の援助技術 清潔の意義・更衣・整容・入浴・部分浴・全身清拭	予習：テキスト第2部：p138～177 技術テキスト：p234～332、課題レポート 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）	

12	食生活と栄養摂取の援助技術 食事・栄養摂取の意義としくみ 食事・栄養摂取のアセスメント 食事の援助	予習：テキスト第2部：p24～54 技術テキスト：p20～67、課題レポート 復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
14	排泄の援助技術	予習：テキスト第2部：p56～94 技術テキスト：p88～113、課題レポート
15	排泄の意義としくみ・排泄のアセスメント・排泄の援助	復習：生活援助方法演習・課題レポート（事前）
評価方法 および評価基準		
期末試験 50%、課題レポート（予習） 25%、確認テスト 25%		
S (100～90点)： 日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を十分に説明することができる。		
A (89～80点)： 日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を概ね説明することができる。		
B (79～70点)： 日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を不十分な点もあるが説明することができる。		
C (69～60点)： 日常生活行動の援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を最低限説明することができる。		
D (60点未満)： Cのレベルに達していない。		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0501	生活援助方法演習	1年/後期	2
担当教員			科目区分
服部美穂 篠崎恵美子 伊藤千晴 山口貴子 大林実菜 (栗田愛)		専門科目-基盤看護学	

講義目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の日常生活行動の援助に必要なケアの原理・原則、留意点に則って実践できる。 2. 有害なものに対する防御を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 3. 身体機能を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 4. ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 5. 心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 			
授業内容			
<p>生活援助方法演習では、看護学概論Ⅰ・Ⅱで学んだ知識、並行して学習する看護コミュニケーション論の知識を活用し、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の看護の基盤となる生活行動の援助にかかわる看護技術とそのエビデンスを学修する。</p> <p>具体的には、「感染予防の技術」、「安楽確保の技術」、「環境を整える技術」、「活動・休息の援助技術」、「食生活と栄養摂取の援助技術」、「排泄の援助技術」、「清潔・衣生活の援助技術」を実践するための基本的な看護介入の方法を学修する。</p>			
留意事項（履修条件他）			
<p>看護専門領域の基礎となり、基礎看護学実習Ⅱと直結する科目である。1年次・前期に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA）および専門科目（看護学概論Ⅰ・Ⅱ）などの知識と技術が基盤となる。事前に演習に取り組む準備と、事後のセルフトレーニングが必須となる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。本科目は実技試験の合格者を評価対象とする。</p>			
教材			
<ul style="list-style-type: none"> ・新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2014、3,348円 ・新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ：深井喜代子編集、メディカルフレンド社、2014、3,348円 ・根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2014、5,500円 			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容		学習課題（予習・復習）
1	感染予防の技術 手指衛生・個人防護具の着脱・感染性廃棄物		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
2・3	安楽確保の技術 安楽な体位の保持・体位変換	環境を整える技術 ベッドメーキング	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
4・5	環境を整える技術 臥床患者のリネン交換		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
6・7	活動・休息の援助技術 車椅子・ストレッチャー	清潔・衣生活の援助技術 足浴	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
8・9	清潔・衣生活の援助技術 足浴	清潔・衣生活の援助技術 洗髪	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
10 11 12 13 14	清潔・衣生活の援助技術 全身清拭・寝衣交換		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）

15 16	食生活と栄養摂取の援助技術 食事の援助・口腔ケア	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
17 18 19	排泄の援助技術 便尿器の援助・おむつ交換・陰部洗浄	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
20 21 22	事例への介入（グループワーク）	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
23 24 25 26 27	実技試験	予習：課題レポート（事前）、実技試験の事前練習 復習：実技試験の自己評価、課題レポート（試験後）
28	SP セッション（援助技術の練習日）	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
29 30	SP セッション	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
評価方法 および評価基準		
期末試験（実技試験） 50%、演習への取り組み 25%、課題レポート（事前・演習後） 25%		
S (100~90 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な日常生活援助を十分に実施することができる。		
A (89~80 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な日常生活援助を概ね実施することができる。		
B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った日常生活援助を実施することができる。		
C (69~60 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った日常生活援助を最低限実施することができる。		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0601	診療援助方法論	2年/前期	1
担当教員		科目区分	
山口貴子 伊藤千晴		専門科目-基盤看護学	

講義目的
<ol style="list-style-type: none"> 有害なものに対する防御を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。 身体機能を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。 恒常性調節を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。 ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアの意義、目的、方法、留意点を説明できる。 看護専門職者としての基本的姿勢と態度を説明できる。
授業内容
<p>診療援助方法論では、看護学概論Ⅰ、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習、基礎看護学実習Ⅰで学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスを学修する。</p> <p>具体的には、「生命の兆候を観察する技術」、「感染予防を推進する技術」、「検査を安全かつ正確に行う技術」、「与薬を安全かつ正確に行う技術」、「呼吸を楽にする技術」、「食事・栄養摂取を促す技術」、「排泄を促す技術」、「皮膚・創傷を管理する技術」、「体温を調節する技術」の根拠となる知識と方法を学修する。</p>

留意事項（履修条件他）
<p>看護専門領域の基礎となる科目である。1年次に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB、生化学、微生物学）および専門科目（看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習）などの知識と技術が基盤となる。また、並行して行われる診療援助方法演習では、この科目で学習した内容の演習を行うため、予習、復習（診療援助方法演習の予習がこれに相当する）が必須となる。欠席・遅刻、早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、各授業の終わりには、確認テストを実施する。</p>

教材
・ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術：志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編集、メディカ出版、2014、3,600円
・根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2014、5,500円

授業計画および学習課題（予習・復習）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、診療援助とは、記録とは</td> <td>予習：シラバス、テキスト第1部8:p173-174</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td rowspan="2">生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録</td> <td>予習：テキスト第1部3:p58-75 技術テキスト：p610-625</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>予習：テキスト第1部3:p58-75 技術テキスト：p610-625、課題レポート① 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>感染予防を推進する技術 ①滅菌と消毒 ②滅菌手袋の装着 ③無菌操作</td> <td>予習：テキスト第1部5:p98-124 技術テキスト：p724-748、課題レポート② 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td rowspan="2">検査を安全かつ正確に行う技術 ①検査時の援助 ②検体採取 ④静脈血採血</td> <td>予習：テキスト第4部18:p368-385 技術テキスト：p626-675、課題レポート③ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td rowspan="2">与薬を安全かつ正確に行う技術 ①与薬における法的根拠 ②与薬のための基礎知識 ③与薬の方法 ④服薬管理 ⑤注射</td> <td>予習：テキスト第4部19:p394-420、136-137 技術テキスト：p436-564 課題レポート④ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>中間テスト（第8回までの内容）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td rowspan="2">呼吸を楽にする技術 ①呼吸のアセスメント ③肺理学療法 ④吸入療法 ⑤口・鼻腔内吸引 ⑥気管内吸引</td> <td>予習：テキスト第3部15:p318-331 技術テキスト：p344-381、課題レポート⑤ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>食事・栄養摂取を促す技術 ①栄養状態のアセスメント ②経管栄養法 ③中心静脈栄養法</td> <td>予習：テキスト第2部13:p262-287 技術テキスト：p20-86、課題レポート⑥ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）</td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	ガイダンス、診療援助とは、記録とは	予習：シラバス、テキスト第1部8:p173-174	2	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録	予習：テキスト第1部3:p58-75 技術テキスト：p610-625	3	予習：テキスト第1部3:p58-75 技術テキスト：p610-625、課題レポート① 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）	4	感染予防を推進する技術 ①滅菌と消毒 ②滅菌手袋の装着 ③無菌操作	予習：テキスト第1部5:p98-124 技術テキスト：p724-748、課題レポート② 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）	5	検査を安全かつ正確に行う技術 ①検査時の援助 ②検体採取 ④静脈血採血	予習：テキスト第4部18:p368-385 技術テキスト：p626-675、課題レポート③ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）	6		7	与薬を安全かつ正確に行う技術 ①与薬における法的根拠 ②与薬のための基礎知識 ③与薬の方法 ④服薬管理 ⑤注射	予習：テキスト第4部19:p394-420、136-137 技術テキスト：p436-564 課題レポート④ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）	8		9	中間テスト（第8回までの内容）		10	呼吸を楽にする技術 ①呼吸のアセスメント ③肺理学療法 ④吸入療法 ⑤口・鼻腔内吸引 ⑥気管内吸引	予習：テキスト第3部15:p318-331 技術テキスト：p344-381、課題レポート⑤ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）	11		12	食事・栄養摂取を促す技術 ①栄養状態のアセスメント ②経管栄養法 ③中心静脈栄養法	予習：テキスト第2部13:p262-287 技術テキスト：p20-86、課題レポート⑥ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
回	内 容	学習課題（予習・復習）																																	
1	ガイダンス、診療援助とは、記録とは	予習：シラバス、テキスト第1部8:p173-174																																	
2	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録	予習：テキスト第1部3:p58-75 技術テキスト：p610-625																																	
3		予習：テキスト第1部3:p58-75 技術テキスト：p610-625、課題レポート① 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）																																	
4	感染予防を推進する技術 ①滅菌と消毒 ②滅菌手袋の装着 ③無菌操作	予習：テキスト第1部5:p98-124 技術テキスト：p724-748、課題レポート② 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）																																	
5	検査を安全かつ正確に行う技術 ①検査時の援助 ②検体採取 ④静脈血採血	予習：テキスト第4部18:p368-385 技術テキスト：p626-675、課題レポート③ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）																																	
6																																			
7	与薬を安全かつ正確に行う技術 ①与薬における法的根拠 ②与薬のための基礎知識 ③与薬の方法 ④服薬管理 ⑤注射	予習：テキスト第4部19:p394-420、136-137 技術テキスト：p436-564 課題レポート④ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）																																	
8																																			
9	中間テスト（第8回までの内容）																																		
10	呼吸を楽にする技術 ①呼吸のアセスメント ③肺理学療法 ④吸入療法 ⑤口・鼻腔内吸引 ⑥気管内吸引	予習：テキスト第3部15:p318-331 技術テキスト：p344-381、課題レポート⑤ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）																																	
11																																			
12	食事・栄養摂取を促す技術 ①栄養状態のアセスメント ②経管栄養法 ③中心静脈栄養法	予習：テキスト第2部13:p262-287 技術テキスト：p20-86、課題レポート⑥ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）																																	

13	排泄を促す技術 ①排泄の障害 ②自然な排泄を促す援助 ②浣腸・摘便 ③導尿	予習：テキスト第2部14：p290-316 技術テキスト：p88-135、課題レポート⑦ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）
14	皮膚・創傷を管理する技術 ①創傷の治癒過程 ②創傷管理 ③褥瘡のケア	予習：テキスト第4部20：p422-436 技術テキスト：p404-434、課題レポート⑧
15	体温を調節する技術 ①体温の恒常性、②温罨法・冷罨法	予習：テキスト第4部16：p338-349 技術テキスト：p226-232、課題レポート⑨ 復習：診療援助方法演習・課題レポート（事前）

評価方法 および評価基準

期末試験 50%、課題レポート（予習） 20%、確認テスト 20%、中間テスト 10%

S (100~90点)： 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を十分に説明することができる。

A (89~80点)： 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を概ね説明することができる。

B (79~70点)： 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を不十分な点もあるが説明することができる。

C (69~60点)： 診療援助に必要な基礎知識、ケアの目的、方法、留意点を最低限説明することができる。

D (60点未満)： Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0701	診療援助方法演習	2年/前期	2
担当教員			科目区分
山口貴子 伊藤千晴 篠崎恵美子 服部美穂 大林実菜 (栗田愛)		専門科目	基盤看護学

講義目的			
<ol style="list-style-type: none"> 有害なものに対する防御を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 身体機能を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 恒常性調節を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 ヘルスケア供給システムの有効な利用を支援するケアの原理・原則、留意点に則って実施できる。 看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施できる。 			
授業内容			
<p>診療援助方法論では、看護学概論Ⅰ、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習、基礎看護学実習Ⅰで学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において、さまざまな健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスを学修する。</p> <p>具体的には、「生命の兆候を観察する技術」、「感染予防を推進する技術」、「検査を安全かつ正確に行う技術」、「与薬を安全かつ正確に行う技術」、「呼吸を楽にする技術」、「食事・栄養摂取を促す技術」、「排泄を促す技術」、「体温を調節する技術」を実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。</p>			
留意事項（履修条件他）			
<p>看護専門領域の基礎となる科目である。1年次に学修した専門基礎科目（解剖生理学ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB、生化学、微生物学）および専門科目（看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論、生活援助方法演習）などの知識と技術が基盤となる。事前に演習に取り組む準備と、事後のセルフトレーニングが必須となる。欠席・遅刻、早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。実技試験の受験資格は、血圧測定テスト合格者とする。本科目は実技試験の合格者を評価対象とする。</p>			
教材			
<ul style="list-style-type: none"> ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術：志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕編集、メディカ出版、2014、3,600円 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：任和子、秋山智弥編集、医学書院、2014、5,500円 			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容		学習課題（予習・復習）
1	生命の兆候を観察する技術		予習：課題レポート（事前）
2	①バイタルサイン		復習：課題レポート（演習後）
3	②血圧測定テスト	③一般状態の観察・記録	予習：課題レポート（事前）
4	③一般状態の観察・記録	②血圧測定テスト	復習：課題レポート（演習後）
5	感染予防を推進する技術		予習：課題レポート（事前）
6	①滅菌手袋の装着 ②無菌操作		復習：課題レポート（演習後）
7	検査を安全かつ正確に行う技術		予習：課題レポート（事前）
8	①静脈血採血		復習：課題レポート（演習後）
9			
10	与薬を安全かつ正確に行う技術		予習：課題レポート（事前）
11	①皮下・筋肉内注射		復習：課題レポート（演習後）
12			
13	与薬を安全かつ正確に行う技術		予習：課題レポート（事前）
14	②点滴静脈内注射		復習：課題レポート（演習後）
15	呼吸を楽にする技術		予習：課題レポート（事前）
	①肺理学療法 ②吸入療法		復習：課題レポート（演習後）
16	食事・栄養摂取を促す技術	呼吸を楽にする技術	予習：課題レポート（事前）
	①経管栄養法	③口鼻腔・気管内吸引	復習：課題レポート（演習後）

17	呼吸を楽にする技術 ③口鼻腔・気管内吸引	食事・栄養摂取を促す技術 ①経管栄養法	予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
18 19 20	排泄を促す技術 ①導尿		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
21 22	排泄を促す技術 ②浣腸・摘便		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
23	体温を調節する技術 ①温罨法 ②冷罨法		予習：課題レポート（事前） 復習：課題レポート（演習後）
24 25 26 27 28	実技試験		実技試験の事前練習
29 30	実技試験フィードバック まとめ		実技試験の自己評価
評価方法 および評価基準			
期末試験（実技試験） 50%、演習への取り組み 25%、 課題レポート（事前・演習後） 25%			
S (100~90 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な診療援助を十分に実施することができる。 また、看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施できる。			
A (89~80 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った安全・安楽な診療援助を概ね実施することができる。 また、看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施できる。			
B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った診療援助を実施することができる。 また、看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施する努力ができる。			
C (69~60 点) : ケアの原理・原則を理解し、留意点に則った診療援助を最低限実施することができる。また、看護専門職者としての基本的姿勢と態度で実施する努力ができる。			
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない			

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BH0801	看護コミュニケーション論	1年/後期	1
	担当教員	科目区分	
篠崎恵美子	専門科目-基盤看護学		

講義目的	
1. 看護の専門家としてなぜコミュニケーションが求められるのかを理解し、良好なコミュニケーションに必要な技法について学ぶ。	
2. 看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法を、ロールプレイ・模擬患者とのセッションを通じて理解する。	
これらの学修を通して、患者中心の看護に必要な解釈モデルを聞くことの重要性を理解し、看護師に求められる基本的な態度を培うことを目的とする。	
授業内容	
看護コミュニケーション論の学習は、【看護専門家としの対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法】から構成される。	
これらのコミュニケーション技法・面接技法や解釈モデルを聞くことの重要性を学修するために、講義だけではなく、学生間のロールプレイや模擬患者とのセッションを通して、看護師に求められる態度を培う。	
留意事項（履修条件他）	
看護専門領域の基礎となる科目であり、基礎看護学実習、生活援助方法論、生活援助方法演習などの科目と直結する科目になる。また模擬患者とのセッションなどの演習も含まれている。積極的に受講することが条件となる。	
教材	
・看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング：篠崎恵美子、藤井徹也著 医学書院、2015、1,944円	
授業計画および学習課題（予習・復習）	
回	内 容
1	コミュニケーションとは
2	コミュニケーションの種類
3	コミュニケーションに影響するもの
4	医療（看護）におけるコミュニケーション 良好なコミュニケーションに必要な技法
5	良好なコミュニケーションに必要な技法 －質問技法、積極的傾聴と共感
6	ロールプレイ
7	良好なコミュニケーションに必要な技法 －関係構築技法
8	看護面接のプロセスの13STEP
9	看護コミュニケーション技法 <u>模擬患者とのセッション</u>
10	看護コミュニケーション技法 <u>模擬患者とのセッション</u>
11	看護コミュニケーション技法 <u>模擬患者とのセッション</u>
12	看護コミュニケーション技法の振り返り
13	看護コミュニケーション技法 <u>模擬患者とのセッション</u>
14	看護コミュニケーション技法 <u>模擬患者とのセッション</u>
15	良好な患者－看護師関係を構築するための看護コミュニケーション

評価方法 および評価基準

期末試験 50%、確認テスト 25%、模擬患者セッションへ参加状況および課題レポート 25%

- S (100~90 点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法について十分に説明でき、模擬患者とのセッション時に誠実に取り組むことができる
- A (89~80 点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および面接技法について概ね説明でき、模擬患者とのセッションに誠実に取り組むことができる
- B (79~70 点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および面接技法について、不十分な点もあるが説明でき、模擬患者に対し、誠実に対応できる
- C (69~60 点) : 看護に求められるコミュニケーション技法および面接技法について考えることができ、模擬患者に対し、誠実に対応しようと努力できる
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BI0101	小児看護学概論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
倉田節子		専門科目-発達看護学-小児看護学	

講義目的		
小児看護の理念を踏まえ、絶えず成長発達している小児各期の特徴を学び、小児を取り巻く環境と、それらが小児の生活や健康に与える影響について理解する。また、小児看護の対象である小児とその家族への支援について理解し、小児の最善の利益を守るための小児看護の役割について学ぶことを目的とする。		
【到達目標】		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児と家族のおかれた環境を理解し、小児看護の理念と役割を理解する。 2. 小児各期の成長・発達の特徴と生活を理解することができる。 3. 小児と家族への支援・アプローチの基本を理解する。 		
授業内容		
現在の小児と家族がおかかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について学ぶ。小児の成長・発達の基本的知識を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について理解できる。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解することができる。		
留意事項（履修条件他）		
受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	小児看護の理念と特徴	概論第1章Aを熟読してくる。授業後は章末ゼミナール①をノートにまとめる。
2	小児看護の変遷	概論第1章C, Eを熟読してくる。授業後は現代医療の中の小児看護の課題、育児支援について考えノートにまとめる。
3	小児看護における倫理	概論第1章Dを熟読し、子どもに関する倫理的問題の事例を収集する（新聞等）。授業後は、子どもへの説明と同意のあり方についてノートにまとめる。
4	小児と家族を取り巻く社会環境	概論第1章Bおよび第8章Aを熟読してくる。授業後は第1章末ゼミナール②③⑤をノートにまとめる。
5	小児の成長と発達（1）成長・発達とは、発達の原則、発達に影響する因子	概論第2章A, Bを熟読してくる。授業後は章末ゼミナール①をノートにまとめる。
6	小児の成長と発達（2）成長・発達の評価方法	概論第2章C, D, Eを熟読してくる。授業後は章末ゼミナール②④をノートにまとめる。（③は技術演習で行う）
7	小児の栄養	概論第3章を熟読してくる。授業後は章末ゼミナール①②③④および第4章末ゼミナール②④をノートにまとめる。
8	小児各期の特徴と生活<新生児期・乳児期>	概論第4章を熟読してくる。授業後は新生児・乳児期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。5~7回の小テスト。
9	小児各期の特徴と生活<幼児期>	概論第5章Aを熟読してくる。授業後は幼児期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
10	小児各期の特徴と生活<学童期>	概論第5章Bを熟読してくる。授業後は学童期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
11	小児各期の特徴と生活<思春期・青年期>	概論第6章を熟読してくる。授業後は思春期・青年期の成長・発達について身体的・精神的・社会的側面の特徴をノートに整理する。章末ゼミナールについて考える。
12	小児の健康増進と疾病予防（乳幼児健康診査、予防接種など）	概論第8章B, C, D, E, F, Gを熟読してくる。授業後は母子保健事業と予防接種についてノートに整理する。8~11回の小テスト。
13	小児の健康増進と家族への支援について（虐待防止など）	概論第7・8章を熟読してくる。授業後は各章末ゼミナールについて考える。

14	小児に起こりやすい事故とその予防	各論第19章を熟読してくる。授業後は章末ゼミナールをノートにまとめる。
15	小児看護の役割と課題	これまでの授業を通して、現代社会において小児の最善の利益を守るために小児看護の役割について、自己の考えを明確にする。課題レポート

評価方法 および評価基準

期末試験 60%、小テストおよび課題レポート 25%、授業参加度 15%

- S (100~90点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について十分理解し、小児看護の役割について考えることができる。
- A (89~80点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について概ね理解し、小児看護の役割について考えることができる。
- B (79~70点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について不十分な点もあるが理解し、小児看護の役割について考えることができる。
- C (69~60点) : 小児各期の成長発達と生活の特徴、小児とその家族を取り巻く環境について理解しようと努力し、小児看護の役割について考えようとする姿勢がある。
- D (60点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BI0201	小児看護援助論 I	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
倉田節子 深谷久子		専門科目-発達看護学-小児看護学	

講義目的			
小児は常に成長・発達過程にあることを踏まえ、さまざまな健康問題をもつ小児とその家族の状況をとらえ、科学的根拠に基づいた看護の方法を学ぶことを目的とする。			
1. 病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護が理解できる。 2. さまざまな状況や疾病経過における小児と家族への看護が理解できる。			
授業内容			
小児の心身の健康問題が小児とその家族に与える影響について考え、健康問題をもつ小児のニーズを把握し、適切な看護の方法について理解する。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族への看護について基礎的な知識を修得できるようにする。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。			
留意事項（履修条件他）			
小児看護学概論を履修し単位を取得していること。受験資格は、本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。			
教材			
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 医学書院 2015年 2800円税 奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 医学書院 2015年 3300円税			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	病気や入院が小児に与える影響とその看護（倉田節子）	総論第1章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナールをノートにまとめる。	
2	病気・障害をもつ小児と家族への看護（深谷久子）	総論第7章・8章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナールをノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）	
3	さまざまな療養環境にある小児と家族への看護（外来、入院、在宅）（深谷久子）	総論第2章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナールをノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）	
4	さまざまな症状をもつ小児と家族への看護（深谷久子）	総論第5章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナールをノートにまとめる。	
5	治療・処置を受ける小児と家族への看護、プレバレーション（深谷久子）	総論第6章を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナールをノートにまとめる。	
6	疾病の経過による小児と家族への看護（急性期）（深谷久子）	総論第3章（急性期・周手術期）を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナール③④⑤をノートにまとめる。課題レポート（授業内で実施）	
7	疾病の経過による小児と家族への看護（慢性期、成人移行期）（倉田節子）	総論第3章（慢性期）を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナール①②をノートにまとめる。	
8	疾病の経過による小児と家族への看護（終末期）（深谷久子）	総論第3章（終末期）を熟読して授業に臨む。授業後は、章末ゼミナール⑥をノートにまとめる。 課題レポート（授業内で実施）	
評価方法 および評価基準			
期末試験 70%（倉田 20%、深谷 50%）、課題レポートまたは小テスト 20%（倉田 10%、深谷 10%）、 授業への参加度等 10%			
S (100~90点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について十分説明できる。			
A (89~80点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について概ね説明できる。			
B (79~70点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について不十分な点もあるが、説明できる。			
C (69~60点) : 病気・障害や入院が小児と家族に与える影響およびさまざまな状況や疾病経過における看護について説明できるよう努力している。			
D (60点未満) : Cのレベルに達していない			

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BI2101	母性看護学概論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
内藤直子		専門科目-発達看護学-母性看護学	

講義目的		
<p>学生は人間のライフサイクルで性科学を理解し考えながら学習する。生殖期間の妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心に、基礎と健康問題のアセスメント・看護計画・実施・評価をwellness型思考で看護実践できるロイ適応看護モデルの方法論と母性看護の基本概念を理解して述べられるよう学ぶ。さらに妊婦の日常生活ケアの必要性がクリティカルに理解できるようグループ討議を行う。また、対象の社会的変遷と国際化社会での看護のあり方がクリティカルに理解できるよう学習する。</p>		
授業内容		
<p>学生は性科学とその哲学を学び、人間のライフサイクルから、自己の性ホルモン変化を理解し適切な行動ができる基礎知識が学べる。授業形態は体験学習ではBBT測定及び書籍やPC視聴覚で一斉講義やPBL学習の展開で自主的学習態度を培う。また適時資料・ビデオ教材を活用する。</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>女子学生は3回目の講義までに、BBT体温計とメモリー表を準備し持参する。男子学生は、不用で、後日に課題を提示する</p> <p>教材体験：女子学生は基礎体温計〔1,000円程度〕と記録小冊子（500円程度）を準備、電子基礎体温計でパソコン管理の場合は印刷提出でも可能。個人情報は守られる。</p>		
教材		
<ol style="list-style-type: none"> 母性看護学概論・1, 系統看護学講座, 森恵美他, 医学書院 「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」(改訂版), 内藤直子他, ふくろう出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本、横尾京子他、2016 第4版 3,800+税、メディア出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 横尾京子他、2016 第3版 2,600+税、メディア出版 他は適時に提示する 		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	母性看護の概念： 親になること、母子関係、母子相互作用と家族発達	各自の母性性や父性性を考えてみよう。
2	母性の発達・成熟・継承：女性性と男性性、母性・父性 母親になることの発達危機の問題、愛着理論	予習と復習：母性で用いる理論を調べてみよう。
3	母性看護の対象と社会的変遷：歴史、環境、生命倫理、胎児の擁護、家族計画とは・基礎体温測定体験と人工妊娠中絶	生命誕生と生命倫理を考えて講義を受けよう。 BBT体温計とメモリー表を準備し持参しよう。 男子学生は不用で、後日に課題を提示する。
4	妊婦の生理的変化とホルモンの変化の理解 1)	予習と復習：性ホルモンを調べ、講義後にミニテストを受けよう。
5	母性看護の組織と法律：母子保健統計の動向・リプロダクティブルヘルスケア	予習と復習：関連法規や統計の意味をよく理解しよう
6	国際化時代の多様なお産文化、国際化社会と看護：エンパワーメント	予習と復習：国際社会でのお産文化を学ぼう
7	国際化時代の多様なお産文化、国際化社会と看護：エンパワーメント	予習と復習：グローバルなお産文化と日本で生命倫理を考えよう
8	母性看護の対象理解：女性のライフサイクルの形態・機能、女性のライフステージ各期・女性の健康と特徴と看護思春期 成熟期、更年期、老年期	予習と復習：テキストの関連する項目を読んで講義を受けよう。
9	PBL学習とミニレポート： ① ヘルスプロモーション健康教育・保健指導、 ② 自己効力感、③家族適応を促すストレス緩和、 ③ 働く女性の健康と看護；飲酒・タバコと女性	予習と復習：テキストの関連項目をよく読み、WGW後に、ミニレポートを提出しよう。

10	PBL 学習とミニレポート： ④ 性感染症予防・HIV 感染の妊産婦ケア、 ⑤ 不妊カップル、⑥障害児、⑦出生前診断の社会支援、 ⑧性暴力を受けた女性と児童虐待の看護	予習と復習：テキストの関連項目をよく読み、WGN 後に、ミニレポートを提出しよう。
11	母性で有用な理論：ロイ適応看護モデルの自己概念 カルガリーファミリー看護モデル マタニティサイクルの人と家族看護	予習と復習：母性で用いる理論を調べてみよう。 講義後にミニテストを受けよう。
12	妊婦の生理的変化とホルモンの変化の理解 2)	予習と復習：テキストの関連する項目を読んで講義を受けよう。
13	妊婦の日常生活ケア	予習と復習：テキストの関連する項目を読んで講義を受けよう。
14	妊婦の不快症状とリスク・流産早産看護ケア	男女学生は、BBT レポートと課題レポートを提出
15	母性看護学の特徴・まとめ	BBT レポートの個別指導、レポート返却
評価方法 および評価基準		
期末試験 75%、ミニテスト 2 回とミニレポート 2 回で 12%、BBT レポートまたは課題レポート 13%、合計 100%		
S (100~90 点) : 母性看護の基本概念を習得して、対象の社会的変遷と看護のあり方を理解することができる。		
A (89~80 点) : 生育期間の妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心に、基礎と健康問題のアセスメント・看護計画・実施・評価を wellness 型思考で看護実践できるロイ適応看護モデルの方法論を述べることができる		
B (79~70 点) : 母性看護の基本概念を習得し国際化社会での看護のあり方を理解することができる。		
C (69~60 点) : 現代社会で、人間のライフサイクルや性科学と性の多様性を考えることができる。		
D (60 点未満) : C のレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BI2201	母性看護援助論 I	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
杉下佳文 藏本直子 星貴江		専門科目-発達看護学-母性看護学	

講義目的			
対象の健康レベルを <i>wellness</i> な視点でアセスメントし、健康ニーズを充足する援助能力を身につけ、周産期の女性及び胎児・新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解できる。対象の健康レベルのアセスメント能力と、看護実践を支える基本技術と日常生活適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の適切な援助に向け妊娠期・分娩期の女性にクリティカルな援助技法を理解できる。			
授業内容			
講義は、デモンストレーションやPBL学習など学生間でも討議する。学生が内在化する母性観父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点を醸成する。演習は臨床看護実践に必要な基本的技術の習得に個別指導を導入し、シミュレーションモデル人形、ビデオ教材、保健指導媒体を教材として用いて学習し、理解を深める。			
留意事項（履修条件他）			
授業時間外学習では、充分な予習と復習をして、母性看護の基本的援助技術の習得と演習レポートを完成させるよう努力することを期待する。履修者は、講義および演習を積極的に受講することが条件である。			
教材			
書名：1. 「母性看護学各論(2)：系統看護学講座」 著者名： 森恵美他、医学書院 第12版・2013：(2,900+税) 円 書名：2. 「看護実践のための根拠がわかる母性看護技術」 著者名： 北川眞理子他、メジカルフレンド社・2015：(3,200+税) 円			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	妊娠期の異常① ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症（藏本）	母性看護学概論の主に妊娠期の生理等の復習をして受講し、妊娠期の正常と異常の違いを理解する	
2	妊娠期の異常② 妊娠疾患、ハイリスク妊婦の看護（藏本）	教材1.の第6章Aを予習して受講し、講義で重要ポイントを整理し、ハイリスク妊婦の看護を学ぶ	
3	分娩期における看護① 分娩の要素、分娩の経過、産婦・胎児、家族のアセスメント（杉下）	教材1.の第3章AとBを予習した上で受講し、分娩の要素および分娩の経過を理解する	
4	分娩期における看護② 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際（杉下）	3講の産婦・胎児、家族のアセスメントの箇所を復習して受講し、胎児を含めた産婦と家族への看護を学ぶ	
5	分娩期における看護③ 分娩の異常、異常のある産婦の看護（杉下）	正常な分娩について復習して受講し、分娩期の正常と異常を理解する。ハイリスク産婦の看護を学ぶ	
6	妊婦ケア技術演習① 子宮底測定法・レオポルド触診法（杉下、藏本、星）	子宮底測定やレオポルド触診法の意義を理解し、基本的な方法がモデル人形で実践できる。さらには、演習前後における自己学習で本ケア技術を修得する。	
7	妊婦ケア技術演習② 児心音聴取・CTG装着法（杉下、藏本、星）	児心音聴取やCTG装着の意義を理解し、基本的な方法がモデル人形で実践できる。さらには、演習前後における自己学習で本ケア技術を修得する。	
8	妊婦ケア技術演習③ 妊婦体験・妊婦体操（杉下、藏本、星）	妊婦体験を通して、対象の理解ができる。妊婦体操の意義を理解し、基本的な方法がモデル人形で実践できる。	
評価方法 および評価基準			
1. 授業および演習の参加状況(20%) 2. 課題レポート提出と内容(20%) 3. 期末筆記試験(60%) 以上の総合評価			
S (100~90点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントを充分に理解し、看護について説明することができる。胎児を含めた妊婦のフィジカルアセスメントに必要な看護技術を積極的に習得することができる。			
A (89~80点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントを概ね理解し、看護について説明することができる。胎児を含めた妊婦のフィジカルアセスメントに必要な看護技術を積極的に習得することができる。			
B (79~70点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントについて重要な点は理解し、看護について説明することができる。胎児を含めた妊婦のフィジカルアセスメントに必要な看護技術を積極的に習得しようと努力している			
C (69~60点) : 対象の心身における健康レベルのアセスメントの一部は理解し、看護について考えることができる。胎児を含めた妊婦のフィジカルアセスメントに必要な看護技術を習得しようと努力している			
D (60点未満) : Cのレベルに達していない			

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BJ0101	成人看護学概論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
柴山健三 加藤亜妃子		専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学	

講義目的			
1) 成人各期の発達段階を理解し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を理解できる。 2) 日本の成人保健の動向を理解し、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。 3) 急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）を理解できる。 4) 日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解できる。 5) 慢性的な病気を持つ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、慢性期にある患者の看護援助に必要な概念や理論を理解できる。 6) 慢性的な病気を持つ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義とその方法を考察することができる。 7) 成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解することができる。			
授業内容			
成人各期の発達段階を解説し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学習する。日本の成人保健の動向を知り、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を、基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて習得する。急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）および日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解することができる。 慢性的な病気を持つ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、看護援助に必要な概念や理論（ヘルスプロモーション、アンドラゴジー・モデル、自己効力理論、変化のステージモデル等）について学習する。また、慢性的な病気を持つ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察できる。さらに、成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解することができる。			
留意事項（履修条件他）			
教材			
成人看護学：成人看護学概論 第2版、大西和子、岡部聰子 編、ヌーベルヒロカワ、平成21年、2,200+税円 系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版、山勢博彰、山勢善江 他、医学書院・平成25年、2,500+税円			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	成人期にある人々の理解 1 (柴山) 1) 成人看護学の概念、目的・役割 2) 成人各期の身体的・精神的・社会的特徴 3) 生活と健康（ライフサイクル、成長発達と発達課題） 4) 家族・社会的役割 5) 成人期にある人々の健康レベル（急性期、慢性期・リハビリテーション期、ターミナル期）、急性期と周手術期	『成人看護学：成人看護学概論』の第IとII章の熟読。	
2	成人期にある人々の理解 2 (柴山) 1) 成人保健として人口静態、人口動態（主要疾患別死因）、平均余命などの理解	資料の熟読	
3	成人期にある人々の理解 3 (柴山) 1) 成人保健として有訴率、受療率、生活習慣病への罹患率などの理解 2) 成人保健として健診受診率などの理解	資料の熟読	
4	急性期の理解と特徴 1 (柴山) 1) 成人期に発症する急性期疾患（生活習慣病、職業病、ストレス関連疾患など）とヘルスプロモーション 2) 周手術期看護の概念 3) 急性期にある患者およびその家族の身体的・心理的特徴	『成人看護学：成人看護学概論』の第IIIとV章の熟読。	
5	急性期の理解と特徴 2 (柴山) 1) 急性期で使用される理論・モデル（生体侵襲理論、悲嘆、危機理論、コーピング）	『成人看護学：成人看護学概論』の第VI章の熟読。	

6	急性期の理解と特徴3 (柴山) 1) 急性期にある患者の看護援助に必要な概念 (権利擁護, インフォームドコンセント)	『成人看護学：成人看護学概論』の第IV章の熟読。
7	日本の救急医療 (柴山) 1) 歴史・体制および救急患者の特徴 2) 救急看護の役割、倫理的課題	『系統看護学講座 別巻 救急看護学』の1, 2, 3章の熟読。
8	成人看護学急性期看護のまとめ (柴山)	
9	慢性期の理解と特徴1 (加藤) 1) 慢性期にある人およびその家族の身体的・心理的特徴 2) 病気からの回復過程 (リハビリテーション) にある人の特徴と看護 (障害受容を含む)	『成人看護学：成人看護学概論』第V章3.4を読んでおくこと。
10	慢性期の理解と特徴2 (加藤) 健康促進と成人教育で活用できる理論 (ヘルスプロモーション、アンダラゴジー・モデルを含む)	『成人看護学：成人看護学概論』第IIIとV章2、IV章10、13を読んでおくこと。
11	慢性期の理解と特徴3 (加藤) 成人教育と健康行動理論 (自己効力理論、変化のステージモデル等)	『成人看護学：成人看護学概論』第IV章5～9を読んでおくこと。
12	慢性期の理解と特徴4 (加藤) 慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への特徴と看護 (病みの奇跡の概念を含む)	『成人看護学：成人看護学概論』第VI章14を読んでおくこと。
13	慢性期の理解と特徴5 (加藤) 人生の最期のときを支える看護 (緩和ケアおよびターミナルケアの概念・歴史、倫理的問題)	『成人看護学：成人看護学概論』第IV章、第V章4、5を読んでおくこと。
14	医療システムと成人看護 (加藤) (チーム医療、外来看護、退院調整、在宅緩和ケア)	配布資料を読んでおくこと。
15	慢性期にある人への看護まとめ (加藤)	配布資料を読んでおくこと。

評価方法 および評価基準

期末試験 (筆記試験) 90%、授業態度 10%の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

(筆記試験 90%の内訳は急性期教員担当分 45%、慢性期教員担当分 45%とする。)

S (100～90 点) : 充分に理解している。

A (89～80 点) : 理解している。

B (79～70 点) : 概ね理解している。

C (69～60 点) : 概ね理解されているが、復習に努めること。

D (60 点未満) : C のレベルに達していない。

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BJ0201	急性期看護援助論Ⅰ	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
柴山健三		専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学	

講義目的					
1) 術前から術後にかけての看護が理解できる。 2) 生命維持、二次障害予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する急性期・周手術期看護が理解できる。 3) 周手術患者の周手術期看護過程展開論が理解できる。 4) 急性循環不全患者、脳血管障害および頭部外傷による意識障害患者、呼吸不全患者および多臓器不全患者への看護が理解できる。					
授業内容					
周手術期およびクリティカルな状態にある成人期患者の特徴と身体的・心理的・社会的側面を学修し、術前から術後にかけての看護、生命維持、二次障害予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する急性期・周手術期看護について理解できる。具体的には、周手術患者の周手術期看護過程展開論、急性循環不全患者、脳血管障害および頭部外傷による意識障害患者、呼吸不全患者および多臓器不全患者への看護を学修する。					
留意事項（履修条件他）					
第1回講義時に課題を説明する。課題の提出は必修である。					
教材					
ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護、中島恵美子、山崎智子、竹内佐智恵 編、メディカ出版・平成25年、3,600+税 円 系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版、山勢博彰、山勢善江 他、医学書院・平成25年、2,500+税 円(成人看護学概論で購入) 写真でわかる臨床看護技術1、本庄恵子ら 監修、インター・メディカ・2012年、2,700+税 円 写真でわかる臨床看護技術2、本庄恵子ら 監修、インター・メディカ・2012年、2,700+税 円					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	周手術期看護 1 術前の看護	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第1部と第2部の3の熟読			
2	周手術期看護 2 術中の看護	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第2部の4の熟読			
3	周手術期看護 3 術後の看護（術直後）	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第2部の5の熟読			
4	周手術期看護 4 術後の看護（術後回復期、退院後）	ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤周手術期看護の第2部の6の熟読			
5	急性期（生命危機）患者への看護 1 急性循環不全（ショック）患者への看護	系統看護学講座 別巻 救急看護学の第4章の熟読			
6	急性期（生命危機）患者への看護 2 呼吸不全、多臓器不全患者への看護	系統看護学講座 別巻 救急看護学の第5章の熟読			
7	急性期（生命危機）患者への看護 3 意識障害（脳血管障害・頭部外傷）患者への看護	系統看護学講座 別巻 救急看護学の第6と7章の熟読			
8	まとめ				
評価方法 および評価基準					
期末試験（筆記試験）80%、課題レポート10%、授業態度10%の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。					
S(100~90点) : 充分に理解している。					
A(89~80点) : 理解している。					
B(79~70点) : 概ね理解している。					
C(69~60点) : 概ね理解されているが、復習に努めること。					
D(60点未満) : Cのレベルに達していない					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BJ0401	慢性期看護援助論 I	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
加藤亜妃子		専門科目-成人・高齢者看護学-成人看護学	

講義目的		
<ol style="list-style-type: none"> 慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴を理解する。 代表的な慢性疾患を持つ患者の特徴を理解する。 代表的な慢性疾患を持つ患者への看護を行うために必要な情報やアセスメントの視点を理解する。 代表的な慢性疾患を持つ患者への看護について理解する。 		
授業内容		
<p>慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護について理解する。特に、成人期の代表的な疾患を持つ患者の特徴や成人の看護について理解する。具体的には、慢性の呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害、運動機能障害に分けて、なかでも罹患者数が多い疾患をとりあげ、疾病の特徴と患者の特徴や看護を行うために必要な情報やアセスメントの視点、看護について理解し、慢性期看護の必要性について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／8回)</p> <p>(加藤亜妃子／4回)</p> <p>慢性期看護の考え方、慢性期にある患者の特徴と看護の役割、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害を持つ患者の看護</p> <p>(未定／4回)</p> <p>呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、運動機能障害を持つ患者の看護</p>		
留意事項（履修条件他）		
<p>授業の前日までに、教科書の該当箇所を読み、解剖生理や疾患についてこれまでの関連する科目的授業の資料等で復習をして、授業に参加すること。</p>		
教材		
<p>成人看護学 慢性期看護論 第3版、著者名：鈴木志津恵、藤田佐和編集、出版社・出版年：ヌーヴェルヒロカワ・2014、価格：2,600円+税</p>		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	慢性期看護の考え方、慢性期にある患者の特徴と看護の役割（加藤）	『成人看護学：慢性期看護論』第I、II章を読んでおくこと。
2	慢性の呼吸機能障害を持つ患者への看護（未定）	『成人看護学：慢性期看護論』第IV章を読んでおくこと。
3	慢性の循環機能障害を持つ患者への看護（未定）	『成人看護学：慢性期看護論』第V章を読んでおくこと。
4	慢性の脳・神経機能障害を持つ患者への看護（未定）	『成人看護学：慢性期看護論』第VI章を読んでおくこと。
5	慢性の栄養摂取・消化機能障害を持つ患者への看護（加藤）	『成人看護学：慢性期看護論』第VII章を読んでおくこと。 配布資料の課題を
6	慢性の代謝機能障害を持つ患者への看護（加藤）	『成人看護学：慢性期看護論』第VIII章を読んでおくこと。
7	慢性の内部環境調節障害を持つ患者への看護（加藤）	『成人看護学：慢性期看護論』第IX章を読んでおくこと。
8	慢性の運動機能障害を持つ患者への看護 まとめ（未定）	『成人看護学：慢性期看護論』第XII章を読んでおくこと。
評価方法 および評価基準		
<p>筆記試験 80%、課題レポート 10%、授業態度 10%の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>S (100~90 点) : 慢性の疾患を持つ患者への看護について十分に理解できている。</p> <p>A (89~80 点) : 慢性の疾患を持つ患者への看護について概ね理解できている。</p> <p>B (79~70 点) : 慢性の疾患を持つ患者への看護について、不十分な点もあるが理解できている。</p> <p>C (69~60 点) : 慢性の疾患を持つ患者への看護について理解しているが、復習に努める必要がある。</p> <p>D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。</p>		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BJ2101	高齢者看護学概論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
臼井キミカ 安藤純子		専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学	

講義目的

1. 高齢期の発達課題と高齢者看護の理念及び各種理論について説明できる。
2. 加齢現象とその受容過程について理解し、わが国の高齢化現象の特徴を説明できる
3. 高齢者のQOLの向上を志向した看護や高齢者的人権と看護の倫理的責務を理解できる。
4. 高齢者虐待の予防と防止活動について理解できる。
5. 介護保険サービス内容について説明できる。
6. 高齢者の思いと、高齢者を介護する家族の思いを理解できる。

授業内容

高齢期にある人とその家族を環境との関係の中で、発達段階、健康レベル、保健行動の視点から生活者として総合的に理解し、高齢者とその家族を支援する看護活動の基本的概念について学ぶ。また、高齢者のウェルネスとQOLの視点から、高齢者の特徴や個人差、その人らしさについて学びを深め、最適の健康を生きることができる援助のあり方について理解し、高齢者的人権や権利擁護について学ぶ。

(オムニバス方式／全15回)

(臼井キミカ／9回)

高齢者看護学を理解するための基盤・高齢者看護の理念と目標と高齢者看護の対象となる人々の特徴・高齢者看護に活用できる理論・アプローチ・療養生活への支援・生かし生かされる地域づくり・高齢者看護学の課題

(安藤純子／6回)

高齢者看護学における対象の見方・とらえ方・「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護・療養生活への支援（薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護）・尊厳ある介護と看取り・家族介護者の生活支援

留意事項（履修条件他）

1. この科目を失格した場合、「在宅高齢者看護学実習」は履修できません。その自覚をもって、授業に臨んでください。(20分以上の遅刻は欠席となります)
2. 高齢者看護学の基礎となる科目であり、主体的な学修を求めます。

教材

書名：看護学テキスト NICE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 編著者：正木治恵、真田弘美編
出版社：南江堂 價格：3,024円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	高齢者看護学を理解するための基盤（老いの意味、老年期の理解）（臼井）	老いの意味、老年期の理解について自己学習して講義に参加する。
2	高齢者看護学を理解するための基盤（高齢者をとりまく社会制度）（臼井）	高齢者をとりまく社会制度について最新の情報をインターネット等で収集して講義に参加する。
3	高齢者看護の理念と目標と老年看護の対象となる人々の特徴（からだ、こころ、かかわり）（臼井）	高齢者看護の対象となる人々の心身の特徴について自己学習して講義に参加する。
4	高齢者看護の対象となる人々の特徴（暮らし、生きがい、歳月の積み重ね）（臼井）	高齢者の生活構造、生活習慣・生活様式と生きがい、生活史、健康歴、文化や価値観について、5月の連休中に後期高齢者にインタビューしてレポートを作成し、提出する（課題レポート1）。
5	高齢者看護に活用できる理論・アプローチ（臼井）	IV章を読み、好みの理論を1つとりあげて、連休中にインタビューした後期高齢者の事例を当てはめて説明できるかをレポートし、講義時にその内容を発表する。 小テスト実施。
6	高齢者看護学における対象の見方・とらえ方（対象特性、対象理解）（安藤）	高齢者の特性と高齢者法の理解について自己学習して講義に参加する。
7	高齢者看護学における対象の見方・とらえ方（対象理解に活用	高齢者の理解に活用できる指標とツールについて自己学習して講義に参加する。

	できる指標とツール) (安藤)	
8	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護 (安藤)	高齢者の「豊かな生」の創出に必要な支援方法について自己学習して講義に参加する。
9	療養生活への支援 (薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護) (安藤)	薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護について自己学習して講義に参加する。
10	療養生活への支援 (認知症高齢者への看護 1) (臼井)	「認知症の人と家族の会」のホームページの検索や、新オレンジプランに関する情報を収集して講義に参加する。小テスト実施。
11	療養生活への支援 (認知症高齢者への看護 2) (臼井)	認知症高齢者ケアに関する先駆的な取り組み (実践報告・国内外を問わない先駆的事例・活動) を調べてレポートを作成する (課題レポート 2)。
12	尊厳ある介護と看取り (安藤)	第VII章を自己学習して講義に参加する。
13	家族介護者の生活支援 (安藤)	我が国の家族介護者の生活実態について最新の情報を収集して講義に参加する。
14	生かし生かされる地域づくり (臼井)	各自が居住する地域の高齢者に関する社会資源について情報収集し、講義に参加する。
15	高齢者看護学の課題 (臼井)	インターネットや各種学会抄録集 (日本老年看護学会・日本看護科学学会・日本認知症ケア学会等) から高齢者看護学の課題について自己学習して講義に参加する。
16	終了試験	

評価方法 および評価基準

期末試験 50%、課題レポート 20%、小テスト 20%、授業への参加状況 10%

- S (100~90 点) : 講義で学んだ内容を十分理解し、わが国の高齢者看護学の概要と課題を十分に説明できる。講義に積極的に参加し、自己の課題を明確にできる。
- A (89~80 点) : 講義で学んだ内容を理解し、わが国の高齢者看護学の概要と課題を概ね説明できる。講義に積極的に参加し、自己の課題を明確にできる。
- B (79~70 点) : 講義で学んだ内容を理解し、わが国の高齢者看護学の概要と課題を不十分ながら説明できる。講義に参加し、自己の課題を学ぶことができる。
- C (69~60 点) : わが国の高齢者看護学の概要と課題を学ぶことができる。講義に参加し、自己の課題を不十分ながら知ることができる。
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BJ2201	高齢者看護援助論 I	2年/後期	1
担当教員			科目区分
臼井キミカ 安藤純子 甲村朋子		専門科目-成人・高齢者看護学-高齢者看護学	

講義目的																														
1. 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、高齢者の機能を総合的に評価できる。 2. 加齢に伴う生活機能障害の特徴とその要因、及び生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する。																														
授業内容																														
高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢者がより“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術について学ぶ。すなわち、高齢者に特徴的な感覚機能障害や摂食・嚥下障害などの老年症候群の原因について理解し、それらの障害がどのように高齢者の生活に影響し、さらに高齢者自身のセルフケアの促進や予防を含めた看護について創造的・実践的に理解できる。 (オムニバス方式／全8回) (臼井キミカ／2回) 高齢者の理解と基本看護技術 (安藤 純子／3回) 老年症候群と看護 (甲村 朋子／3回) 加齢変化とフィジカルアセスメントの技術																														
留意事項（履修条件他）																														
高齢者看護学概論が履修済みであること																														
教材																														
書名：看護学テキスト NiCE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 著者名：真田弘美、正木治恵編 出版社・出版年：南江堂・2011年 価格：3,456円																														
授業計画および学習課題（予習・復習）																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高齢者の理解（高齢者の発達的特徴と環境、生活不活発病、老年症候群、老年病） (臼井)</td> <td>第I章を読み高齢者とその家族を生活機能の視点から考える</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高齢者看護の基本技術（ヘルスアセスメント） (臼井)</td> <td>第II章を読み高齢者の身体的・精神的特徴とアセスメントについて説明できる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術1） (甲村)</td> <td>第III章 1.呼吸、2.食事、3.排泄を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術2） (甲村)</td> <td>第III章 4.動作と移動、5.睡眠、6.体温を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術3） (甲村)</td> <td>第III章 7.清潔、8.コミュニケーション、9.性を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>老年症候群と看護（感覚器障害、尿失禁、便秘・下痢等） (安藤)</td> <td>第IV章 2.感覚機能障害、9.尿失禁、10.便秘・下痢を読み、対象に求められている看護について考える</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>老年症候群と看護（摂食・嚥下障害、低栄養・脱水等） (安藤)</td> <td>第IV章 3.摂食・嚥下障害、4.脱水、5.低栄養を読み、対象に求められている看護について考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>老年症候群と看護（せん妄、寝たきり、転倒等） (安藤)</td> <td>第IV章 13.寝たきり、14.せん妄、15.転倒を読み、対象に求められている看護について考える</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>終了試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	高齢者の理解（高齢者の発達的特徴と環境、生活不活発病、老年症候群、老年病） (臼井)	第I章を読み高齢者とその家族を生活機能の視点から考える	2	高齢者看護の基本技術（ヘルスアセスメント） (臼井)	第II章を読み高齢者の身体的・精神的特徴とアセスメントについて説明できる	3	高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術1） (甲村)	第III章 1.呼吸、2.食事、3.排泄を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる	4	高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術2） (甲村)	第III章 4.動作と移動、5.睡眠、6.体温を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる	5	高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術3） (甲村)	第III章 7.清潔、8.コミュニケーション、9.性を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる	6	老年症候群と看護（感覚器障害、尿失禁、便秘・下痢等） (安藤)	第IV章 2.感覚機能障害、9.尿失禁、10.便秘・下痢を読み、対象に求められている看護について考える	7	老年症候群と看護（摂食・嚥下障害、低栄養・脱水等） (安藤)	第IV章 3.摂食・嚥下障害、4.脱水、5.低栄養を読み、対象に求められている看護について考える	8	老年症候群と看護（せん妄、寝たきり、転倒等） (安藤)	第IV章 13.寝たきり、14.せん妄、15.転倒を読み、対象に求められている看護について考える	9	終了試験	
回	内 容	学習課題（予習・復習）																												
1	高齢者の理解（高齢者の発達的特徴と環境、生活不活発病、老年症候群、老年病） (臼井)	第I章を読み高齢者とその家族を生活機能の視点から考える																												
2	高齢者看護の基本技術（ヘルスアセスメント） (臼井)	第II章を読み高齢者の身体的・精神的特徴とアセスメントについて説明できる																												
3	高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術1） (甲村)	第III章 1.呼吸、2.食事、3.排泄を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる																												
4	高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術2） (甲村)	第III章 4.動作と移動、5.睡眠、6.体温を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる																												
5	高齢者の生活と看護（加齢変化とフィジカルアセスメントの技術3） (甲村)	第III章 7.清潔、8.コミュニケーション、9.性を読み高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの方法を説明できる																												
6	老年症候群と看護（感覚器障害、尿失禁、便秘・下痢等） (安藤)	第IV章 2.感覚機能障害、9.尿失禁、10.便秘・下痢を読み、対象に求められている看護について考える																												
7	老年症候群と看護（摂食・嚥下障害、低栄養・脱水等） (安藤)	第IV章 3.摂食・嚥下障害、4.脱水、5.低栄養を読み、対象に求められている看護について考える																												
8	老年症候群と看護（せん妄、寝たきり、転倒等） (安藤)	第IV章 13.寝たきり、14.せん妄、15.転倒を読み、対象に求められている看護について考える																												
9	終了試験																													
評価方法 および評価基準																														
期末試験：50%、課題レポート：20%、小テスト：10%、授業への参加状況：20%																														
S (100~90点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解し、説明できる。																														
A (89~80点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解できる。																														
B (79~70点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に不十分であるが理解できる。																														
C (69~60点) : 高齢者看護におけるヘルスアセスメントの意義とその実際について学び、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について理解しようと努力している。																														
D (60点未満) : Cのレベルに達していない																														

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK0101	在宅看護学概論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
福田由紀子 山本純子		専門科目-広域看護学-在宅看護学	

講義目的		
在宅で療養する人とその家族・生活環境、健康上の課題を理解し、質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために、・技術・態度を学ぶ。在宅看護における社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解する。		
授業内容		
在宅看護の目的と特性を踏まえた社会動向と在宅看護における保健・医療・福祉制度に基づいた在宅ケアプランの理解ができるよう、諸外国・日本の変遷・社会の現状などをグループや個々での課題学修を交えて授業を展開する。また、在宅看護の対象の疾患、療養状況、療養環境を捉えた看護を考えた在宅ケアの特徴及びサービス、多職種の連携、システムや在宅で療養している本人・家族の介護力、負担を理解する。		
留意事項（履修条件他）		
1. 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加すること 2. 課題の期日・時間の厳守とする		
教材		
これからのは在宅看護論：編集者：島内節・亀井智子：ミネルヴァ書房 在宅看護論：医歯薬出版 在宅看護論：ヌーヴェルHIROKAWA 写真でわかる訪問看護：インターメディカ		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	在宅看護の理念・定義（山本） 在宅看護の目的と特徴、利用者家族へのかかわり方（福田）	在宅看護の歴史から、理念を考え、地域に根ざした在宅看護の役割を理解できる。
2	在宅看護の役割と特徴（福田）	第1回の講義から生活を踏まえた、在宅看護の役割と特徴が理解できる。
3	在宅看護のためにアセスメント指標（福田）	これまでに学んだアセスメントを復習し、アセスメントについて説明できる。在宅看護のアセスメント指標が理解できる。
4	在宅ケアを支える制度（福田）	新聞やニュースから社会背景や在宅医療・介護制度の変化や問題について把握する。さらに介護保険・医療保険制度について理解できる。
5	在宅看護とケアマネジメント（山本）	訪問看護師が多職種と連携し、利用者・家族の健康管理とその調整の必要性を理解することができる。
6	在宅における介護予防とリスク予防（福田）	高齢者の生活を理解し、介護予防とリスク予防について看護ケアを考えるところができる。
7	クオリティーを高める生活支援（福田）	在宅療養者の生活支援について理解できる。
8	在宅ケアにおける処方薬治療の継続と看護（山本）	各疾病による薬剤の服用の工夫及び内服管理の必要性が理解できる。
9	リスクの高い利用者の予防とケア（山本）	在宅における重症度の高い利用者のケニアーズ対応と予防が理解できる。
10	うつ・認知症の予防（福田）	うつ・認知症について理解し、今後の認知症の予防について考えることができる。
11	在宅における医療処置の工夫と留意点（福田）	テキストを読み、理解できることをまとめ、さらに、医療処置の工夫と留意点について理解できる。
12	在宅療養者に多い疾患の進行予防とケア（福田）	在宅療養者に多い疾患を調べ、疾患の進行予防とケアに事例について理解できる。
13	子どもの在宅看護（山本）	在宅で療養する子どもを介護する家族を理解する。
14	在宅ケアの効果的な運営（山本）	訪問看護ステーションの経営と管理が理解できる
15	在宅ケアにおける災害看護・まとめ（山本・福田）	在宅における災害時を予測したケアの必要性が理解できる。

評価方法 および評価基準	
期末試験 60%、課題レポート 40%	
S (100~90 点) :	在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題を抽出でき、在宅看護の概念・諸制度が理解できる。生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護の基礎的知識を修得し、在宅看護技術・態度が理解できる。また、社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。在宅療養をしている利用者と家族の生活環境、健康上の課題を十分に理解し、訪問看護師の役割を理解できる。
A (89~80 点) :	在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題を理解し、在宅看護の概念・諸制度が理解できる。生活の維持・改善、健康の保持や増進に必要な看護の基礎的知識を理解し、技術・態度が説明できる。在宅看護における社会資源の活用及びチームケアまたは、多職種の連携のあり方、退院調整について理解できる。
B (79~70 点) :	在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題と在宅看護の概念・諸制度が理解できる。在宅看護に必要な看護の基礎的知識・技術・態度が説明できる。
C (69~60 点) :	在宅で療養者とその家族の生活環境、健康上の課題、在宅看護の概念・諸制度が理解でき、在宅看護に必要な看護の基礎的知識・技術・態度がわかる。
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK0201	在宅看護援助論 I	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
山本純子 福田由紀子 石井英子		専門科目-広域看護学-在宅看護学	

講義目的			
在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える工夫があることを理解できる。また、在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整える在宅看護計画に沿って看護技術の能力を理解できる。			
授業内容			
在宅看護学援助論 I については、日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見極める判断能力を養うことができるようシミュレーション授業の展開によるグループ学習の実施、及び在宅看護のイメージ化を図ることが重要である。そのため、基本的日常生活や医療的処置など在宅看護の特徴を学修し、その技術を習得する授業内容を進め、さらに在宅ケアにおける役割と対象者と家族が暮らす地域の社会資源やネットワークが理解できる。			
留意事項（履修条件他）			
1. 授業はやむを得ない理由でない限り、在宅看護実習と関連が深いため毎回参加することが必須である。 2. 課題の期日・時間の厳守を基本とする。			
教材			
テキスト：これからのは在宅看護：編集者：島内 節：ミネルヴァ書房：2014 在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション 著者名：前川厚子編著出版社・出版年：オーム社・平成26年2月 参考図書：在宅看護論 出版社：医学書院 地域療養を支えるケア 出版社：ナーシンググラフィカ			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	在宅療養者のアセスメントと支援 在宅看護の目的と特徴、家族への関わりの理解 (山本純子・福田由紀子)	在宅看護と施設、病院の違いと家族支援の特徴を捉えて在宅療養生活の重要性を考えることができる。	
2	在宅看護過程展開 在宅で療養している利用者・家族の理解、退院調整 (山本純子・福田由紀子) 主な疾患の特徴と在宅看護ーI (ADL 低下・自立支援)	在宅看護過程の必要性とその概要が理解し、在宅看護に必要なケア方法を考える指標、家族支援も含めたケア立案が理解できる。	
3	在宅看護過程：情報収集～アセスメント (福田由紀子・山本純子・) グループワークを通して、主な疾患の特徴と在宅看護ーII (難病患者・医療依存度の高い患者) 在宅で療養している利用者・家族の理解、社会資源の活用	在宅看護に必要なケア立案の具体的な方法を学ぶことができる。それを用いて個々の利用者の疾患の特徴を捉えた看護計画を考えることができる。	
4	在宅看護における他職種との連携とケアマネジメント(石井英子) ①関連職種とその役割 ②ケアマネジメント過程と介護保険申請のシミュレーション	平成21年度版 要介護認定 一次判定のシミュレーションから訪問看護対象者の援助内容を考える。	
5	主な疾患の特徴と在宅看護ーIII (終末期療養者・QOLを高めるケア) 及び住宅環境整備からの在宅ケアシステム (石井英子)	あなたの住んでいる部屋の見取り図を書き、在宅療養者の介護サービス計画をたて援助を説明できる。	
6	在宅療養者のQOLを目標にした課題の抽出とグループワークにより在宅療養者の状況を理解できる。(石井英子)	地域で最期まで生き甲斐を持って暮らすための因子をグループごとに評価する。	
7	在宅看護過程成果発表 (山本純子・福田由紀子)	在宅看護課程の成果と方法の説明ができる。	
8	訪問看護の課題・まとめ (山本純子・福田由紀子)	訪問看護の課題をまとめることができる。	

評価方法 および評価基準

期末試験 60 %、課題レポート及び学習態度 40 %

- S (100~90 点) : 在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を整えることができる。さらに、在宅看護課程が立案できる、それに沿って必要な看護技術が理解できる。
- A (89~80 点) : 在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を説明することができる。さらに、在宅看護課程が立案できる、それに沿って必要な看護技術が説明できる。
- B (79~70 点) : 在宅療養者が安定した生活が送れるための環境を理解する。さらに、在宅看護課程を理解する。それに沿って必要な看護技術を述べることができる。
- C (69~60 点) : 在宅療養者が安定した生活が送れるための環境がわかる。さらに、在宅看護課程がわかる。それに沿って必要な看護技術がわかる。
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK2101	地域看護・公衆衛生看護学概論	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
三徳和子 森川英子		専門科目-広域看護学-地域看護学	

講義目的			
<ol style="list-style-type: none"> 人々が暮らす地域での公衆衛生看護活動の対象・目的・方法と活動の場について理解する。 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解を深める。 公衆衛生看護活動における倫理的課題に配慮した看護職の役割が理解できる。 			
授業内容			
<p>公衆衛生看護活動（保健師活動）は、地域住民の健康水準の向上をめざし、健康増進活動、分野別保健活動（母子、成人、老年、難病、精神、災害、国際等）を行う。方法は家庭訪問、健康診断、健康教育、機能訓練、地域づくり活動などがある。主な活動現場は行政、産業、学校、国際保健分野である。これらの活動について概要を学ぶ。</p>			
留意事項（履修条件他）			
<p>地域看護、公衆衛生看護活動の基礎となる科目であり、在宅看護学および保健師コースと連動する科目である。レポートは図書館等を利用して実情を把握し、具体的な健康課題について、活動の対象、方法を整理し、自分の考えをまとめること。そのためにも、現在の世界、日本の人々の健康課題について関心をもち、健康課題に対する社会の動きを新聞、ラジオなどのメディアや本などで把握し、自分で考えてみよう。人々の健康、家族の健康に関心を持ち、積極的に講義に参加し、発言することが重要である。</p>			
教材			
公衆衛生看護学概論 最新版（医学書院）3000円			
授業計画および学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	
1	公衆衛生看護学の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護学とは、公衆衛生を基盤とした看護学であり、目指すのは対象集団全体の健康増進と疾病予防をめざしていること、そのために対象者の健康課題を構造的に明らかにする必要があることを理解する。 ・状態として、権利としての健康の概念を知る。 ・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて、理解し説明することが出来る。 ・公衆衛生の基盤となる概念を理解し、説明することが出来る。 	
2	公衆衛生看護学の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の歴史を概観する。 ・公衆衛生看護活動の変遷を知り、特徴を探る。 <p>課題1：レポート 保健師の活動事例を検索し、現代の保健師活動の課題をまとめてみよう。</p>	
3	社会環境の変化と健康課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化、環境、と健康の社会的決定要因及び健健康課題解決の資源について考えよう。 	
4	公衆衛生看護の基盤となる概念	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の基盤となる概念、公的責任を知り、基本的人権の尊重およびアドボカシー、エンパワメントについて、考えよう。 <p>課題2：レポート 地域の健康課題を上げ、住民の事例からアドボカシー、エンパワメントについて考えてみよう。</p>	
5	公衆衛生看護学の対象と活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の対象の特徴、公衆衛生看護の対象としての個人、家族、グループ、組織、地域と集団を知り、活動の方法を知る。 	
6	公衆衛生看護学の場	<p>保健師が活動する場として、行政機関、職域（産業）、学校、医療施設、社会福祉施設などの活動の場を考えてみよう。と、場における具体的活動役割および役割を知ろう。</p>	
7	行政の場での保健師活動	<p>行政の場における住民の健康づくり活動、母子保健活動と保健師の役割を知り、必要性を考察しよう。</p>	

8	行政の場での保健師活動	行政の場における住民の成人・老人保健活動、精神保健活動、難病保健活動について知り、保健師の果たす役割について考えてみよう。 課題 3：健康づくり、母子保健、精神保健、成人保健、老人保健活動の中から、関心のある領域の保健師活動の実際と課題をまとめてみよう。
9	産業の場での活動	産業の場における労働者の身体的健康、精神的健康を守るために保健師の役割を知り、考察しよう。
10	学校の場での活動	学校の場における児童生徒の健康課題と、身体的健康、精神的健康を守るために方策について知り、考察しよう。
11	公衆衛生看護活動の計画策定と施策化	保健計画の策定の必要性と策定プロセス、立案と実施について知ろう。 課題 4：国および地方自治体の保健計画を調べ、その仕組みと作成過程、実施過程を健康問題別に調べまとめよう。
12	公衆衛生看護活動の計画・実施・評価の実際	公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断に使用するコミュニケーション・アズ・パートナーモデルを知り、計画・実践・評価の流れを理解する。
14	公衆衛生看護管理（国際保健：感染症から学ぶ）	公衆衛生看護管理として、国際的な対策の必要な事例をとまって、看護官営の方法を考察する。 課題 5：レポート 国際的な視点から感染症対策が必要な疾患を取り上げ、看護職が行うことが出来る対応の方法とその意義をまとめよう。
15	健康危機管理	・健康危機管理の枠組み、組織的を考える。 ・平常時、災害時、災害直後とその後のニーズと対応を知る。
15	公衆衛生看護活動の実際	公衆衛生看護活動の今後の課題と看護職の役割を考えよう。 課題 6：レポート ①看護師コース、養護教諭コース希望者は各自の立場で、看護職として地域の人々の健康課題とその支援について、出来ることを具体的に考えてみよう。 ②保健師コース希望者は、保健師になりたい理由と、なりたい保健師像、保健師になったらどんな活動がしたいのかについて、まとめよう。

評価方法 および評価基準

期末試験 70%、課題レポート 20%、課題討議参加 10%

- S (100~90 点) : 公衆衛生看護活動の健康課題別の目的と意義、対象と方法について理解し、今後の対策について自分の考えをもち、人に伝えることが出来る。
- A (89~80 点) : 地域住民の健康課題と公衆衛生看護活動の関連を理解し、健康課題別に目的と意義、対象と方法を、説明できる。
- B (79~70 点) : 地域住民の健康課題と公衆衛生看護活動の目的と意義を理解し地域看護・公衆衛生看護の用語が説明できる。
- C (69~60 点) : 公衆衛生看護活動と地域住民の健康課題がわかる。
- D (60 点未満) : Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK2201	公衆衛生看護援助論Ⅰ	2年/後期	2
担当教員		科目区分	
三徳和子 石井英子 山田裕子		専門科目-広域看護学-地域看護学	

講義目的

公衆衛生看護活動は、地域の人々が自ら健康とその要因をコントロールし、維持・改善できるよう援助することが求められる。地域の人々を母子、成人、高齢者、精神、難病、感染症などの対象別に健康問題の特徴を理解し、それに対する健康課題と支援策を学習する。

授業内容

対象ごとに動向と法律などの制度、根拠データ、課題、社会資源、指導方法などを理解する。それに基づいて、グループワークを行い、グループ員で関心のある課題を取り上げ、課題に対して地域の中ではどのようなサービスや人々の支援が行われているのかの実際を調べ、まとめて発表を行うことにより、地域の人々が持つ健康課題と支援策を理解できる。

留意事項（履修条件他）

- ・保健師課程選択者のみ受講
- ・自分自身も社会の一員という認識の下で、グループワークに積極的に取り組むこと。

教材

標準保健学講座3 対象別地域保健活動 最新版（医学書院）3300円

国民衛生の動向 最新版（厚生労働統計協会） 2400円

看護法令要覧 最新版（日本看護協会出版会） 4200円

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	母子保健の動向	母子の健康関連指標の動向を調べ、母子保健施策との関連を理解する
2	母子保健の課題と保健指導	母子保健各期の健康課題を調べ、保健指導の具体的な方法を知り、健康課題と保健指導の特徴を理解する
3	母子保健の課題と保健指導	障害の種類、児者の数の推移からわが国の障害者の動向を知る。また、わが国の障害者に関する捉え方や法整備等の対策について経緯を理解する。
4	障害児・者の動向	障害児・者対策のあゆみと障害者支援に関する関連法との関係を理解する。保健活動の実際を理解する。
5	障害児・者の課題と保健指導	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。また、完成した保健指導案は発表する。各自の発表や他の学生の発表時には能動的な態度で討議に参加し理解を深める。
6	障害児・者の課題と保健指導	成人保健活動について、成人病から生活習慣病への概念や対策の変遷を理解する。
7	母子保健、障害児（者）の課題と保健指導の実際（演習）	健康日本21や健康増進法などの骨子を調べ、特に特定健康診査、特定保健指導の特徴を理解する。
8	母子保健、障害児（者）の課題と保健指導の実際（演習）	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。また、完成した保健指導案は発表する。各自の発表や他の学生の発表時には能動的な態度で討議に参加し理解を深める。
9	母子保健、障害児（者）の課題と保健指導の実際（発表）	高齢者保健の動向
10	成人保健の動向	わが国の高齢化の特徴を年次推移や将来推計から知る。高齢化の進展に伴う保健・福祉施策の変遷について特徴を理解する。
11	成人保健の課題と保健指導	高齢者の健康や生活の特徴から在宅支援護高齢者の将来的な生活状況を予測し、家族支援も含めた保健指導を理解する。
12	成人保健の課題と保健指導	7~9回同様に、提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。本演習では、生活習慣が確立し、修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解する。
13	高齢者保健の動向	精神保健の理念と歴史的変遷を理解する。特に、措置を中心とした対策からノーマライゼーション、共生などのkey wordsを基にした現代の法整備について理解する。
14	高齢者保健の課題と保健指導	
15	高齢者保健の課題と保健指導	
16	成人・高齢者保健の課題と保健指導（演習）	
17	成人・高齢者保健の課題と保健指導（演習）	
18	成人・高齢者保健の課題と保健指導（発表）	
19	精神保健の動向	

20	精神保健の課題と保健指導	精神障害者の生活上の障害を理解し、精神障害者を支援する他職種（精神科医、精神保健相談員等）との連携や調整も含めた保健師の活動を理解する。
21	精神保健の課題と保健指導（演習）	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。ここでは、事例への直接的な保健指導よりも、連携の相手や方法等を中心に検討し理解を深める。
22	精神保健の課題と保健指導（発表）	
23	難病対策の動向	難病対策の理念・歴史的変遷を理解する。 難病の定義、難病患者に対する医療等に関する法律、目的、基本理念を調べる。
24	難病の課題と保健指導（演習と発表）	難病患者を支援する保健師の活動事例から保健指導を考察する。
25	感染症の動向	感染症対策の歴史的変遷を理解する。 感染者、感染症患者（一類、二類、三類、四類、五類感染症、新感染症、新型インフルエンザ感染症、食中毒）の特徴を調べる。
26	感染症の課題と保健指導	
27	感染症の課題と保健指導	近年の感染症保健の課題と保健施策を理解する
28	健康づくり活動の動向	健康増進対策のあゆみと国民健康づくりを理解する
29	健康づくり活動の課題と保健指導	生活習慣の特徴とその対策・保健指導を理解する。実在する自治体の健康日本21を用いて、理解を深める。
30	健康づくり活動の課題と保健指導	
評価方法 および評価基準		
期末試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で総合的に評価する。		
S (100~90 点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を説明することができ、事例に対応した保健指導を考えることができる。さらに、対象ごとに学習した健康課題、法的根拠等を体系的に捉えることができる		
A (89~80 点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を概ね説明することができ、事例に対応した保健指導を考えることができる		
B (79~70 点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠の関連を概ね説明することができる		
C (69~60 点) : 対象ごとに健康問題・課題の特徴とそれらに対する保健指導の法的根拠を理解することができる		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK2601	学校保健	2年/後期	2
担当教員		科目区分	
松原紀子		専門科目-広域看護学-地域看護学	

講義目的

学校保健の概要が分かり、その中心となる養護教諭の職務について理解する。

1. 学校保健の基本的概要を理解し、国民の健康の保持増進の一環であることを説明できる。
2. 児童生徒の心身の健康実態と学校保健の課題を関連付けて説明ができる。
3. 学校に関わる職員と児童生徒の健康課題への支援のあり方を説明できる。
4. 保健教育の意味や方法について理解し、実践を振り返って説明ができる。
5. 学校保健を構成する組織活動について具体的に説明ができる。

授業内容

学校保健の目的・意義・実際の活動について理解し、教育の場において学校保健の中心となる養護教諭の職務・実践能力・資質を培う。

留意事項（履修条件他）

教員の免許状取得のための必修科目である。

教材

教科書：「学校保健ハンドブック第6次改訂」ぎょうせい 2014年 價格3,348円

（参考書：参考資料等 学校保健実務必携 第3次改訂版2015年・学校保健マニュアル2013年）

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	オリエンテーション、ノートの取り方、学校保健を学ぶ意義づけ、授業計画の説明	（学習課題）養護教諭が学校保健を学ぶ意義について考える （学校保健の構造を理解する）。 ・今後14回の授業の受け方が理解でき、実行できるようになる。
2	健康の概念・学校保健の歴史・国の政策（国や文部科学省の役割と関連法律）	（学習課題）児童生徒における学校保健役割を理解できる。
3	学校保健組織活動の概要 学校保健を構成職種 <常勤>校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、養護教諭等、 <非常勤>校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラー	（学習課題）学校保健関係者の職務内容と連携の必要性が理解できる。
4	学校教育計画、学校保健計画、学校安全計画・保健室経営計画	（学習課題）学校保健の課題解決のための組織的計画的方法について理解できる。
5	健康観察・健康相談	（学習課題）健康状態の把握の方法が理解できる。
6	就学時の健康診断、児童生徒の健康診断・職員の健康診断	（学習課題）健康診断の法的根拠、進め方、各検査項目の目的と意義、方法が理解できる。
7	学校安全、危機管理体制	（学習課題）学校における安全管理、安全指導について理解できる。
8	学校の救急処置	（学習課題）学校における救急処置のポイントを理解できる。
9	児童生徒の心身の健康問題とその対応	（学習課題）児童生徒の健康障害、心の健康問題とその対応策が理解できる。
10	学校における感染症とその対策	（学習課題）感染予防の現状と学校での対応を理解できる。
11	学校環境衛生	（学習課題）学校環境衛生の目的と基準が理解できる。 ・学校環境衛生の実際の測定を行うことができる。 (教室環境・水質検査)
12	健康教育（保健指導と保健学習）	（学習課題）健康教育の方法について理解できる
13	食教育	（学習課題）児童生徒の食生活に関して様々な課題がある。その対応として、各政策や校内での対応が実施されていることを理解できる。
14	特別支援教育の現状	（学習課題）発達や行動上に困難のある児童生徒への仕組みや教育的な工夫の現状が分かり、保健教育及び保健管理においての予防的な対策や工夫が必要であることが理解できる。
15	養護教諭に期待されている今日的課題	（学習課題）現代的な健康課題に対して養護教諭が果たす役割と必要とされる資質が理解でき、今後培って行こうとする意欲を持つ。

評価方法 および評価基準	
期末試験 70%、課題レポート 30%	
S (100~90 点) :	学校保健の目的・意義・実際の活動について理解し、教育の場において学校保健の中心となる養護教諭の職務を十分説明でき、必要とされる資質を培うおうとする意欲が非常に高い。
A (89~80 点) :	学校保健の目的・意義・実際の活動について理解し、教育の場において学校保健の中心となる養護教諭の職務を概ね説明でき、必要とされる資質を培うおうとする意欲が高い。
B (79~70 点) :	学校保健の目的・意義・実際の活動について概ね理解し、教育の場において学校保健の中心となる養護教諭の職務を不十分な点があるが説明でき、必要とされる資質を培うおうとする意欲がある。
C (69~60 点) :	学校保健の目的・意義・実際の活動について考えることはできる。その上で教育の場において学校保健の中心となる養護教諭の職務を理解しようと努力し、必要とされる資質を培うおうと努力している。
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK4101	国際看護学 I	1年/後期	2
担当教員		科目区分	
西川まり子		専門科目-広域看護学-国際看護学	

講義目的		
この授業は、国際看護学への導入である。将来、国内における多文化看護のケア提供や国際社会のヘルス分野における貢献を目指す基礎となる世界のヘルスやヘルスシステムを学ぶ。		
授業内容		
国際看護への導入、定義とその必要性からはじめ、初学者に理解しやすいように、世界地図に合わせて、世界のヘルスの状況と特徴や目標とするミレニアムゴールを学ぶ。具体的には、世界のヘルスと密接に関係する、経済、環境、ジェンダー、人口問題、栄養状態、労働、少年兵士、外傷や事故、伝統医療、難民保健、感染症、ヘルスシステムの概要を学ぶ。初学者にも理解しやすいようにDVDを取り入れて視覚的にも学ぶ。この授業では授業毎に、自分の考えをまとめ、自分の思いを知る。さらに、小グループでディスカッションを行い、知見を深める。		
留意事項（履修条件他）		
教材		
日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ￥3,200 UNICEF『世界子供白書』最新版￥240、 UNICEF『基礎リーフレット』最新版、￥10 <資料> デイヴィッド ワナー、若井 晋（翻訳）『いのち・開発・NGO』1998、新評論 ISBN13:978-4794804228 ￥3,990 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II, III, 2012、医学映像教育センター ￥29,400 ×3 ユニセフ、それでも生きる子供たちへ、2008、ガガコミュニケーションズ		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	国際看護学への導入：国際的なヘルスの指標の見方。国際看護学とは。その必要性。国際看護とは。異文化看護。	UNICEF資料：p27-35
2	ナイチンゲール誕生の180年前にフランスからカナダに渡った看護の先駆者 Jeanne Mance ジエン・マンス氏（授業中に Jeanne Mance の資料を読む）	地図
3	世界のヘルスと歴史的展開と現代の課題。将来に向けて。ミレニアムゴール。SDGs と MDGs。（授業中に世界のヘルスのDVD鑑賞）	国際保健：33-36
4	医療経済と世界のヘルス、保険：国、国内格差（ニューヨーク、ブラジル、中国の例）授業中に Last Train Home のDVD鑑賞	国際保健：201-203
5	Last Train Home のDVD鑑賞の続き。海外の保険制度	国際保健：188-191
6	途上国の環境とヘルスの問題（ケニアのスラム：キベラの例）ビデオで鑑賞	国際保健：191-193
7	ヘルスと教育、孤児、ジェンダーの問題。世界のヘルスシステム。「それでも生きる子供たちへ—桑桑（ソンソン）と小猫（シヤオマオ）」のDVD鑑賞	国際保健：15-22
8	世界の人権と倫理、テロとヘルス（ニューヨークの例）とクイズ②	国際保健：26-32、147-150
9	世界の人口と家族計画、FGM、リプロダクティブヘルスの概要	国際保健：113-116
10	世界の栄養状況（栄養不良や肥満）	国際保健：120-124
11	世界のメンタルヘルス、労働衛生、少年兵士、外傷や事故	国際保健：125-127、128-131、131-136、141-143
12	世界のヘルスと伝統医療、難民保健（シリア、ニューヨークのカンボジア人）。難民キャンプでの看護師や看護用の移動図書館	国際保健：144-145、157-159
13	感染症（1）世界の小児の感染症、エイズ、	国際保健：117-118

14	感染症（2）肺炎、下痢、マラリア、その他の感染症や予防接種	国際保健：163-177
15	クイズ③とまとめ	
評価方法 および評価基準		
クイズ3回 80% (地図 10% 中間 30% 期末 40%) 授業のグループ・ディスカッションへの参加度 20%		
S (100~90 点) : 目標に達し、かなり良くできている		
A (89~80 点) : 到達目標に達している		
B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある		
C (69~60 点) : 到達目標への努力が見られ、最低限は満たしている		
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK4201	国際看護学Ⅱ	2年/前期	2
担当教員		科目区分	
西川まり子		専門科目-広域看護学-国際看護学	

講義目的					
この授業では、多文化共生社会に向けての看護を医療人類学と併せて学ぶ。将来、施設における文化的背景の異なる人々へ多文化看護を提供する担い手、さらにリーダー的役割を發揮する基礎を日本の現状と交えて学ぶ。					
授業内容					
この授業は、多文化共生看護に向けて、アイデンティティ、国内の移民、留学生、中国残留日本人帰国孤児、外国人旅行者のなどの文化的、社会的背景の異なる人たちへ必要な看護が提供できるような基礎を学ぶ。具体的には、現状、病院での国際内科や通訳のサポート、外国人対応を演習も交えて学ぶ。さらに、外国人看護師との協働、メディカルツーリズム、原住民看護を含める。さらに、身近な外国人にインタビューも交え、具体化する。					
留意事項（履修条件他）					
教材					
① 波平恵美子『文化人類学 [カレッジ版]』医学書院, 2011, ¥2,010 ISBN978-4-260-01317-8 ② 多文化共生センター『医療従事者が知りたい外国人患者への接し方』 ¥1,000 ③ 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3,200 <資料> 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II 医学映像教育センター ¥29,400 X 2 映画DVD『オレンジと太陽』					
授業計画および学習課題（予習・復習）					
回	内 容	学習課題（予習・復習）			
1	アイデンティティを映画『オレンジと太陽』と共に学ぶ	予習・復習 教科書 ①p2-19, p52-62			
2	国内の移民、留学生、外国人旅行者と海外の日本人のヘルスと対策	予習・復習 教科書③p218-219			
3	メディカルツーリズム（日本の現状やマルタ共和国、インド、タイなど）	予習・復習 資料を読んでおくこと			
4	医療人類学、伝統医療	予習・復習 教科書①p131-150③p198-199、156-159			
5	外国人ケアの病院など施設での対応：国際内科の内容と体験談：外国人から話を聞く	予習・復習 教科書②の全体をみておく			
6	外国人ケアにおける看護師の現状と対策（通訳との関係も含む）	予習・復習 教科書②の全体をみておく			
7	外国人看護師との協働：DVD 視聴含む、中間試験	予習・復習 資料を読んでおく			
8	外国人としての気持ちや体験談（日常生活や医療施設において）中国残留日本帰国孤児とその配偶者	予習・復習 教科書①p159-188			
9	多文化看護体験（ポラポラゲーム）：患者の理解や誤解予防のポイント	予習・復習 資料を読んでおくこと			
10	外国人患者への対応（演習1）	予習・復習 ケースに従って、実際に対応を体験			
11	外国人患者への対応（演習2）	予習・復習 ケースに従って、実際の対応を体験			
12	原住民（オーストラリアのアボリジニー、アメリカのインディアン）	予習・復習 資料を読んでおくこと			
13	学生の外国人ヘインタビュー成果グループ発表（1）	予習：インタビュー内容をまとめておく			
14	学生の外国人ヘインタビュー成果グループ発表（2）	予習：インタビュー内容をまとめておく			
15	まとめ	今までのところを復習しておく			
評価方法 および評価基準					
試験 60% (中間・期末) レポート 10% 授業への参加度 30%					
S (100~90点) : 目標に達し、かなり良くできている					
A (89~80点) : 到達目標に達している					
B (79~70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある					
C (69~60点) : 到達目標への努力が見られ、最低限は満たしている					
D (60点未満) : Cのレベルに達していない					

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK4501	国際看護学海外研修	2年/前期	1
担当教員		科目区分	
西川まり子、近藤絢弓		専門科目-広域看護学-国際看護学	

講義目的

この海外研修では、国際看護学Ⅰ～Ⅱで学んできたことを踏まえて、海外の病院を中心とした施設で、看護の実際を見学し、見聞を広げる。また、現地で実際に英語を使用して生活し看護の授業を受ける。さらに多文化社会に身を置くことにより、自分と異なる言葉や文化を持つ人々の理解を深める。

授業内容

この研修は、実際に海外に出かけて、人種のるつぼである多文化社会が共在する都市で生活をする。現地での看護の授業を受けて海外の看護の授業を体験する。大学の講義から、研修国の看護を取り巻く現状を知る。地元の最新の病院や施設での看護と貧しい方々への看護の両方を見学してその特徴や、そこで働いている看護師の多文化看護や専門家としての体験や気持ちを聞き、学びを深める。さらに学生自身が日本との看護・医療や文化の違いを学生のレベルで見出す。学部生のレベルで、研修国での看護研究について知り、将来に備える。これらの学びを毎日、研修日記に記録し振り返る。

留意事項（履修条件他）

海外へ渡航するにあたって、特に体調面に問題がないこと。安全面で、自分でも気を配ることができること。

日常的に内服をしている人は必ずその旨を申し出ること。海外で使用できる保険加盟が必要。

学生の安全・安心のために海外の情勢や相手校の都合により場合によっては、研修の変更もあり得る。

教材

これまで国際看護学Ⅰ、Ⅱで使用してきた下記の本①～⑤と配布資料

- ① 波平恵美子『文化人類学 [カレッジ版]』医学書院 2011, ¥2,010 ISBN978-4-260-01317-8
- ② 多文化共生センター『医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方』 ¥1,000
- ③ 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3,200
- ④ UNICEF『世界子供白書』最新版¥240 ⑤UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10

その他、海外看護研修参加資料を渡します。

授業計画および学習課題（予習・復習）

事前学習：

- ① 自分で、研修先の国の社会状況と医療や看護を調べておく。
- ② これまで学んできた、国際看護学Ⅰ、Ⅱの復習をしておく。
- ③ 海外研修を受講するにあたり、渡航に伴う健康と安全管理について受講した内容を復習しておく。
- ④ 配布資料をよく読んでおく

研修は、基本的に、午前中は講義の受講、午後は午前中の授業を踏まえての施設の見学である。

日程：

日本出発→海外到着：到着後1日休養する。

- ① 研修1日目：研修中、現地で安全に健康で過ごすためのオリエンテーション、①多文化共存社会でのコロラドにおけるヘルスシステムとDNPを含む看護の役割。午後の病院見学の説明。総合病院での成人、高齢者病棟と外来での看護師の役割。
 - ② 研修2日目：成人、高齢者病棟と外来の講義。コロラド大学看護学部実習室（前日の見学のまとめ）。コロラド大学医学部キャンパス内の施設見学。
 - ③ 研修3日目：高齢者のケア施設における看護師の役割。公衆衛生と公衆衛生看護／在宅支援施設、公衆衛生に関連する施設における看護師の役割。
 - ④ 研修4日目：米周産期看護の実際。前日の病院見学のまとめ。エンドオブライフケアの施設見学。
 - ⑤ 研修5日目：ナースサイエンティストの役割、EBP。こども病院での看護師の役割。コロラド大学病院・コロラド大学病院がんセンターの設備見学と看護の役割。海外研修の振り返りとまとめ。
- その他、ホームレス・ケアセンターの見学を予定している。

海外出発（日付け変更線）→日本到着

評価方法 および評価基準

研修への参加度 50% 研修での学びの日記 50%

- S (100～90点)： 研修国の状況を把握し、研修に積極的に参加し、学びの目標に達し、かなり良くできている
- A (89～80点)： 研修国の状況を把握し、研修に積極的に参加し、学びの目標に達している
- B (79～70点)： 研修国の状況を把握し、研修に参加し、学びの目標に達しているが不十分な点がある
- C (69～60点)： 到達目標への努力が見られ、最低限は満たしている
- D (60点未満)： Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK6101	精神保健看護学概論	2年/前期	2
	担当教員	科目区分	
郷良淳子		専門科目-広域看護学-精神看護学	

講義目的

1. 現代社会における心の健康についての理解できる。
2. 現代社会の精神保健の課題についてその背景の問題も含めて理解できる。
3. 自身の心の健康やストレス、その対処について考えることができる。

授業内容

精神保健看護学は、人間の精神に関わる看護に関する学問であり、対象は、すべての看護学領域にある人と精神障害を持つ人である。この講義では、精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識を習得する。具体的には、精神看護の基本概念となる心の健康と精神の健康の保持増進と疾病の予防、精神保健の歴史的変遷や法律を学び、精神看護を展開する際の看護師の倫理観を養う。また、精神保健看護に関する現代社会における課題をその要因や問題の様相、精神保健看護の側面からの対策について理解する。

留意事項（履修条件他）

単位認定は履修の手引きのとおりです。精神保健看護学概論で学ぶ知識は、学生のみなさんにとっても身近な事柄が多いため、普段の生活においても授業と関連させて事象を見る目を持ち、具体的な現象からその背景を読み解く力を養ってください。

14回目の「当事者の体験世界」は、精神障がいを持つ方に来ていただく都合で、時間割の日程以外になるかもしれません、追って授業中にお知らせします。

教材

書名：瀧川薰編 精神保健看護学 オーム社 2013年 2700円

授業計画（15回）および予習・復習内容

回	内 容	予習・復習内容
1	精神看護で学ぶこと、 心の健康・不健康とは 自身の傾向を知る 自己のメンタルヘルス (TEG)	③ 1章(pp. 2-3) 3章(pp. 36-50)、 ④ TEG の分析、配布資料、③部分
2	精神分析の基本的な知識 - 自我 - 防衛機制 ストレスと危機 一心の強さ ストレスとしての心的外傷	③ 3章 (pp. 31-35) 4章 (pp. 51-56) 5章 (pp. 80-82) ④配布資料、③部分
3	精神分析の基本的な知識-非言語表現 コラージュ療法	持参物 雑誌の写真等の切り抜き、はさみ、のり ④配布資料、③部分
4	成長発達段階における心の健康／不健康とは ① 小児期・思春期の発達課題と危機	③ pp. 12-36、77-87 ④配布資料、③部分
5	成長発達段階における心の健康／不健康とは ② 成人期・老年期の発達課題と危機	③ pp. 12-36、77-87 ④配布資料、③部分
6~8	現代社会における精神保健の課題 のグループ演習 いじめ 虐待 自殺 自傷 暴力・非行 職場の不適応 依存 など	GW : ③各自でテーマに沿った資料、 ④他のメンバーの資料
9	現代社会における精神保健の課題 発表	④ GW の配布資料
10	精神医療の歴史—日本と欧米諸国	③ 10章 (pp. 197-205) ④配布資料、③部分
11	精神保健および精神看護に関する法律および精神医療における倫理	③ 10章 (pp. 205-211) ④配布資料、③部分
12	地域精神保健	③ 11章 (pp. 217-243) ④配布資料、③部分
13	精神障がいからの回復：リカバリー概念とレジリエンス	③ 4章 (p. 62) ④配布資料、③部分
14	当事者の体験世界	レポート
15	精神看護における看護師の役割 まとめ	③ 1章 (pp. 4-11) ④配布資料、③部分

評価方法 および評価基準

演習発表内容（グループ討議の内容や発表時の態度を含む）20% 70%を期末試験、コラージュ療法や授業におけるリアクションペーパーの内容10%。

- S：現代社会の精神保健の課題について、グループワークでの討議も含めた得た学びから十分に説明でき、自身のメンタルヘルスについて、学びを通してその理解を深め、ストレスへの対処について具体的に考えられる。グループワークにも誠実に取り組むことができる
- A：現代社会の精神保健の課題について、グループワークでの討議も含めた得た学びから概ね説明でき、自身のメンタルヘルスについて、学びを通してその理解を深め、ストレスへの対処について概ね具体的に考えられる。グループワークにも誠実に取り組むことができる
- B：現代社会の精神保健の課題について、グループワークでの討議も含めた得た学びから不十分ながら説明でき、自身のメンタルヘルスについて、学びを通してその理解をし、ストレスへの対処について概ね考えられる。グループワークにも誠実に取り組むことができる
- C：現代社会の精神保健の課題について、グループワークでの討議も含め学べる。自身のメンタルヘルスにとストレス対処について考えることができる。グループワークにも誠実に取り組もうと努力している
- D：Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BK6201	精神看護援助論 I	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
郷良淳子 松浦利江子		専門科目-広域看護学-精神看護学	

講義目的	精神看護における援助方法について理解できる	
授業内容	精神看護に必要な基本的な援助方法を学ぶ。精神状態をアセスメントするための面談方法や対人関係論からみた精神看護を通して、対人援助技術の具体を演習する。さらに、集団精神療法的アプローチとしてのグループダイナミクスやグループを活用した援助技術を、演習を通して理解できるようにする。精神障害を持つ人の家族へのアプローチの重要性と基本的な関わりについて理解できる。これらを通して、精神看護に必要な基本的なスキルの必要性とアプローチ方法の基礎を学び、精神看護援助論 II の具体的な精神看護の展開の学びにつなげる。	
留意事項（履修条件他）		
精神保健看護学概論の学びをふまえること。自らの精神状態のアセスメントを行い、主体的に学ぶこと。		
教材		
書名：瀧川薰編 精神保健看護学 オーム社 2013年 2700円		
授業計画（8回）および予習・復習内容		
回	内 容	学習課題（予習・復習内容）
1	対人関係論と精神看護1（松浦）	① 1章(pp. 6-10)、5章(pp. 87-89, 93-96)を読み、精神看護の対象の特性についてある程度予習をしておくこと。 ② 配布資料、①部分
2	対人関係論と精神看護2（松浦）	① 5章(pp. 87-89, 93-96)、10章(pp. 205-211)を読み、対象の人権への配慮も含めた患者看護師関係のあり方について、考えてみること。 ② 配布資料、①部分
3	精神状態のアセスメントとコミュニケーション技術（郷良）	① 3章(pp. 32-50)を読み、代表的な精神障害の諸症状についてある程度予習をしておくこと。 ② 配布資料、①部分
4	精神看護における面接：コミュニケーションが困難な人へのアプローチ（三浦、郷良）	① 6章(pp. 130-134)を読み、発達障害についてある程度予習をしておくこと。 ② 配布資料、①部分
5	精神看護における家族（郷良）	① 2章(pp. 16-21) 4章(pp. 62-63)を読み、家族が抱える問題についてある程度予習をしておくこと。 ② 配布資料、①部分
6	精神看護とグループ（郷良）	① 8章(pp. 166-170, 175-182)を読み、カウンセリングやSST、認知行動療法についてある程度予習をしておくこと。 ② 配布資料、①部分
7	当事者の体験世界を知る：当事者の体験世界を知る精神科看護師の話（松浦）	レポート
8	リエゾン精神看護（松浦）	① 4章(pp. 59-70)について読み、リエゾン精神看護についてある程度予習をしておくこと。 ② 配布資料、①部分
評価方法 および評価基準		
試験 70% レポート 5%、授業におけるリアクションペーパーの内容 25%により評価。		
S：精神看護における援助方法を十分に説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる		
A：精神看護における援助方法を概ね説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる		
B：精神看護における援助方法を不十分ながら説明できる。グループワークにも誠実に取り組むことができる		
C：精神看護における援助方法を学ぶことができる。グループワークにも誠実に取り組もうと努力している		
D：Cのレベルに達していない		

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BL0101	家族看護論	2年/後期	1
担当教員		科目区分	
入江安子		専門科目-統合看護	

講義目的	<p>家族支援の基礎理論を理解し、その支援技術を学ぶ。学習目標： ①システムとしての家族を説明することができる ②家族看護に関する主な理論やモデルについて説明することができる ③患者家族と向き合うためのコミュニケーション技術を実施することができる ④家族看護の必要性について述べることができる</p>																													
授業内容	<p>授業内容は、①現代家族の理解 ②家族看護の諸理論の理解 ③家族看護の実際で構成する。①現代家族の理解では、現在家族の機能と形態の変化を捉え、現代家族における個別化について学ぶ ②家族看護の諸理論では、家族看護実践事例とつなげながらシステム理論、ストレスコーピング理論、強み理論等の家族看護の諸理論を説明し、理解を深める。また、それぞれの諸理論に家族看護実践における活用可能性と限界についても学ぶ。 ③家族看護の実際では、演習を取り入れ臨床場面における家族とのコミュニケーションの実際を体験する。またペーパーペイメントを通じて家族支援のアセスメント・介入について学び、家族看護の必要性を学ぶ。</p>																													
留意事項（履修条件他）	<p>集中講義 12/17（土）2-4限、1/7（土）2-4限、1/14（土）3-4限</p>																													
教材	<p>テキスト：山崎あけみ、原礼子編集、家族看護学 19の臨床場面と8つの実践事例から考える、2015年、南江堂、2484円 参考文献：その都度紹介</p>																													
授業計画および学習課題（予習・復習）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>学習課題（予習・復習）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代家族の理解</td> <td>今までの学習を参考に家族の定義を考える</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>家族看護の歴史と家族を看護の対象として捉える</td> <td>第IV章5 事例を熟読し、家族看護の対象を考える</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家族看護の諸理論（1）家族システム論 ジェノグラム・エコマップ</td> <td>第I章2 システムとしての看護を熟読する。 課題1「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「クレヨンしんちゃん」3作品の主人公家族のジェノグラムとエコマップを作成し、その違いを検討する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>家族看護の諸理論（2）家族発達理論</td> <td>第I章1 発達する家族を熟読する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>家族看護の諸理論（3）家族ストレスコーピング理論、強み理論</td> <td>第II章1 健康な家族の考え方を熟読する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族とのコミュニケーション技術を学ぶ①</td> <td>1年後期 看護コミュニケーションの復習（NURSEの技法）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族とのコミュニケーション技術を学ぶ②家族看護過程について</td> <td>事前配布事例を読み、家族とのコミュニケーション例を考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>家族看護の実際 がんターミナル患者の家族の事例</td> <td>事前配布事例を読み、家族看護過程を考える 課題1事例を通して家族看護の実際を考える</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	学習課題（予習・復習）	1	現代家族の理解	今までの学習を参考に家族の定義を考える	2	家族看護の歴史と家族を看護の対象として捉える	第IV章5 事例を熟読し、家族看護の対象を考える	3	家族看護の諸理論（1）家族システム論 ジェノグラム・エコマップ	第I章2 システムとしての看護を熟読する。 課題1「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「クレヨンしんちゃん」3作品の主人公家族のジェノグラムとエコマップを作成し、その違いを検討する	4	家族看護の諸理論（2）家族発達理論	第I章1 発達する家族を熟読する。	5	家族看護の諸理論（3）家族ストレスコーピング理論、強み理論	第II章1 健康な家族の考え方を熟読する	6	家族とのコミュニケーション技術を学ぶ①	1年後期 看護コミュニケーションの復習（NURSEの技法）	7	家族とのコミュニケーション技術を学ぶ②家族看護過程について	事前配布事例を読み、家族とのコミュニケーション例を考える	8	家族看護の実際 がんターミナル患者の家族の事例	事前配布事例を読み、家族看護過程を考える 課題1事例を通して家族看護の実際を考える
回	内 容	学習課題（予習・復習）																												
1	現代家族の理解	今までの学習を参考に家族の定義を考える																												
2	家族看護の歴史と家族を看護の対象として捉える	第IV章5 事例を熟読し、家族看護の対象を考える																												
3	家族看護の諸理論（1）家族システム論 ジェノグラム・エコマップ	第I章2 システムとしての看護を熟読する。 課題1「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「クレヨンしんちゃん」3作品の主人公家族のジェノグラムとエコマップを作成し、その違いを検討する																												
4	家族看護の諸理論（2）家族発達理論	第I章1 発達する家族を熟読する。																												
5	家族看護の諸理論（3）家族ストレスコーピング理論、強み理論	第II章1 健康な家族の考え方を熟読する																												
6	家族とのコミュニケーション技術を学ぶ①	1年後期 看護コミュニケーションの復習（NURSEの技法）																												
7	家族とのコミュニケーション技術を学ぶ②家族看護過程について	事前配布事例を読み、家族とのコミュニケーション例を考える																												
8	家族看護の実際 がんターミナル患者の家族の事例	事前配布事例を読み、家族看護過程を考える 課題1事例を通して家族看護の実際を考える																												
評価方法 および評価基準	<p>平常点(授業への参加状況、プレゼンテーションなど)30%、レポート30%、試験40%により評価する。</p> <p>S (100~90点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルについて十分に説明でき、その諸理論を選択しながらコミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことができる</p> <p>A (89~80点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルについて概ね説明でき、その諸理論を選択しながらコミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことができる。</p> <p>B (79~70点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルの説明と諸理論の選択について不十分な点もあるが、コミュニケーション技術を用いて家族と向き合うことに誠実に対応できる。</p> <p>C (69~60点) : 家族看護に必要な諸理論やモデルのについて考えることができ、コミュニケーション技術を用いて家族と向き合おうと努力している</p> <p>D (60点未満) : Cのレベルに達していない</p>																													

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BL0201	看護過程	2年/前期	1
担当教員			科目区分
篠崎恵美子 内藤直子 三浦藍 伊藤千晴 山口貴子 大林実菜		専門科目	統合看護

講義目的

看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導けるようにクリティカルに考えることを目指す。具体的には以下のとおりである。

1. 看護過程の概念と基本的知識について理解する
2. 看護過程のプロセスについて理解する
3. NANDA-I を使用して事例に対し、看護過程の展開を通して対象に有効な看護介入・成果の選択、計画立案を理解する
4. 実際の看護過程を通して、クリティカルシンキングを理解する

授業内容

看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導けるようにクリティカルに考えることができるように授業と演習を展開する。看護の対象に有効な看護介入と成果を選択し、実践可能な計画を立案し、看護の対象との関わりで得たことを客観的に言語化した記録と伝達できるように学修する。対象によって異なる理論を用いて看護過程を展開することを理解し、その展開方法の導入とする。

留意事項（履修条件他）

看護過程では、既に学修した「看護学概論Ⅰ」「看護コミュニケーション論」「生活援助方法論」「生活援助方法演習」「診療援助方法論」「診療援助方法演習」などの知識と技術が必要となる。さらにこの科目履修後に開講される臨地実習「基礎看護学実習Ⅱ」において学修した内容を実際の患者に実践する。また、模擬患者参加型演習を行い、個別に看護過程の展開を経験する。したがって常に主体的に参加し、問題意識を明確にして授業に出席することを求める。

教材

1. NANDA-I 看護診断（最新版）医学書院
2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（最新版），江川隆子，HIROKAWA.
3. 看護診断・共同問題によるすぐに役立つ標準看護計画，（最新版），鶴田早苗，照林社.
4. 「あっ！ そうかロイとゴードンの母性小児看護過程 11 事例」（改訂版），内藤直子他、ふくろう出版.

授業計画および学習課題（予習・復習）

回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	看護過程の概念と基本的知識 看護過程とは	看護学概論 p172-179 を再読し、看護過程の役割と過程を理解する
2	看護過程の概念と基本的知識 看護過程の基本的知識	看護の視点とアセスメントの枠組みを理解する
3	看護過程と記録	看護における情報の記録に関する法・記録の構成要素・看護過程における記録の書き方を理解する
4	紙上事例ガイドンス・事例紹介・フェイスシートの書き方	復習：事例を理解する・フェイスシートを作成する
5	病態関連図	予習：脳梗塞について調べる 復習：紙上事例の病態関連図を作成する
6	情報の整理と看護問題の気づき（ゴードンの機能的健康パターン）	予習：ゴードンの機能的健康パターンを理解する 復習：事例による情報を整理する
7	情報の整理と看護問題の気づき（ゴードンの機能的健康パターン）	復習：情報の整理と看護問題の気づき
8	情報の整理と看護問題の気づき（ゴードンの機能的健康パターン）	復習：情報の整理と看護問題の気づき
9	フォーカスアセスメント・看護診断	予習：NANDA-I 看護診断について 復習：事例を展開する
10	フォーカスアセスメント・看護診断	復習：事例を展開する
11	看護計画の立案・優先順位と目標設定の考え方	復習：事例を展開する
12	看護計画の立案	復習：事例を展開する
13	看護計画の実施と評価	復習：事例を展開し完成する
14	事例紹介・ロイ適応モデルの4様式による情報整理とアセスメント・病態関連図の考え方	予習：ロイモデルの構成要素と事例を再読し理解する 復習：事例の情報を理解する。教材 4 の p8-18, 38-45

15 オレムのセルフケア不足看護理論	セルフケア不足看護理論の枠組みについて理解する
評価方法 および評価基準	
期末試験 50%、課題レポート 50%	
S (100~90 点) : 看護過程に必要な知識と技術を十分に活用することができ、また正しい看護診断が導けるように十分にクリティカルに考えることができる	
A (89~80 点) : 看護過程に必要な知識と技術を活用することができ、また正しい看護診断が導けるようにクリティカルに考えることができる	
B (79~70 点) : 看護過程に必要な知識と技術を概ね活用することができ、また正しい看護診断が導けるように概ねクリティカルに考えることができる	
C (69~60 点) : 看護過程に必要な知識と技術を不十分であるか活用することができ、また正しい看護診断を導けるようにクリティカルに考えようと努力している	
D (60 点未満) : Cのレベルに達していない	

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BL0301	ヘルスアセスメント I	2年/後期	2
担当教員		科目区分	
篠崎恵美子 伊藤千晴 服部美穂 山口貴子 大林実菜		専門科目-統合看護	

講義目的		
看護の対象に対して必要な看護を実践するために、対象を系統的に観察し身体的側面からとらえることができる能力の修得を目指す。具体的には以下の能力を目指す。		
<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントとは何か、看護になぜ必要かを理解する。 フィジカルイグザミネーションに必要な技術を学び実践する。 系統的フィジカルイグザミネーションが実践する。 フィジカルイグザミネーションで得られた情報から、看護の対象者の生活行動における問題点を判断する。 		
授業内容		
ヘルスアセスメントは、看護の対象を身体的側面からとらえるために系統的に観察し、対象に必要な看護へと導くための重要な位置づけである。この科目では、ヘルスアセスメントの一つのアセスメントツールであるフィジカルアセスメントについて、身体を系統的に観察し、アセスメントするための知識と技術を講義および演習を通して学修する。		
留意事項（履修条件他）		
看護専門領域の基礎となる科目である。既習の解剖生理学Ⅰ A B・Ⅱ A B、生化学、栄養学、微生物学での履修内容が重要となる。したがって、十分な事前学習、復習を必須とする。		
教材		
指定図書：・ベイツ診察法第2版、福井次矢、井部俊子、山内豊明日本語版監修：メディカル・サイエンス・インターナショナル、2015、9000円		
参考図書：・フィジカルアセスメント完全ガイド第2版：藤崎郁、学習研究社、2012、3990円		
授業計画および学習課題（予習・復習）		
回	内 容	学習課題（予習・復習）
1	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメントとは何かを言語化する 課題1（現時点で考える看護について）
2	フィジカルアセスメントの目的、フィジカルイグザミネーション	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションを理解する
3	スクリーニング（基本情報の聴きとり、一般状態の観察）	スクリーニングの内容を理解する
4	スクリーニング 演習	スクリーニングの方法を理解する
5・6	系統的フィジカルアセスメント 呼吸器系	呼吸器系の解剖生理学を復習する
7・8	系統的フィジカルアセスメント 呼吸器系 演習	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの方法を理解する
9・10	系統的フィジカルアセスメント 循環器系	循環器系の解剖生理学を復習する
11・12	系統的フィジカルアセスメント 循環器系 演習	循環器系のフィジカルイグザミネーションの方法を理解する
13・14	系統的フィジカルアセスメント 筋・骨格系	筋・骨格系の解剖生理学を復習する
15・16	系統的フィジカルアセスメント 筋・骨格系 演習	筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの方法を理解する
17・18	系統的フィジカルアセスメント 神経系	神経系の解剖生理学を復習する
19・20	系統的フィジカルアセスメント 神経系 演習	神経系のフィジカルイグザミネーションの方法を理解する
21・22	系統的フィジカルアセスメント 腹部・消化器系	腹部・消化器系の解剖生理学を復習する
23・24	系統的フィジカルアセスメント 腹部・消化器系 演習	腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの方法を理解する
25	系統的フィジカルアセスメント 腎・泌尿器・生殖器系	腎・泌尿器・生殖器系の解剖生理学を復習する
26	系統的フィジカルアセスメント 腎・泌尿器・生殖器系 演習	腎・泌尿器・生殖器系のフィジカルイグザミネーションの方法を理解する
27・28	技術の確認/症状徴候からのアセスメント	学んだフィジカルイグザミネーションが正しい方法でできるようにする
29・30	生活行動の問題点を判断するためのアセスメント	アセスメントの視点を理解する

評価方法 および評価基準	
期末試験 50 %、技術チェック 50%	
S (100~90 点) :	ヘルスアセスメントの基本的知識を修得し、フィジカルイグザミネーションを正しい方法で適切に実施できる
A (89~80 点) :	ヘルスアセスメントの基本的知識を概ね理解し、フィジカルイグザミネーションを正しい方法で実施できる
B (79~70 点) :	ヘルスアセスメントの基本的知識がわかり、フィジカルイグザミネーションを概ね実施できる
C (69~60 点) :	ヘルスアセスメントの基本的知識を知り、フィジカルイグザミネーションをなんとか実施できる
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BM0101	基礎看護学実習 I	1年/前期	1
担当教員			科目区分
篠崎恵美子 伊藤千晴 服部美穂 山口貴子 大林実菜		専門-臨地実習	

実習目的

基礎看護学実習 I は、保健・医療の患者との関わりの実際を見学し、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機付けとすることをねらいとしている。また、看護専門職者に求められる基本的な態度を習得する。この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面ももつ。

具体的な目標は以下のとおりである。

1. 保健・医療の分野における看護職者の役割と看護の機能を説明できる。
2. 看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた行動ができる。

学生は医療施設において、看護活動（①日常生活行動への援助 ②診療への援助）の見学、および対象者をとりまく療養環境の概要を把握し、看護職者の役割と看護の機能について学ぶ。さらに実習で関わる全ての人たちに、看護学生として他者を重んじた行動をとることで、看護専門職者に求められる基本的な態度についても学ぶ。

実習方法

基礎看護学実習 I は、実習オリエンテーション、事前学習、病院実習、実習成果報告会で構成される。

1. 実習施設は、病院を使用する。
2. 実習場所は、病院の成人系の病棟とする。
3. 学生を 16 グループ（95 名を 1 グループ 5~6 人）にわける。
1 人の教員は、同一施設の 2 グループを受け持つものとする。
4. 学生 1 人当たりの実習期間は、病院で 4 日（オリエンテーション含む）、学内での体験報告会 1 日とする。
5. 実習方法は、次のとおりとする。

- 1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習手引きに沿って説明する。
また、各実習施設のオリエンテーションを行う。担当は教員。

- 2) 事前学習として以下の 2 点に取り組む。

- ①実習施設の特徴 ②実習に向けて自己の課題

- 3) 病院実習では以下の内容を行う。

- ①施設オリエンテーション：実習施設の概要（病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と他職種の連携など）の説明を受ける。担当は病院の教育担当者。

- ②施設見学：様々な看護活動の場、患者を取り巻く環境として、施設内にはどのような関連部門があるのか、どのような職種の人々が働いているのか、また構造や環境面で患者にどのような配慮や工夫がなされているのかを知る。担当は病院の教育担当者および臨地実習指導者。

- ③病棟オリエンテーション：実習グループにわかれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者。

- ④シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動（シャドーイング）し、看護師の行う看護実践を見学する。
担当は臨地実習指導者および病棟看護師。

- ①②③④の学修活動をとおして、学生は看護の対象者を取り巻く療養環境について概要を把握し、看護職者の役割および看護の機能について考察する。

- ⑤学生振り返り：実習グループごとに病院実習での学びを共有する。担当は教員と臨地実習指導者。

- 4) 実習成果報告会は以下の内容を行う。

- 学内にて、異なる実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習 I における自己の体験を多面的・客観的に捉えなおす。また自己の今後の課題を見出すことを目的に行う。具体的には、異なる実習グループで体験報告会を行い、クラス全体で実習成果報告会を行う。担当は教員および臨地実習指導者。

留意事項（履修条件他）

履修要件：看護学概論 I・II の失格者ではないこと。

- ・実習期間、すべての出席を原則とする。
- ・実習（病院実習、帰学日）時間の 4/5 に満たない場合は、単位認定できない。
- ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。

教材

実習計画および学習課題（予習・復習）

実習期間：8月1日～5日

実習場所：1) 半田市立半田病院 2) 名古屋第一赤十字病院 3) 名古屋大学医学部附属病院

実習計画： (午前) (午後)

月 〈病院〉 ①施設オリエンテーション ②施設見学 〈病院〉 ③病棟オリエンテーション ④学生振り返り

火 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 ②学生振り返り

水 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 ②学生振り返り

木 〈病棟実習〉 ①シャドーイング実習 〈病院〉 ①シャドーイング実習 ②学生振り返り

金 実習成果報告会 ①グループの体験報告 ②クラス全体の実習成果報告会 ③個人のまとめ

評価方法 および評価基準

出席状況、実習記録、実習態度を総合して実習指導教員・単位認定者が行う。

S (100~90 点) : 目標を十分に達成できている。

A (89~80 点) : 目標を概ね達成できている。

B (79~70 点) : 不十分な点はあるが、目標を達成できている。

C (69~60 点) : 目標を最低限達成できている。

D (60 点未満) : Cのレベルに達していない。

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BM0201	基礎看護学実習Ⅱ	2年/後期	2
担当教員			科目区分
篠崎恵美子 伊藤千晴 服部美穂 山口貴子 大林実菜		専門科目-臨地実習	

実習目的

基礎看護学実習Ⅱは、これまでの講義や演習で学んだ看護過程を構成する基本的要素に関する知識とその応用を、臨床の場で活用し、その記録を作成することによって、断片的になりがちな知識と技能を統合することをねらいとしている。学生は、医療施設において看護過程を展開する。成人・老年期の患者を1名受持ち、実習を行う。

具体的な目標は以下のとおりである。

1. コミュニケーション技法など学んだ知識と技能を使用し、対象者と良好な人間関係を築くことができる。
2. フィジカルアセスメント技法など学んだ知識と技能を使用し、対象者の状態を把握し、必要な援助を判断する。
3. 対象者の個別性を考慮した生活行動の援助計画を立案し、実施、評価する。

実習方法

基礎看護学Ⅱは、実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、シャドーイング実習、看護過程展開実習、実習成果報告会で構成される。

1. 実習施設は、病院を使用する。
2. 実習場所は、成人・老年期にある入院患者を主とする病棟とする。
3. 学生は、17グループ（1グループ6人）で実習する。
4. 学生1人当たりの実習期間は、2週間の集中実習とする。
5. 実習方法は、次のとおりとする。
 - 1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習の手引きに沿って説明する。また、各施設のオリエンテーションを行う。担当は教員。
 - 2) 病院実習では以下の内容を行う。
 - ① 施設オリエンテーション：実習施設の概要（病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と他職種の連携など）の説明を受ける。担当は各実習施設の代表者。
 - ② 病棟オリエンテーション：実習グループにわかれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者。
 - ③ シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動（シャドーイング）し、看護師の行う看護実践を見学する。担当は臨地実習指導者および病棟看護師。
 - ④ 看護過程実習：1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連の流れを経験する。看護過程の展開における思考過程の指導は、教員が実習指導者と連携して行い、実施・評価についての指導・監督は病棟看護師および臨地実習指導者が行う。
 - ⑤ 学生カンファレンス：グループごとに施設実習での学びを報告し、共有する。担当は教員と臨地実習指導者。
 - 3) 実習成果報告会は以下の内容を行う。

学内にて、異なる実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習Ⅱにおける自己の体験を多面的・客観的に捉えなおす。また自己の今後の課題を見出すことを目的に行う。具体的には、異なる実習グループで体験報告会を行い、クラス全体で実習成果報告会を行う。担当は教員および臨地実習指導者。

留意事項（履修条件他）

履修要件：基礎看護学実習Ⅰ、生活援助方法論、生活援助方法演習、診療援助方法論、診療援助方法演習、看護コミュニケーション論、看護過程の単位を修得しており、ヘルスアセスメントⅠの失格者ではないこと。

- ・ 実習期間、すべての出席を原則とする。
- ・ 実習（病院実習、帰学日）時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。
- ・ 実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。

教材

実習計画および学習課題（予習・復習）

実習期間：平成29年2月13日～24日

実習場所：1) 名古屋第一赤十字病院 2) 刈谷豊田総合病院 3) 八千代病院 4) 名古屋大学医学部付属病院

実習計画：

1週目	（午前）	（午後）
月 〈病院実習〉 ①施設オリエンテーション ②病棟オリエンテーション		〈病棟実習〉 ③シャドーイング ④学生カンファレンス
火 〈病棟実習〉 ①看護過程展開・看護ケアの見学		〈病棟実習〉 ①看護過程展開・看護ケアの見学 ②学生カンファレンス
水 〈病棟実習〉 ①看護過程展開・看護ケアの見学		〈病棟実習〉 ①看護過程展開・看護ケアの見学 ②学生カンファレンス
木 〈大学〉 ①看護過程展開		〈大学〉 ①看護過程展開
金 〈病棟実習〉 ①看護過程展開・看護ケアの見学		〈病棟実習〉 ①看護過程展開・看護ケアの見学 ②学生カンファレンス

2週目	(午前)	(午後)
月 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
火 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
水 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
木 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 〈病棟実習〉	①看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ②学生カンファレンス
金 〈大 学〉 実習成果報告会	①グループの体験報告 ②全体での実習成果報告会 ③個人のまとめ	
評価方法 および評価基準		
出席状況、実習記録、実習態度を総合して実習指導教員・単位認定者が行う。		
S (100~90 点) :	目標を十分に達成できている。	
A (89~80 点) :	目標を概ね達成できている。	
B (79~70 点) :	不十分な点はあるが、目標を達成できている。	
C (69~60 点) :	目標を最低限達成できている。	
D (60 点未満) :	Cのレベルに達していない。	

授業コード	授業科目名	配当学年/学期	単位数
BM0801	在宅高齢者看護学実習	2年/前期	1
担当教員		科目区分	
臼井キミカ 安藤純子 石井英子 甲村朋子 櫻井香 川上友美		専門科目-臨地実習	

実習目的

- 在宅高齢者との交流を通して、在宅で暮らす高齢者や介護している家族の思いを理解する。
- 在宅高齢者の支援に必要な各種技術や看護活動の場と、各種社会資源の実際を体験し、高齢者が生きてきた時代背景を深く理解する。
- 加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補助する機器・物品の使用体験を通して高齢者の自立支援への知識を深める。
- 介護家族の介護負担軽減を目的とした各種介護・福祉用具の使用方法と留意点を知る。

実習方法

在宅高齢者看護学実習は、学内実習オリエンテーション、事前・事後学習、施設実習（カンファレンスを含む）、学習成果発表会で構成される。

- 実習施設は、通所リハビリテーション施設または通所介護施設、回想センター、福祉用具施設を使用する。
- 学内実習オリエンテーションが1日、通所リハビリテーション施設または通所介護施設で1日、回想センターで1日、福祉用具施設で1日、学内で学習成果発表会を1日行う。
- 通所リハビリテーション施設または通所介護施設での実習は、1グループの学生数を5~6名とする。
- 回想センターと福祉用具施設での実習は、1グループの学生数を24~34名程度とする。

留意事項（履修条件他）

高齢者看護学概論の失格者ではないこと。

教材

- 書名：看護学テキスト NICE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 著者名：正木治恵、真田弘美編 出版社・出版年：南江堂・2011年 価格：3,024円
- 書名：看護学テキスト NICE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 著者名：真田弘美、正木治恵編 出版社・出版年：南江堂・2011年 価格：3,456円

実習計画および学習課題（予習・復習）

実習期間：8月1日～5日

実習場所：

【通所リハビリテーション施設】

愛生館コバヤシヘルスケアシステム 老人保健施設ひまわりデイケア
 医療法人杏園会 かなやま通所リハビリテーション
 医療法人珪山会 介護老人保健施設 第一若宮
 医療法人純生会 介護老人保健施設 太陽、
 医療法人メディフォー 介護老人保健施設 メディケア栄
 医療法人利靖会 介護老人保健施設キュア北崎 通所リハビリテーション
 老人保健施設 瑞穂

【通所介護施設】

シニアフィットネスデイサービス歩きま笑
 社会福祉法人会長福会 ディパーク大府 デイサービスセンター
 南医療生活協同組合 デイサービスきままでんぐ苑

【回想センター】

北名古屋市 回想法センター、旧加藤家住宅、昭和日常博物館

【福祉用具施設】

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 なごや福祉用具プラザ

実習計画：

【学内実習オリエンテーション1日】

- ・実習の目的、目標、方法等のオリエンテーション
- ・各施設の概要等のオリエンテーション
- ・各グループでの実習準備

【通所リハビリテーション施設(デイケア)または通所介護施設(デイサービス)での実習1日】

- ・施設の概要についてのオリエンテーション
- ・施設内の設備等の見学
- ・看護職員等の役割と業務、利用者である在宅高齢者に対する支援を見学
- ・看護職員以外の役割と業務、利用者である在宅高齢者に対する支援を見学
- ・利用者である在宅高齢者との交流

学習課題

- ・利用者である在宅高齢者との交流を通して、高齢者を理解できる。
- ・疾病や障害を抱えて生きる在宅高齢者の思いを理解できる。
- ・利用者である在宅高齢者を介護している家族の思いを理解できる(連絡帳等)。
- ・利用者である在宅高齢者の支援に必要な各種技術について理解できる。
- ・利用者である在宅高齢者への看護活動の場を理解できる。

【福祉用具施設での実習1日】

- ・施設の概要についてのオリエンテーション
- ・福祉用具施設の見学
- ・福祉用具の使用および体験
- ・高齢者への支援の方法を見学

学習課題

- ・加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補助する機器・物品の使用体験をすることで補助具の説明ができる。
- ・高齢者の自立の支援への知識を深める。
- ・介護家族の介護工夫を目的とした各種介護・福祉用具の使用方法と留意点を知る。

【回想センターでの実習1日】

- ・センターの概要についてのオリエンテーション
- ・センター内の見学
- ・回想物品等の使用および体験

学習課題

- ・各種社会資源の実際を体験し、高齢者が生きてきた時代背景を深く理解できる。

【学習成果発表会1日】

- ・グループ討議
- ・発表
- ・実習記録の提出(翌週月曜日の13時締め切り)

学習課題

- ・他者の意見を尊重しつつも自身の考えを伝えることができる。
- ・学びの内容と制度等を関連付けて説明できる。
- ・学びを共有することで、自己の学びを深めることができる。
- ・意見等を要約し、発表することができる。

評価方法 および評価基準

実習記録 60%、出席状況 20%、参加態度 20%

- S (100~90点) : 課題に積極的に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明することができ、他者に理解できるように実習記録用紙へ記述することができた。
- A (89~80点) : 課題に積極的に取り組み、実習目的の各項目を理解して説明することができ、実習記録用紙へ記述することができた。
- B (79~70点) : 課題に積極的に取り組み、実習目的の各項目を理解することができ、不十分であるが実習記録用紙へ記述することができた。
- C (69~60点) : 課題に取り組み、実習目的の内容を理解することができた。
- D (60点未満) : Cのレベルに達していない